

基礎資料集

2023

目 次

第1章 大学の使命・目的	4
1 目的	
(1) 愛知教育大学憲章	
(2) ミッションの再定義	
(3) アドミッション・ポリシー	
カリキュラム・ポリシー	
ディプロマ・ポリシー	
2 愛知教育大学 未来共創プラン	4
3 中期目標・中期計画	4
4 沿革	4
第2章 管理運営体制	
1 運営組織(役員名簿)	4
2 教育組織	4
3 研究組織(教員組織)	4
4 事務組織	4
第3章 大学教員・教育支援者の構成	
1 大学教員	5
(1) 専任教員	
(2) 本務教員	
2 事務職員	6
(1) 現員数	
(2) 研修状況	
第4章 教育活動	
1 学生の受入	8
(1) 入学者選抜の実施状況	
2 学生数	10
(1) 在籍者数	
(2) 定員の充足状況	
(3) 休学者数、退学者数、除籍者数、留年者数	
(4) 卒業者数、修了者数	
3 教育課程	16
(1) 単位認定の実施状況	
(2) インターンシップの実施状況	
(3) 子どもキャンパスプロジェクトの実施状況	
(4) 教科横断探求コース	
(5) 教員免許取得プログラム	
4 学習成果	21
(1) 教育職員免許状及び保育士の資格取得状況	
5 学生支援	22
(1) 相談体制	
(2) 修学支援	
(3) 経済支援	
(4) 生活支援	
6 学生生活	28
(1) 課外活動の状況	
(2) 大学祭、子どもまつり開催状況	
7 卒業者・修了者の進路・就職の状況	29
(1) 進路・就職状況	
(2) 教員就職の状況	
8 FD活動	31
9 未来基金を活用した活動	32

第5章 研究活動	
1 学長裁量経費等の採択状況	34
2 外部研究資金獲得状況	36
(1) 科学研究費助成事業	
(2) 受託研究、共同研究、受託事業	
(3) 寄附金	
3 研究成果の公表とその現状	38
(1) 研究者総覧システム	
(2) 学術情報リポジトリ	
(3) 愛知教育大学出版会	
(4) アカデミックカフェの実施	
第6章 地域連携・社会貢献	
1 公開講座	39
2 教員研修	39
3 非正規学生の受入状況	39
4 相談事業	40
(1) こころの支援研究部門	
(2) そだちの支援研究部門	
5 ボランティア活動	41
6 教育機関等との連携・協定	41
第7章 国際交流	
1 留学生の受入状況	42
(1) 外国人留学生在籍者	
(2) 留学生支援	
2 在学生の海外留学	43
3 国際学術交流協定締結校	44
(1) 締結状況	
(2) 単位互換	
(3) 研究者等の受入状況	
4 大学間交流行事	45
5 外国人教員の採用状況	46
第8章 附属施設の概要	
1 附属図書館	47
2 教職キャリアセンター	49
(1) 教科教育学研究部門	
(2) 教育支援専門職研究部門	
(3) ICT活用等普及推進統括部門	
(4) 教員研修部門	
3 教育研究創成センター	52
(1) 実践教育研究部門	
(2) FD開発部門	
4 教育臨床総合センター	53
5 国際交流センター	53
6 地域連携センター	54
(1) 委員委嘱及び講師派遣依頼	
(2) 協定の締結状況	
(3) 公開講座	
(4) 高校訪問授業	
(5) その他の実施イベント	
(6) 発行物	
7 科学・ものづくり教育推進センター	55
(1) 科学ものづくりフェスタ	
(2) 訪問科学実験	
(3) ものづくり教室	
(4) その他の実施イベント	
8 健康支援センター	57

9 ICT教育基盤センター	57
10 キャリア支援センター	58
(1) 支援体制		
(2) 支援プログラム		
11 日本語教育支援センター	59
(1) 外国人児童生徒学習支援への学生派遣		
(2) センター主催研修会		
(3) 委員委嘱及び講師派遣依頼		
(4) 教材一覧		
(5) その他の実施イベント		
12 インクルーシブ教育推進センター	62
第9章 附属学校	
1 附属学校の活動状況	63
附属学校部の組織図、附属学校規模		
(1) 附属幼稚園		
(2) 附属名古屋小学校		
(3) 附属岡崎小学校		
(4) 附属名古屋中学校		
(5) 附属岡崎中学校		
(6) 附属高等学校		
(7) 附属特別支援学校		
2 今年度の取組状況	83
(1) 教育課題、研究活動		
(2) 連携事業		
(3) 教職員の安全対策向上を図る取組状況		
第10章 施設・設備	
1 施設整備の状況	85
(1) 教育研究活動に必要な施設・設備の状況		
(2) 耐震化等の整備状況		
(3) 自主的学習環境スペースの整備状況		
(4) ICT環境の整備状況		
2 中期的視点における施設整備計画	90
3 その他の施設・設備	91
第11章 財務状況	95
第12章 自己点検評価及び教育情報の公表	
1 自己点検評価	95
2 評価結果に対する改善	95
3 教育情報の公表状況	95
第13章 危機管理	
1 危機管理に対する整備状況	95
(1) 防災ハンドブック		
(2) 緊急地震速報システム		
(3) 安否確認システム		

別添資料

- 愛知教育大学 大学概要2023–2024
- 愛知教育大学未来共創プラン リーフレット
- 愛知教育大学 キヤンパスマスターープラン2022
- 愛知教育大学 インフラ長寿命化計画(行動計画)(令和3年度～令和7年度)
- 愛知教育大学 インフラ長寿命化計画(個別施設計画 2022)
- 令和4事業年度 財務諸表

第1章 大学の使命・目的

1 目的

(1) 愛知教育大学憲章

本学ウェブサイト参照

<https://www.aichi-edu.ac.jp/intro/outline/charter.html>

(2) ミッションの再定義

本学ウェブサイト参照

https://www.aichi-edu.ac.jp/intro/files/mission_sheet_140430.pdf

(3) アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー

本学ウェブサイト参照

アドミッション・ポリシー <https://www.aichi-edu.ac.jp/intro/outline/policy.html>

カリキュラム・ポリシー <https://www.aichi-edu.ac.jp/intro/outline/policy.html>

ディプロマ・ポリシー <https://www.aichi-edu.ac.jp/intro/outline/policy.html>

2 愛知教育大学 未来共創プラン

別添資料「愛知教育大学未来共創プラン リーフレット」を参照

3 中期目標・中期計画

本学ウェブサイト参照（第4期中期目標期間「法人評価」の表中、「中期目標・中期計画」）

<https://www.aichi-edu.ac.jp/intro/corporative/hyoka.html>

4 沿革

別添資料「愛知教育大学 大学概要2023-2024」の「沿革」を参照

第2章 管理運営体制

1 運営組織（役員名簿）

別添資料「愛知教育大学 大学概要2023-2024」の「役職員」を参照

2 教育組織

別添資料「愛知教育大学 大学概要2023-2024」の「組織（教育組織）」を参照

3 研究組織（教員組織）

別添資料「愛知教育大学 大学概要2023-2024」の「組織（研究組織）」を参照

4 事務組織

別添資料「愛知教育大学 大学概要2023-2024」の「組織（事務組織）」を参照

第3章 大学教員・教育支援者の構成

1 大学教員

(1) 専任教員

ア 教育学部

令和5年5月1日現在 (単位:人)

課程	大学設置基準上の 必要教員数	専任教員数							入学 定員	教員1人 当たり 学生数
		特別 教授	教授	特別 准教授	准教授	講師	助教	計		
学校教員養成課程	27	11	77	0	55	11	7	161	729	4.5
教育支援専門職養成課程	9	1	11	0	10	3	1	26	130	5.0
全収容定員に応じた教員数	33	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	69	12	88	0	65	14	8	187	859	4.6

* 特別支援教育特別専攻科担当教員を含む。

イ 大学院教育学研究科 (教育実践高度化専攻)

令和5年5月1日現在 (単位:人)

専攻	専門職大学院設置基準上の 必要教員数			専任教員数						入学 定員	教員1人 当たり 学生数
				教授	准教授	講師	みなし 専任	計	実務家		
	教授	実務家	計	教授	准教授	講師	みなし 専任	計	実務家		
教育実践高度化専攻	19人以上	15人以上	37	32	16	1	0	49	20	120	2.4
	うち、みなし専任10人以内										
うち、専任算入教員（専他教員） ※29人以内+現員-37人			26	13	1	0	40	11	-	-	-

ウ 大学院教育学研究科 (教育支援高度化専攻、共同教科開発学専攻)

令和5年5月1日現在 (単位:人)

専攻	大学院設置基準上の必要教員数			基準計	専任教員配置状況			入学 定員	研究指導教員 1人当たり学 生数
	研究指 導教員	研究指導 補助教員	計		研究指 導教員	研究指導 補助教員	計		
教育支援高度化専攻 (修士課程)	3	3	6	20	8	28	30	1.5	
共同教科開発学専攻 (後期3年のみの博士課程)	3	3	6	8	5	13	4	0.5	

(2) 本務教員

令和5年5月1日現在 (単位:人)

	合計			特別教授			教授			特別准教授			准教授			講師			助教			特別助手			助手			
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
教育組織	143	58	201	11	2	13	77	18	95				45	25	70	7	7	14	3	5	8				1	1		
教育学部	135	50	185	10	2	12	73	15	88				42	22	64	7	7	14	3	4	7							
大学院教育学研究科	6	3	9	1		1	3	2	5				2	1	3													
教職キャリアセンター	1	2	3										1	1	2										1	1		
健康支援センター	1	2	3				1	1	2				1	1														
日本語教育支援センター		1	1																								1	1
研究組織	143	58	201	11	2	13	77	18	95				45	25	70	7	7	14	3	5	8				1	1		
教育科学系	43	31	74	2	1	3	20	12	32				19	12	31	2	5	7		1	1							
人文社会科学系	29	9	38	3		3	13		13				8	6	14	4	1	5	1	1	2						1	1
自然科学系	42	4	46	3		3	27	1	28				10	2	12	1	1	2	1									
創造科学系	29	14	43	3	1	4	17	5	22				8	5	13				1	3	4							
全体に占める男女比 (%)	71.1	28.9																										

* 正規・常勤の大学教員(休職者・長期研修者含む)の人数を1つの主たる本務先に計上

複数の所属先への計上はない。

2 事務職員

(1) 現員数

令和5年5月1日現在 (単位:人)

	事務系職員 本務者（休職者等含む。代替職員は含まない。）																								
	合計		事務局長		部長		課長		副課長		参与		係長		主任		係員		その他						
	男女	計	男女	計	男女	計	男女	計	男女	計	男女	計	男女	計	男女	計	男女	計	男女	計					
合計	85	63	148		3	3	10	2	12	12	6	18	1	1	32	20	52	7	6	13	20	28	48	1	1
事務局長	(1)	(1)	(1)	(1)																					
事務局	1	1									1	1													
総務・企画部	30	20	50		1	1	4	4	5	3	8				14	6	20	1	2	3	5	9	14		
部長	1	1			1	1																			
総務課	3	4	7				1	1	1	1	2				2	2				1	1	2			
企画課	8	6	14				1	1	3	3					2	3	5	1	1	2	2	4			
広報課	2	2	4						1	1					1	1				1	1	2			
人事労務課	8	4	12				1	1	1	1					4	1	5	1	1	1	3	4			
附属学校課	2	2	4				1	1	1	1					1	1		1	1						
附属幼稚園																									
附属名古屋小学校	1	1	2												1	1				1	1				
附属岡崎小学校	1	1													1	1									
附属名古屋中学校	1	1													1	1									
附属岡崎中学校	1	1	2												1	1				1	1				
附属高等学校	1	1													1	1									
附属特別支援学校	1	1													1	1									
財務・学術部	29	19	48		1	1	3	1	4	3	3	6			10	7	17	4	4	8	8	4	12		
部長	1	1			1	1																			
財務課	10	6	16				1	1	1	1					3	3	6			5	3	8			
施設課	8	4	12				1	1	1	1	2				1	1	3	2	5	2	1	3			
学術研究支援課	3	1	4				1	1	1	1	2				1	1									
教育科学系担当係																									
人文社会科学系担当係	1	1													1	1									
自然科学系担当係	1	1													1	1									
創造科学系担当係	1	1													1	1									
図書館運営室	1	6	7						1	1					1	3	4	2	2						
地域連携課	3	2	5			1	1								1	1	2	1	1	1	1				
学務部	25	24	49		1	1	3	1	4	4	4				8	7	15	2	2	7	15	22	1	1	
部長	1	1			1	1																			
教務企画課	10	11	21				1	1	2	2					4	3	7			3	8	11			
学生支援課	4	7	11				1	1	1	1					1	2	3	1	1	4	4	1	1		
国際企画課	3	3													1	1				2	2				
キャリア支援課	5	1	6				1	1							2	2				2	1	3			
入試課	5	2	7				1	1	1	1					1	1	2	1	1	2	2				

* 本務者は正規・常勤の職員数。（休職者は含むが、それに伴う代替職員は含まない。） 職務等を兼ねる場合でも1つの主たる本務先のみに計上し、複数の所属先への計上は無い。

ただし、理事が兼務する事務局長は()で表示し、合計には集計しない。

* 人事交流者は、本学に籍のある者を計上（他大学等へ出向中であっても本学に籍がある者は計上し、交流受入者等で現に本学で勤務していても転出元に籍がある者は計上しない。）

* 代替職員は、産休・休職・育休・長期研修等に伴い採用された者で、正規・常勤の者を計上（代替職員の休職者は含まない。）

* 監査室は、総務課に含む。

* 副課長には、室長・専門員を含み、係長には、専門職員・専門職員（再雇用）を含む。

(2) 研修状況

令和5年度事務系職員研修状況（本学主催分）

研修会名	開催期間	研修形式	受講者数
令和5年度採用職員研修	R5/04/03 (月)	対面式	9人
令和5年度新人職員研修	R5/04/13 (木) – 09/30 (土)	対面式	5人
令和4・5年度若手職員研修（R5年開催分）	R5/04/01 (土) – 10/31 (火)	対面式	6人
新人職員向け法人文書研修	R5/04/21 (金)	対面式	5人
令和5年度法人文書管理研修（法人文書の電子的管理について）	R5/07/03 (月)	対面式	77人
英語eラーニング・オンライン英会話「Reallyenglish」	R5/07/03 (月) – 09/29 (金)	メディア形式	4人
科研費申請書類添削に係る事務SD研修	R5/07/24 (月) – 09/08 (金)	対面式	10人
TOEIC対策用 英語eラーニング教材「ALC NetAcademy Next」	R5/09/27 (水) – 03/08 (金)	メディア形式	2人
令和5年度個人情報保護セミナー	R5/10/13 (金) – 11/30 (木)	メディア形式	56人
広報SD研修「これからの大学広報に求められること」	R5/10/20 (金)	対面式	29人
令和5年度危機管理セミナー	R5/10/25 (水)	対面式	41人
令和5・6年度若手職員研修（R5年開催分）	R5/11/09 (木) – 03/31 (日)	対面式	6人
SD研修会「オンライン配信のための機器操作体験会」	R5/12/04 (月)	対面式	5人
全学FD「VUCAの時代の評価軸を考える」	R6/01/22 (月)	対面式	4人
全学FD・SD研修会 「愛知教育大学の魅力共創」	R6/02/22 (木)	対面式	26人
全学FD「障害のある学生への支援の在り方」	R6/03/07 (木)	対面式	10人
安全衛生委員会主催衛生管理者勉強会	R6/03/27 (水)	対面式	3人

第4章 教育活動

1 学生の受入

(1) 入学者選抜の実施状況

令和6年度教育学部入学者選抜

(単位：人)

区分	入学定員	志願者		受験者		合格者	入学者	充足率		
			倍率		倍率					
教育学部	859	3,022	(4)	3.51	2,003	(1)	2.33	944	907	105.6%
学校教員養成課程	729	2,557	(3)	3.50	1,727	(1)	2.37	791	773	106.0%
幼児教育専攻	30	113		3.77	79		2.63	30	30	100.0%
義務教育専攻	555	1,844	(3)	3.32	1,243	(1)	2.24	603	587	105.8%
学校教育科学専修	30	115	(1)	3.80	67	(1)	2.20	32	31	103.3%
生活・総合専修	10	30		3.00	27		2.70	11	11	110.0%
ICT活用支援専修	20	36		1.80	34		1.70	22	20	100.0%
日本語支援専修	23	70	(2)	2.96	43		1.87	25	24	104.3%
国語専修	60	201		3.35	139		2.32	64	63	105.0%
社会専修	71	202		2.85	134		1.89	78	76	107.0%
算数・数学専修	76	286		3.76	183		2.41	82	81	106.6%
理科専修	84	237		2.82	142		1.69	89	87	103.6%
音楽専修	30	109		3.63	71		2.37	32	31	103.3%
図画工作・美術専修	30	88		2.93	53		1.77	35	33	110.0%
保健体育専修	60	279		4.65	204		3.40	67	66	110.0%
ものづくり・技術専修	15	48		3.20	48		3.20	15	15	100.0%
家庭専修	30	108		3.60	67		2.23	34	33	110.0%
英語専修	16	35		2.19	31		1.94	17	16	100.0%
高等学校教育専攻	74	259		3.50	162		2.19	83	81	109.5%
国語・書道専修	10	37		3.70	26		2.60	13	13	130.0%
地歴・公民専修	9	34		3.78	22		2.44	9	9	100.0%
数学専修	14	68		4.86	42		3.00	15	15	107.1%
理科専修	24	69		2.88	42		1.75	27	26	108.3%
英語専修	17	51		3.00	30		1.76	19	18	105.9%
特別支援教育専攻	30	161		5.37	109		3.63	33	33	110.0%
養護教育専攻	40	180		4.50	134		3.35	42	42	105.0%
教育支援専門職養成課程	130	465	(1)	3.57	276		2.12	153	134	103.1%
心理コース	50	186		3.72	120		2.40	56	51	102.0%
福祉コース	20	65	(1)	3.20	30		1.50	23	20	100.0%
教育ガバナンスコース	60	214		3.57	126		2.10	74	63	105.0%

*全ての入試（前期、後期、総合型、学校推薦型、高大連携、帰国子女、外国人留学生）の合計で、第2年次編入学、

第3年次編入学は除く。（）は外国人留学生を示し、内数。

倍率は志願者、受験者に外国人留学生を含まない。充足率は入学者に外国人留学生を含む。

合格者、入学者に追加合格者を含む。

令和6年度第2年次編入学（学校教員養成課程）

(単位：人)

区分	募集人員	志願者		受験者		合格者	入学者
			倍率		倍率		
教育学部	8	12	1.50	12	1.50	7	5
学校教員養成課程	8	12	1.50	12	1.50	7	5
義務教育専攻	-	10		10		7	5
ICT活用支援専修	-	1		1		1	
算数・数学専修	-	4		4		2	1
理科専修	-	3		3		2	2
ものづくり・技術専修	-	2		2		2	2
高等学校教育専攻	-	2		2			
数学専修	-	1		1			
理科専修	-	1		1			

令和6年度大学院教育学研究科入学者選抜

(単位：人)

区分	入学定員	志願者		受験者		合格者	入学者	充足率
			倍率		倍率			
教育学研究科（本学分）	154	154 (10)	0.99	150 (10)	0.96	112 (10)	99 (8)	64.3%
専門職学位課程	120	95	0.79	93	0.78	77	69	57.5%
教育実践高度化専攻	120	95	0.79	93	0.78	77	69	57.5%
学校マネジメント	—	8		8		8	8	
教科指導重点	—	76		74		61	53	
児童生徒発達支援	—	4		4		4	4	
地域・教育課題解決	—	7		7		4	4	
修士課程	30	51 (8)	1.70	49 (8)	1.63	31 (8)	26 (6)	86.7%
教育支援高度化専攻	30	51 (8)	1.70	49 (8)	1.63	31 (8)	26 (6)	86.7%
臨床心理学	—	43		41		23	20	
教育ガバナンスキャリア	—							
日本型教育グローバル	—	8 (8)		8 (8)		8 (8)	6 (6)	
後期3年博士課程	4	8 (2)	1.50	8 (2)	1.50	4 (2)	4 (2)	100.0%
共同教科開発専攻	4	8 (2)	1.50	8 (2)	1.50	4 (2)	4 (2)	100.0%
愛知教育大学	4	8 (2)	1.50	8 (2)	1.50	4 (2)	4 (2)	100.0%

* () は外国人留学生を内数で示す。【グローバルコースの1人：二重国籍のため、志願者・受験者・合格者は留学生としてカウントし、入学者は留学生としてカウントしない（本学で定める留学生入学者に該当しない）】

博士課程の倍率は、志願者、受験者に外国人留学生を含まない。（教育学研究科の倍率には、博士課程の外国人留学生の志願者、受験者を除く。）充足率は入学者に外国人留学生を含む。

*志願者倍率(倍)=志願者÷入学定員（博士課程の志願者に外国人留学生を含まない。）

*入学定員充足率(%)=入学者÷入学定員（入学者に外国人留学生を含む。）

令和5年度大学院教育学研究科入学者選抜（秋季入学）

(単位：人)

区分	募集人員	志願者		受験者		合格者	入学者
			倍率		倍率		
教育学研究科（本学分）		1	—	1		1	1
専門職学位課程			—				
教育実践高度化専攻			—				
学校マネジメント			—				
教科指導重点			—				
児童生徒発達支援			—				
地域・教育課題解決			—				
修士課程		1	—	1		1	1
教育支援高度化専攻		1	—	1		1	1
日本型教育グローバル		1	—	1		1	1

*募集人員は募集要項に記載の人数、若干名募集の場合は空白。

令和6年度特別支援教育特別専攻科入学者選抜

(単位：人)

区分	入学定員	志願者		受験者		合格者	入学者	充足率
			倍率		倍率			
特別支援教育特別専攻科	30	38	1.27	35	1.17	32	27	90.0%
特別支援教育専攻（1次募集）	30	38	1.27	35	1.17	32	27	90.0%

*志願者倍率(倍)=志願者÷入学定員

*入学定員充足率(%)=入学者÷入学定員

2 学生数

(1) 在籍者数

令和5年5月1日 現在（単位：人）

	収容定員	在籍者数					社会人	うち教員	充足率
		計	1年	2年	3年	4年			
教育学部	3,458	3,726	901	908	901	1,016			107.8%
学校教員養成課程	2,203	2,311	767	775	769	—			104.9%
幼児教育専攻		93	31	31	31	—			
義務教育専攻		1,753	582	587	584	—			
高等学校教育専攻	2,203	241	81	81	79	—			
特別支援教育専攻		96	31	33	32	—			
養護教育専攻		128	42	43	43	—			
教員養成課程(旧)	735	866	—	—	—	866			117.8%
初等教育教員養成課程(旧)	455	520	—	—	—	520			114.3%
中等教育教員養成課程(旧)	210	267	—	—	—	267			127.1%
特別支援学校教員養成課程(旧)	30	34	—	—	—	34			113.3%
養護教諭養成課程(旧)	40	45	—	—	—	45			112.5%
教育支援専門職養成課程	520	544	134	133	132	145			104.6%
教育支援専門職養成課程	520	544	134	133	132	145			104.6%
現代学芸課程(旧)	—	5	—	—	—	5			—
現代学芸課程(旧)	—	5	—	—	—	5			—
教育学研究科（本学分）	312	243	106	122	15		85	61	77.9%
専門職学位課程：教職大学院	240	155	69	86	—	—	51	46	64.6%
教育実践高度化専攻	240	155	69	86	—	—	51	46	64.6%
修士課程	60	64	32	32	—	—	14	1	—
教育支援高度化専攻	60	61	32	29	—	—	12	0	101.7%
発達教育科学専攻(旧)	—	1	—	1	—	—	1	1	—
特別支援教育科学専攻(旧)	—	1	—	1	—	—	1	—	—
養護教育専攻(旧)	—	—	—	—	—	—	—	—	—
学校教育臨床専攻(旧)	—	—	—	—	—	—	—	—	—
理科教育専攻(旧)	—	—	—	—	—	—	—	—	—
芸術教育専攻(旧)	—	1	—	1	—	—	—	—	—
後期3年博士課程	12	24	5	4	15	—	20	14	200.0%
共同教科開発専攻 愛知教育大学	12	24	5	4	15	—	20	14	200.0%
教育実践研究科(旧教職大学院)	—	—	—	—	—	—	—	—	—
教職実践専攻(旧)	—	—	—	—	—	—	—	—	—
特別支援教育特別専攻科	30	27	27	—	—	—	10	6	90.0%
特別支援教育専攻	30	27	27	—	—	—	10	6	90.0%

* 本表は外国人留学生を含む。

令和3(2021)年に教育学部を改組し、新たに学校教員養成課程を設置した。

* 収容定員充足率 (%) = 在籍者 ÷ 収容定員 (第4期中期目標期間の業務実績評価で用いられる基準：90%以上)

(2) 定員の充足状況

ア 入学定員充足率

令和5年5月1日現在

学部	項目	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	入学定員に対する平均比率
初等教育教員養成課程【旧】	入学者数	479	472	—	—	—	105%
	入学定員	455	455	—	—	—	
	入学定員充足率	105%	104%	—	—	—	
中等教育教員養成課程【旧】	入学者数	225	228	—	—	—	108%
	入学定員	210	210	—	—	—	
	入学定員充足率	107%	109%	—	—	—	
特別支援学校教員養成課程【旧】	入学者数	32	31	—	—	—	105%
	入学定員	30	30	—	—	—	
	入学定員充足率	107%	103%	—	—	—	
養護教諭養成課程【旧】	入学者数	42	42	—	—	—	105%
	入学定員	40	40	—	—	—	
	入学定員充足率	105%	105%	—	—	—	
学校教員養成課程【新】	入学者数	—	—	764	773	767	105%
	入学定員	—	—	729	729	729	
	入学定員充足率	—	—	105%	106%	105%	
教育支援専門職養成課程【新】	入学者数	133	134	133	133	134	103%
	入学定員	130	130	130	130	130	
	入学定員充足率	102%	103%	102%	102%	103%	

令和5年10月1日現在

大学院	項目	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	入学定員に対する平均比率
教育実践研究科(教職大学院)【旧】	入学者数	46	—	—	—	—	92%
	入学定員	50	—	—	—	—	
	入学定員充足率	92%	—	—	—	—	
教育学研究科専門職学位課程(教職大学院)【新】	入学者数	—	88	72	67	69	62%
	入学定員	—	120	120	120	120	
	入学定員充足率	—	73%	60%	56%	58%	
教育学研究科修士課程【旧】	入学者数	77	—	—	—	—	77%
	入学定員	100	—	—	—	—	
	入学定員充足率	77%	—	—	—	—	
教育学研究科修士課程【新】	入学者数	—	20	39	25	32	97%
	入学定員	—	30	30	30	30	
	入学定員充足率	—	67%	130%	83%	107%	
後期3年のみの博士課程	入学者数	7	4	5	4	5	125%
	入学定員	4	4	4	4	4	
	入学定員充足率	175%	100%	125%	100%	125%	

* 入学定員充足率(%) = 入学者 ÷ 入学定員 (入学者に外国人留学生を含む。)

* 入学定員に対する平均比率 (%) = 過去5年分の入学定員に対する入学者の比率を平均したもの
(大学機関別認証評価で用いられる基準 : 70%以上130%未満)

* 後期3年のみの博士課程には、静岡大学分を含まない。

イ 収容定員超過率

令和5年度

令和5年5月1日現在（単位：人、%）

学部・研究科	収容定員	収容数	収容数(B)のうち												超過率算定の対象となる在籍者数 M=B-(D+E+F+G+I+J+L)	定員超過率 N=M÷A×100
			外国人留学生(C)のうち			休学者数	留年者数	留年者数(H)のうち、修業年限を超える在籍期間が2年以内の者の数	小・中学校教員免許状取得プログラム学生数	長期履修学生数	長期履修学生に係る控除数					
			外国人留学生数	国費留学生数	外国政府派遣留学生数						大学間交流協定等に基づく留学生等数					
教育学部	3,458	3,726	3	0	0	0	51	114	96	–	–	–	3,579	103.5%		
教育学研究科																
専門職学位課程	240	155	0	0	0	0	2	4	4	8	9	3	138	57.5%		
修士課程	60	64	24	2	0	0	2	3	2	–	4	1	57	95.0%		
後期3年博士課程	12	24	5	2	0	0	7	2	1	–	7	1	13	108.3%		
定員超過率(N)が110%を上回る主な理由																

* 「国立大学法人の第4期中期目標期間の業務実績評価に係る実施要領」別添2定員超過率の算定方法により算出する（定員超過率の上限値110%）。

(参考) 「令和5年度以降の国立大学の学部における定員超過の抑制について（令和5年2月3日、4文科高第1622号）」の基準定員超過率は110%。

* 長期履修学生に係る控除数(L)は、長期履修学生数から、修業年限が同一の期間である長期履修学生数ごとに修業年限を履修する年限で除した数（小数点第3位切捨て）を乗じて算出した数の合計数（小数点第1位切上げ）を減じた数とする。

* 小・中学校教員免許状取得プログラムの修業年限は3年。小・中学校教員免許状取得プログラム学生数(J)は修業年限3年以内で2年を超えて在籍する学生数。

(3) 休学者数、退学者数、除籍者数、留年者数

(単位：人、%)

学部	R5/5/1現在			R5/4/1～R6/3/31					
	在学者	留年者	休学者	休学者		退学者		除籍者	
				人数	比率	人数	比率	人数	比率
教育学部	3,726	114	51	69	1.9%	22	0.6%	8	0.2%
1年	901	—	0	1	0.1%	1	0.1%	0	0.0%
2年	908	—	3	5	0.6%	4	0.4%	0	0.0%
3年	901	—	2	8	0.9%	3	0.3%	1	0.1%
4年	1,016	114	46	55	5.4%	14	1.4%	7	0.7%
学校教員養成課程	2,311	0	5	13	0.6%	7	0.3%	1	0.0%
1年	767	—	0	1	0.1%	1	0.1%	0	0.0%
2年	775	—	3	5	0.6%	3	0.4%	0	0.0%
3年	769	—	2	7	0.9%	3	0.4%	1	0.1%
4年	—	—	—	—	—	—	—	—	—
教員養成課程(旧)	866	97	38	46	5.3%	10	1.2%	5	0.6%
1年	—	—	—	—	—	—	—	—	—
2年	—	—	—	—	—	—	—	—	—
3年	—	—	—	—	—	—	—	—	—
4年	866	97	38	46	5.3%	10	1.2%	5	0.6%
教育支援専門職養成課程	544	12	5	7	1.3%	4	0.7%	1	0.2%
1年	134	—	0	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
2年	133	—	0	0	0.0%	1	0.8%	0	0.0%
3年	132	—	0	1	0.8%	0	0.0%	0	0.0%
4年	145	12	5	6	4.1%	3	2.1%	1	0.7%
現代学芸課程(旧)	5	5	3	3	60.0%	1	20.0%	1	20.0%
2年	—	—	—	—	—	—	—	—	—
3年	—	—	—	—	—	—	—	—	—
4年	5	5	3	3	60.0%	1	20.0%	1	20.0%
休学・退学・除籍の理由				69		22		8	
経済事情				5		2		0	
家庭の事情				4		0		0	
一身上の都合				34		0		0	
私費留学				17		0		0	
傷病				9		0		0	
方針変更				0		19		0	
授業料未納				0		0		5	
死亡又は行方不明				0		0		1	
その他				0		1		2	

(単位：人、%)

大学院	R5/5/1現在			R5/4/1～R6/3/31					
	在学者	留年者	休学者	休学者		退学者		除籍者	
				人数	比率	人数	比率	人数	比率
教育学研究科 修士課程	64	3	2	3	4.7%	2	3.1%	0	0.0%
1年	32	—	0	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
2年	32	3	2	3	9.4%	2	6.3%	0	0.0%
教育学研究科 専門職学位課程	155	4	2	4	2.6%	2	1.3%	1	0.6%
1年	69	—	0	2	2.9%	2	2.9%	0	0.0%
2年	86	4	2	2	2.3%	0	0.0%	1	1.2%
教育実践研究科	0	0	0	0		0		0	
1年	—	—	—	—	—	—	—	—	—
2年	—	—	—	—	—	—	—	—	—
休学・退学・除籍の理由				7		4		1	
経済事情				0		0		0	
家庭の事情				2		1		0	
一身上の都合				5		0		0	
私費留学				0		0		0	
傷病				0		0		0	
方針変更				0		3		0	
授業料未納				0		0		1	
死亡又は行方不明				0		0		0	
その他				0		0		0	

(単位：人、%)

大学院 教育学研究科 博士課程	R5/5/1現在			R5/4/1～R6/3/31					
	在学者	留年者	休学者	休学者		退学者		除籍者	
				人数	比率	人数	比率	人数	比率
愛知教育大学	24	4	7	8	33.3%	0	0.0%	0	0.0%
1年	5	—	0	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
2年	4	—	0	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
3年	15	4	7	8	53.3%	0	0.0%	0	0.0%
休学・退学・除籍の理由				8		0		0	
経済事情				0		0		0	
家庭の事情				1		0		0	
一身上の都合				5		0		0	
私費留学				0		0		0	
傷病				2		0		0	
方針変更				0		0		0	
授業料未納				0		0		0	
死亡又は行方不明				0		0		0	
その他				0		0		0	

(単位：人、%)

専攻科	R5/5/1現在			R5/4/1～R6/3/31					
	在学者	留年者	休学者	休学者		退学者		除籍者	
				人数	比率	人数	比率	人数	比率
特別支援教育特別専攻科	27	0	0	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

(4) 卒業者数、修了者数

(単位：人)

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	卒業・修了月	
						9月	3月
教育学部	939	907	880	875	887	5	882
教員養成課程	702	757	751	745	755	4	751
初等教育教員養成課程	425	471	457	467	464	3	461
中等教育教員養成課程	209	210	219	209	220	1	219
特別支援学校教員養成課程	26	34	33	30	28	0	28
養護教諭養成課程	42	42	42	39	43	0	43
教育支援専門職養成課程	—	130	123	129	130	1	129
教育支援専門職養成課程	—	130	123	129	130	1	129
現代学芸課程	237	20	6	1	2	0	2
現代学芸課程	237	20	6	1	2	0	2
教育学研究科	104	79	100	100	103	8	95
専門職学位課程	—	—	—	60	74	5	69
教育実践高度化専攻	—	—	67	60	74	5	69
修士課程	102	75	31	39	25	3	22
教育支援高度化専攻	—	—	18	35	25	3	22
発達教育科学専攻	15	19	7	2	0	0	0
特別支援教育科学専攻	2	2	1	0	0	0	0
養護教育専攻	2	1	1	—	—	—	—
学校教育臨床専攻	12	9	1	—	—	—	—
国語教育専攻	6	5	—	—	—	—	—
英語教育専攻	4	4	—	—	—	—	—
社会科教育専攻	15	5	—	—	—	—	—
数学教育専攻	8	8	—	—	—	—	—
理科教育専攻	13	6	2	2	—	—	—
芸術教育専攻	14	8	1	0	0	0	0
保健体育専攻	7	6	—	—	—	—	—
家政教育専攻	1	0	—	—	—	—	—
技術教育専攻	3	2	—	—	—	—	—
後期3年博士課程	2	4	2	1	4	0	4
共同教科開発学専攻	2	4	2	1	4	0	4
教育実践研究科 教職実践専攻	50	41	8	1	0	0	0
教職実践基礎領域	35	25	8	1	—	—	—
教職実践応用領域	15	16	—	—	—	—	—
特別支援教育特別専攻科	31	29	32	33	27	0	27
特別支援教育専攻	31	29	32	33	27	0	27

3 教育課程

(1) 単位認定の実施状況

教育学部

① 入学前の既修得単位の認定

認定者数	1~4 単位	5~9 単位	10~14 単位	15~19 単位	20 単位以上
1	0	1	0	0	0

② 大学以外の教育施設等における学修の単位認定

認定者数	1単位	2単位	3単位	4単位	英検	TOEFL	TOEIC
12	11	0	1	0	2	0	10

③ 海外留学中に修得した単位の認定

認定者数	1~4 単位	5~9 単位	10~14 単位	15~19 単位	20 単位以上
0	0	0	0	0	0

④ 単位互換に関する包括協定により修得した単位の認定

認定者数	1単位	2単位	3単位	4単位	5単位以上
7	0	6	0	1	0

* 海外に留学して履修した授業科目や他大学等において履修した授業科目については、60単位を超えない範囲で本学において履修したものとみなしている（学則第69条～第71条）。

* 特に、「英語コミュニケーション」及び「外国語科目」については、大学以外の教育施設等における学修の単位認定を認めている。

大学院（教育学研究科（専門職学位・修士課程）及び教育実践研究科（教職大学院））

① 他の大学院において履修した授業科目の認定

教育学研究科（専門職学位）			教育学研究科（修士課程）			教育実践研究科（教職大学院）		
認定者数	1~5 単位	6~10 単位	認定者数	1~5 単位	6~10 単位	認定者数	1~5 単位	6~10 単位
0	0	0	0	0	0	-	-	-

② 入学前の既修得単位の認定

教育学研究科（専門職学位）			教育学研究科（修士課程）			教育実践研究科（教職大学院）		
認定者数	1~5 単位	6~10 単位	認定者数	1~5 単位	6~10 単位	認定者数	1~5 単位	6~10 単位
0	0	0	0	0	0	-	-	-

③ 実習科目的履修免除に伴う認定（教職大学院のみ）

教育実践研究科（教職大学院）				教育学研究科（教職大学院）					教育実践高度化専攻		
教育実践応用領域			教育実践基礎領域		教育実践高度化専攻						
認定者数	他校種 実習	特別課題 実習	多様な フィールド 実習	認定者数	特別課題 実習	多様な フィールド 実習	認定者数	課題実践 実習	課題実践実 習A	課題実践実 習B	課題実践実 習C
-	-	-	-	-	-	-	23	2	23	21	3

* 他の大学院における授業科目の履修等及び単位認定については、学則第85条で定めている。入学前の既修得単位の認定については、同第86条で定めている。

* 教職大学院においては、入学前の教員実務経験等により、実習科目の一部で履修を免除することができる。（学則第87条第6項、教育学研究科専門職学位課程履修規程第8条）

(2) インターンシップの実施状況

令和5年度インターンシップ実施状況

参加人数 38人

所属	学年	性別	体験先	受入期間	実働日数
学校教員養成課程					
義務教育科学	3	女	豊橋市総合動植物公園動植物園	8/13~8/17	5
義務生活総合	3	女	大垣市子育て支援課	8/15~8/16	2
義務日本語支援	2	女	愛西市人事課	8/9~8/10	2
義務社会	3	男	みよし市学校教育課	8/1~8/4	4
義務理科	3	女	江南市生涯学習課	8/16~8/20	4
義務理科	3	男	愛知県水道計画課・水道事業課	8/1~8/4	4
義務理科	2	男	豊田市矢作川製作所	9/6	1
義務技術	3	男	西尾市交流共創コース	9/10~9/12	3
義務家庭	3	女	武豊町	8/28~8/29	2
特別支援	3	女	宮川医療少年院	8/22~8/24	3
養護	3	女	半田市議事課	8/31~9/7	6
中等教育教員養成課程					
中等社会	4	女	安城市人事課	9/21~9/26	4
中等社会	4	女	豊田市とよた市民活動センター	9/27~9/29	3
教育支援専門職養成課程					
心理コース	3	女	岐阜少年鑑別所	8/28~8/30	3
心理コース	3	男	各務原市産業活力部	8/22~8/25	4
心理コース	3	女	札幌市各所	8/24	1
心理コース	2	女	豊橋市産業部みなと振興課	2/28~2/29	2
ガバナンスコース	3	女	半田市子ども育成課・子育て支援課 子育て相談課	8/14~8/18	5
ガバナンスコース	3	女	岐阜市ハートフルスクエアG	8/21~8/25	5
ガバナンスコース	3	女	豊橋市教育委員会	9/4~9/8	5
ガバナンスコース	3	男	豊川市商工観光課	9/13~9/20	5
ガバナンスコース	3	女	各務原市広報課	9/6~9/8	3
ガバナンスコース	3	男	各務原市広報課	8/16~8/18	3
ガバナンスコース	3	女	愛知県総務課	8/9~8/16	5
ガバナンスコース	3	女	愛知県学事振興課・私学振興課	9/1~9/7	5
ガバナンスコース	3	女	愛知県総合教育センター	8/28~9/8	5
ガバナンスコース	3	女	大府市税務課	8/21~8/25	4
ガバナンスコース	3	女	みよし市こども政策課	8/15~8/18	4
ガバナンスコース	3	女	みよし市市民課	8/22~8/25	4
ガバナンスコース	3	男	みよし市学校教育課	8/1~8/4	4
ガバナンスコース	3	男	みよし市学校教育課	8/22~8/25	4
ガバナンスコース	3	女	みよし市学校教育課	8/29~9/1	4
ガバナンスコース	3	女	みよし市生涯学習推進課	9/12~9/15	4
ガバナンスコース	3	女	みよし市生涯学習推進課	9/19~9/22	4
ガバナンスコース	3	女	松阪市教育委員会	9/4~10/1	28
ガバナンスコース	3	女	金沢市教育委員会	8/21~8/25	3
ガバナンスコース	3	女	武豊町	8/28~8/29	2
ガバナンスコース	3	女	豊橋市教育委員会	2/19~2/22	4

* 大学を通じて参加手続したものを集計

(3) 子どもキャンパスプロジェクトの実施状況

令和5年度 実施状況一覧

(単位：人)

プログラム名	対象校種					参加者定員	実施構成員		
	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	特別支援		教職員	学生	その他
愛教の馬に会いに行こう！		○	○			30	10	10	
真鍮でピンバッジを作る		○	○	○		10	4	1	3
魔法のお店「マジックカフェ」ではたらこう！	○	○			○	10	3	3	
わくわくシアター（創作ミュージカル）プロジェクト	○					90	34	3	31
高校生と遊ぼう！笑顔！元気！わくわくスポーツ教室～サッカー・リズム運動～	○	○				30	21	1	19 1
高校生と遊ぼう！笑顔！元気！わくわくスポーツ教室～世界の文化（遊び）を体験しよう～	○	○				30	12	3	9
第11回送球祭～地域を、心をハンドボールで繋ぎ、共に学ぼう！～			○	○		200	40	1	39
なりたい自分に変身しろ！モデルをつくってVTuberデビュー！		○	○	○		7	12	2	10
木とプラスチックを加工するデジタルものづくり体験		○	○			10	16	3	13
AUEスポーツフェス	○	○				50	10	7	
AUEサッカー大会		○				70	8	7	
ひとりでできるもん！Cooking & Sewing		○	○			20	17	3	14
高校生と遊ぼう！笑顔！元気！わくわくスポーツ教室 バルシューレ教室＆ボッチャ体験	○	○				30	16	2	14
電動車椅子サッカーコース（仮）		○	○	○	○	15	10	1	9
踊るキャンバス～ダンスで広がる笑顔の輪～	○	○	○	○	○	30	17	1	16
大学生とミニ運動会！		○				20	29		29
あそんでまなぼうさい！		○				10	6	1	5
こどもICTマイスター 応援プロジェクト		○	○	○	○	32	8	2	6
絵本を遊ぶ！よみっこ夏の読み聞かせ祭	○	○				30	69	1	68
どこに飾る？！ガラスのクリスマスリース制作！		○				20	5	1	4
創作和菓子コース	○	○				80	45	3	42
フィルムで体験「ココロを保存」		○				10	27	1	26
宇宙体感・体験プロジェクト		○	○			15	14	2	12
プログラミングで遊ぼう学ぼう！	○					無線:16 マイク: 8 ドローン: 8	13	6	7
どっちのジャンプが得意！？				○		20	6	1	5
エンジョイ ソフトテニス（仮）	○	○				30	24	1	23
秘密基地を作ろう！プロジェクト		○				10	5	1	4
レクリエーションコース	○	○			○	20	20	4	16
歴史文化コース		○				20	27	3	22 2
子どもまつり	○	○			○	400	55		55
植物を使った自然遊び（仮）		○	○		○	20	7	1	6
キッズオリンピックin愛教大		○				50	42	1	41
切って繋げるバンブーロード～第2章～		○	○			20	22	1	21
バンブーランタンを作ろう！！		○				9	8		8
竹を使った楽しくためになるものづくり		○	○			10	17	2	15
竹チップでカブトムシを育てよう！		○				20	3	3	

*実施構成員の「その他」は、県立高等学校教員、一般社団法人職員等を指す。

(4) 教科横断探究コース

設置
令和3年4月
目的
教員に求められる資質・能力が多岐にわたることに対応するため、4年間の学部教育で培う教員としての資質に加えて、実践力・コミュニケーション力・探究力を養成することを目的とし、異年齢・異学年集団での協働を通して、教科等を横断してつなげる力をつける、自ら考え抜く自立した学びを探究する「教科横断探究コース」を設置した。
特色
<ul style="list-style-type: none"> 学部（4年間）から教職大学院（2年間）への進学を見通し、教科のみならず総合的な学習の時間、特別活動、道徳を含む教科等横断的な探究学習を展開する。 教科横断型協働学習やゼミナールなど、コース独自の授業が開講されている。
目指す能力の育成
<ul style="list-style-type: none"> 教科等横断的な学習を構想し展開する実践力 異学年、他専修の学生と協働するコミュニケーション力 新しい教育課題に対する探究力
コースの編成
<ul style="list-style-type: none"> 本コースは学校教員養成課程義務教育専攻の第1学年学生から募集し、第1学年後期から本コースに所属する。 教育課程は、1年生で教科横断型協働学習Ⅰ、2年生でゼミナールⅡA、ゼミナールⅡB、教科横断型協働学習Ⅱ、3年生でゼミナールⅢA、ゼミナールⅢB、教科横断型協働学習Ⅲ、4年生でゼミナールⅣA、ゼミナールⅣB、教科横断型協働学習Ⅳを履修する。

コース進学状況（学部1年次）

進学年度	進学者数
令和3年度	6人
令和4年度	5人
令和5年度	8人

学部から大学院への進学状況

年 度	教育学研究科 進学者	大学院 進学辞退者
令和3年度	-	-
令和4年度	-	-
令和5年度	-	-

(5) 教員免許取得プログラム

小学校教員免許取得プログラム

設置
令和2年4月
概要
教員養成大学・学部以外では取得が困難な小学校教員免許を持たない大学卒業者の、小学校教員免許取得のニーズに応えるため、大学院の合格（入学）者が、別途申請の上、許可された場合に、大学院で小学校教員免許取得に必要な学部の科目を履修することができるプログラムを設置した。
特色
<ul style="list-style-type: none"> 通常の大学院専門職学位課程教育実践高度化専攻（教職大学院）の履修とともに、小学校教員免許状の取得に必要な学部の科目を履修する必要から修業年限を3年とし、単位修得上支障がないように配慮している。 このコースの大学院を修了することにより教職修士（教職大学院）の学位と共に、小学校教諭専修免許状又は小学校教諭一種免許状を取得する資格が得られる。

小学校教員免許取得プログラム入学者数

教育学研究科 (単位：人)

年度	入学者数	他大学	本学
令和3年度	9	9	0
令和4年度	4	4	0
令和5年度	6	6	0

※教育実践研究科は、令和2年度入学生から募集停止

中学校教員免許取得プログラム

設置

令和2年4月

概要

現在の学校教育現場では、専門的スキルをもった人材や、多様な経験、職歴を有する人材が求められている。本学では、教員免許（幼稚園・中学校・高等学校）取得者又は取得見込みの者が、大学院で長期在学制度を活用して中学校教諭一種免許状又は二種免許状（いずれか1教科）の取得に必要な科目を履修できるよう、新たなプログラムを開設した。

特色

- 通常の大学院専門職学位課程教育実践高度化専攻（教職大学院）の履修とともに、中学校教員免許状の取得に必要な学部の科目を履修する必要から修業年限を3年とし、単位修得上支障がないように配慮している。
- このプログラムの大学院を修了することにより、教職修士（教職大学院）の学位と共に、中学校教諭専修免許状（各教科）又は中学校教諭二種免許状（各教科）を取得する資格が得られる。

中学校教員免許取得プログラム入学者数

(単位：人)

年度	入学者数	他大学	本学
令和3年度	1	1	0
令和4年度	2	2	0
令和5年度	1	1	0

4 学習成果

(1) 教育職員免許状及び保育士の資格取得状況

教育学部、特別支援教育特別専攻科

	卒業者数	取得者	教育職員免許状 取得状況													保育士			
			小学校			中学校			高等学校		幼稚園			特別支援学校		保育士			
			1種	2種	計	1種	2種	計	1種	1種	2種	計	1種	1種	1種				
教育学部	887	749	653	14	667	75.2%	619	64	683	77.0%	516	58.2%	27	139	166	18.7%	28 3.2%	43 4.8%	25 2.8%
教員養成課程	755	749	653	14	667	88.3%	619	64	683	90.5%	516	68.3%	27	139	166	22.0%	28 3.7%	43 5.7%	25 3.3%
初等教育教員養成課程	464	458	455	1	456	98.3%	380	39	419	90.3%	262	56.5%	27	117	144	31.0%	0 0.0%	0 0.0%	25 5.4%
中等教育教員養成課程	220	220	170	13	183	83.2%	217	2	219	99.5%	232	105.5%	0	0	0	0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
特別支援学校教員養成課程	28	28	28	0	28	100.0%	0	23	23	82.1%	0	0.0%	0	22	22	78.6%	28 100.0%	0 0.0%	0 0.0%
養護教諭養成課程	43	43	0	0	0	0.0%	22	0	22	51.2%	22	51.2%	0	0	0	0.0%	0 0.0%	43 100.0%	0 0.0%
教育支援専門職養成課程	130	0	0	0	0	0.0%	0	0	0	0.0%	0	0.0%	0	0	0	0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
心理コース	51	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
福祉コース	20	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
教育ガバナンスコース	59	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
現代学芸課程	2	0	0	0	0	0.0%	0	0	0	0.0%	0	0.0%	0	0	0	0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
現代学芸課程	2	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
特別支援教育特別専攻科	27	25	0	0	0	0.0%	0	0	0	0.0%	0	0.0%	0	0	0	0.0%	25 92.6%	0 0.0%	0 0.0%
特別支援教育専攻	27	25	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	25 92.6%	- -	- 0.0%

* 一人で複数の免許状（校種、教科）を取得した場合は該当種別にそれぞれ計上するため、卒業者に対する取得割合が100%を超える場合がある。

* 取得者は、小・中・高・幼・特支・養護のいずれかの教育職員免許状取得者の実人数を記載（保育士は除く）

* 卒業者数・取得者数・取得件数は、9月卒業者・3月卒業者を合算した数字である。

* 教員養成4課程は、令和3年度入学生から募集停止している。新規の学校教員養成課程は、令和6年度に完成年度を迎える。

* 現代学芸課程は、平成29年度入学生から募集停止している。

大学院

修了者数	取得者	教育職員免許状 取得状況										保育士	
		小学校		中学校		高等学校		幼稚園		特別支援学校			
		専修	専修	専修	専修	専修	専修	専修	専修	専修	専修		
教育学研究科	99	46	18	18.2%	36	36.4%	46	46.5%	4	4.0%	2	2.0%	0 0.0%
専門職学位課程・教職大学院	74	46	18	24.3%	36	48.6%	46	62.2%	4	5.4%	2	2.7%	2 2.7%
教育実践高度化専攻	74	46	18	24.3%	36	48.6%	46	62.2%	4	5.4%	2	2.7%	2 2.7%
修士課程	25	0	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0 0.0%
教育支援高度化専攻	25	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
発達教育科学専攻	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
特別支援教育科学専攻	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
芸術教育専攻	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

* 一人で複数の免許状（校種、教科）を取得した場合は該当種別にそれぞれ計上するため、修了者に対する取得割合が100%を超える場合がある。

* 取得者は、小・中・高・幼・特支・養護のいずれかの教育職員免許状取得者の実人数を記載（保育士は除く）

* 修士課程の発達教育科学専攻～芸術教育専攻及び教育実践研究科は、令和2年度入学生から募集停止している（表に示す専攻は令和5年度学生の在籍があるもの）。

5 学生支援

(1) 相談体制

学生相談体制（相談窓口）

相談内容	担当
修学相談 授業・成績関係 休学・退学・転学関係 教育実習関係 介護等体験関係 体験活動関係	教務企画課
就職・進路相談	キャリア支援課
海外留学・国際交流相談	国際交流センター（国際企画課）
経済・生活相談 授業料免除・徴収猶予関係 奨学金関係 学生寮関係 課外活動・ボランティア活動関係 学生生活全般	学生支援課
健康相談	健康支援センター
ハラスメント相談	学内ハラスメント相談員
障害のある学生への配慮・支援	障害学生支援室（学生支援課）
なんでも相談（どこに相談したらよい か分からない時）	なんでも相談コーナー（学生支援課）

(2) 修学支援

ア 履修指導

取組	担当	実施状況
ガイダンス	教務企画課	【1年生、4年生】年度当初 教育学部 各1回、【全学年】教育単位（専攻等）別 各1回
指導教員制	教育学部	全学年 教育単位（専攻等）別
成績不振者への学習 支援・指導	教育学部	G P Aが2.0 以下の学生について、指導教員による修学支援・指導を実施
交換留学制度	国際交流センター	本学と学生交流協定を締結している海外の大学に学生を派遣する制度。毎年学期始めに説明会を実施するとともに年1回募集を行っている。

イ 学習相談

学習相談	担当	実施状況
修学アドバイザーの 配置	教務企画課	指導教員が「修学アドバイザー」として、指導学生からの修学相談に応じている。
オフィス・アワーの 設定	学生支援委員会	各教員が毎週2時間程度のオフィス・アワーを設定し、学生の相談に応じている。
英語チューター制度	国際交流センター	英語能力の優れた学生チューターが英語の苦手な学生の英語学習をサポートする活動を実施している。第7章の国際交流【留学生支援】参照。

(3) 経済支援

ア 入学料免除

令和5年度 入学料免除実施状況

(単位：人、円)

所属	入学者	免除許可者							計	免除金額合計	
		全額免除	2/3免除	半額免除	1/3免除	一部免除	108千円	54千円			
教育学部	907	37	8	-	9	-	-	-	54	12,784,000	
1年次 入学者	901	37	7	-	9	-	-	-	53	12,596,000	
2年次 入学者	6	0	1	-	0	-	-	-	1	188,000	
教育学研究科（専門職学位）	69	0	-	0	-	3	2	1	-	3	404,000
1年次 入学者	68	0	-	0	-	3	2	1	-	3	404,000
6年一貫コース	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
アドバンスト・サイエンスコース	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
教育学研究科（修士課程）	32	0	-	0	-	9	8	1	-	9	1,373,600
普通入学	30	0	-	0	-	9	8	1	-	9	1,373,600
6年一貫コース	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
国費留学生	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
再入学	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
教育学研究科（博士課程）	5	0	-	0	-	0	0	0	-	0	0
愛知教育大学	4	0	-	0	-	0	0	0	-	0	0
カンボジア協定校留学生	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
特別支援教育特別専攻科	27	0	-	0	-	2	-	-	2	2	70,400
附属学校園	0	0	-	0	-	-	-	-	-	0	0
附属幼稚園	0	0	-	0	-	-	-	-	-	0	0
附属高等学校	0	0	-	0	-	-	-	-	-	0	0
附属特別支援学校高等部	0	0	-	0	-	-	-	-	-	0	0

* 本表には、大学独自入学料免除制度による免除者数及び特別措置、高等教育修学支援制度による入学料免除者数を含む。

* 本表には、大学独自入学料免除制度による免除額及び特別措置、高等教育修学支援制度による入学料免除額を含む。

* 6年一貫教員養成コース及びアドバンスト・サイエンスコースの大学院入学者は、大学院への入学ではなく進級と見なすため、入学料は不要となる。

* 再入学者及び国費留学生、カンボジア協定校留学生は、入学料を徴収しない。

* 附属学校園のうち、附属小学校・附属中学校・附属特別支援学校（小学部・中学部）は入学料を徴収しない。

* 秋季入学者は入学者数（2023/5/1現在：在学者）には含めないが、免除者数及び免除金額には含める。

(参考：令和5(2023)年度秋季入学者　教育学研究科（修士課程）：1名、教育学研究科（専門職学位）：0名)

令和5年度 入学料			
教育学部	282,000円	附属幼稚園	31,300 円
大学院	282,000円	附属高等学校	56,400 円
特別支援教育特別専攻科	58,400円	附属特別支援学校高等部	2,000 円

イ 授業料免除

令和5年度授業料免除実施状況

在籍者：R5/5/1現在 免除者：R5/4/1～R6/3/31実績 (単位：人、円)

所属	在籍者	前期							後期							合計							免除金額合計		
		免除許可							免除許可							免除許可									
		全額	半額	2/3	1/3	家計急変	教職別措置	免除金額小計	全額	半額	2/3	1/3	家計急変	教職別措置	免除金額小計	全額	半額	2/3	1/3	家計急変	教職別措置	免除金額小計			
教育学部	3,726	139	0	77	32	4	-	252	54,577,200	135	0	76	33	3	-	247	52,999,600	274	0	153	65	7	-	499	107,576,800
1年	901	38	-	7	9	1	-	55	12,249,000	34	-	15	7	1	-	57	12,502,000	72	-	22	16	2	-	112	24,751,000
2年	908	35	-	24	8	2	-	69	14,823,800	43	-	15	7	2	-	67	15,270,300	78	-	39	15	4	-	136	30,094,100
3年	901	34	-	22	5	1	-	62	13,752,200	26	-	24	10	0	-	60	12,144,800	60	-	46	15	1	-	122	25,897,000
4年	1,016	32	-	24	10	0	-	66	13,752,200	32	-	22	9	0	-	63	13,082,500	64	0	46	19	0	-	129	26,834,700
教育学研究科 (専門職学位)	155	11	3	-	-	-	49	63	9,150,442	10	4	-	-	-	47	61	8,815,572	21	7	-	-	-	96	124	17,966,014
1年	69	2	1	-	-	-	21	24	3,415,720	1	1	-	-	-	21	23	3,147,820	3	2	-	-	-	42	47	6,563,540
2年	86	9	2	-	-	-	28	39	5,734,722	9	3	-	-	-	26	38	5,667,752	18	5	-	-	-	54	77	11,402,474
教育学研究科 (修士課程)	61	16	7	-	-	-	3	26	5,286,375	14	10	-	-	-	3	27	5,152,425	30	17	-	-	-	6	53	10,438,800
1年	32	7	2	-	-	-	2	11	2,232,500	8	4	-	-	-	2	14	2,768,300	15	6	-	-	-	4	25	5,000,800
2年	29	9	5	-	-	-	1	15	3,053,875	6	6	-	-	-	1	13	2,384,125	15	11	-	-	-	2	28	5,438,000
教育学研究科 (博士課程)	24	2	0	-	-	-	-	2	535,800	2	0	-	-	-	-	2	535,800	4	0	-	-	-	-	4	1,071,600
愛知教育大学	1年	5	1	0	-	-	-	1	267,900	1	0	-	-	-	-	1	267,900	2	0	-	-	-	-	2	535,800
2年	4	1	0	-	-	-	-	1	267,900	1	0	-	-	-	-	1	267,900	2	0	-	-	-	-	2	535,800
3年	15	0	0	-	-	-	-	0	0	0	-	-	-	-	0	0	0	0	0	-	-	-	0	0	
特別支援教育 特別専攻科	27	2	0	-	-	-	-	2	273,900	1	0	-	-	-	-	1	136,950	3	0	-	-	-	-	3	410,850
合計	3,993	170	10	77	32	4	52	345	69,823,717	162	14	76	33	3	50	338	67,640,347	332	24	153	65	7	102	683	137,464,064

* 本表には、大学独自授業料免除制度による免除者数及び高等教育修学支援制度による授業料免除者数、特別措置免除者数を含む。

* 本表には、大学独自授業料免除及び高等教育修学支援制度免除、特別措置免除の併用者が含まれているため、各表の免除者合計数とは異なる。

* 本表には、大学独自授業料免除制度による免除額及び高等教育修学支援制度による授業料免除額、特別措置免除額を含む。

* 附属学校分については、幼稚教育無償化や高等学校等就学支援金制度の導入により、申請者・免除者はほぼ発生しないため、あつた場合のみ表に追加することとする。

* 本表には、大規模災害等の被災による特別措置の免除者数及び新型コロナウイルス感染症緊急対応措置による授業料免除者を含む。

* 秋季入学者は入学者数（2023/5/1現在：在学者）には含めないが、免除者数及び免除金額には含める。（参考：令和5(2023)年度秋季入学者 教育学研究科（修士課程）：1名、教育学研究科（専門職学位）：0名）

令和5年度 授業料	半期分	年額		半期分	年額
教育学部	267,900 円	535,800 円	特別支援教育特別専攻科	136,950 円	273,900 円
大学院【修士課程、教職大学院】					
通常の課程	267,900 円	535,800 円	長期履修 3年	178,600 円	357,200 円
小免コース 平成21年度以降 入学	267,900 円	535,800 円	長期履修 4年	133,950 円	267,900 円
大学院【博士課程】					
通常の課程	267,900 円	535,800 円	長期履修 4年	200,925 円	401,850 円

ウ 奨学金

令和5年度（独）日本学生支援機構 奨学生数 状況

在学者：R5/5/1現在（単位：人）

所 属	～ 留 学 生 を 除 く ～ 在 学 者	採用者（令和5年4月1日～令和6年3月31日の実績）												奨学生数（令和6年3月更新時）						
		給付奨学金				第一種（無利息）				第二種（利息付）				合計	給付奨学金	第一種（無利息）	返還免除	第二種（利息付）	合計	
		予約採用	在学採用	家計急変	計	予約採用	在学採用	緊急採用	計	予約採用	在学採用	応急採用	計							
教育学部		3,723	43	25	1	69	94	24	0	118	61	35	2	98	285	275	383	—	336	994
	1年	901	43	14	1	58	94	15	0	109	61	23	0	84	251	58	108	—	88	254
	2年	908	—	5	0	5	—	4	0	4	—	7	1	8	17	74	89	—	82	245
	3年	900	—	1	0	1	—	4	0	4	—	5	1	6	11	67	89	—	79	235
	4年	1,014	—	5	0	5	—	1	0	1	—	0	0	0	6	76	97	—	87	260
教育学研究科 (専門職学位)		155	—	—	—	—	1	8	0	9	0	3	0	3	12	—	21	4	6	27
	1年	69	—	—	—	0	1	8	0	9	0	3	0	3	12	—	9	—	3	12
	2年	86	—	—	—	0	—	0	0	0	—	0	0	0	0	—	12	4	3	15
教育学研究科（修士）		41	—	—	—	—	0	3	0	3	0	1	0	1	4	—	5	1	1	6
	1年	22	—	—	—	0	0	2	0	2	0	0	0	0	2	—	2	—	0	2
	2年	19	—	—	—	0	—	1	0	1	—	1	0	1	2	—	3	1	1	4
教育学研究科（博士）		19	—	—	—	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	1	1	0	1
愛知教育大学	1年	3	—	—	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	—	0	0
	2年	2	—	—	—	0	—	0	0	0	—	0	0	0	0	—	0	0	0	0
	3年	14	—	—	—	0	—	0	0	0	—	0	0	0	0	—	1	1	0	1
特別支援教育特別専攻科		27	—	—	—	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	—	0	0
		27	—	—	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	—	0	0

* 第一種と第二種の両方を貸与することもでき（併用貸与）、併用貸与者については、第一種、第二種にそれぞれ計上している。

在学者は、奨学生の対象とならない外国人留学生を除いた人数。

給付型奨学金	給付月額	給付期間
大 学	支援区分	最長48か月
	第Ⅰ区分	
	29,200円	
	第Ⅱ区分	
第一種（無利息）	自宅通学者は、20,000円、30,000円、45,000円から選択	最長48か月
	自宅外通学者は、20,000円、30,000円、45,000円、51,000円から選択	
大 学院	修士は50,000円、88,000円から選択	修士 最長24か月 博士 最長36か月
	博士は80,000円、122,000円から選択	
第二種（利息付）	貸与月額	貸与期間（応急採用の場合を除く）
大 学	2万円から12万円までの、1万円単位金額から選択	最長48か月
大 学院	5万円、8万円、10万円、13万円、15万円から選択	修士最長24か月、博士最長36か月
予約採用	入学前の申込で、進学前の在学校にて奨学生申請を行うもの。	
在学採用	入学後に大学を通じて奨学生申請を行うもの。	
緊急採用	家計の急変（家計支持者が失職・病気・事故・会社倒産・死別又は離別・災害等）で奨学生を緊急に必要とする場合のもの。	
応急採用	家計急変採用は給付、緊急採用は第一種、応急採用は、第二種。	
返還免除	大学院第一種貸与者であって、在学中に特に優れた業績をあげた者として機構が認定した場合に奨学生の全部又は一部の返還が免除される制度。なお、申請にあたっては大学からの推薦が必要となる。	
給付奨学金	返還義務のないもの。支給金額は進学する学校の設置者・支援区分・通学形態により決定される。	

(4) 生活支援

健康管理・健康相談

健康支援センター
利用時間
月～金曜日 8:30～17:00
スタッフ・職員構成（8人）
センター長（医師・教授・センター専任1人） 医師（教授1人）准教授1人 看護師・保健師（常勤1人、非常勤1人） 臨床心理士（非常勤3人） 事務係長（事務・兼任1人） センター業務兼務者（事務・兼任1人）
相談の実績
第8章の健康支援センター参照

ハラスメント相談窓口

利用時間
相談窓口を設置し、常時受け付けている。
職員構成
性別バランスを考慮し、大学及び附属学校（園）の教育職員、事務職員、健康支援センターの保健師、計十数人の相談員で構成
業務内容
ハラスメントに関する相談 通知措置に関する相談 調停又は調査の申し立ての前に行われる手続きに関する相談

障害のある学生に対する支援

障害学生支援室
利用時間 月～金曜日 9:00～16:30
スタッフ・職員構成 室長（兼任） 副室長（兼任） コーディネーター（非常勤2人） 事務補佐員（事務1人）
業務内容 障害に対する社会的障壁の除去等に関する相談受付と関係部署への連絡調整 修学における合理的配慮事項に関する当事者・関係者との面談調整と配慮内容の決定
概要 ・聴覚障害学生へのパソコンテイク等による情報保障支援 ・視覚障害学生支援のための情報保障支援 ・視覚障害学生学習チューターの養成 ・肢体不自由学生等への学生寮（バリアフリー室）の提供
聴覚障害学生への支援内容（情報保障支援学生団体「てくてく」の活動も含む） ・授業に対する情報保障ソフトを装備したノートPCを用いて2人1組で行うパソコンテイクの実施 ・式典や授業などに対する情報保障のため、学生団体及び外部団体に手話通訳者を依頼 ・オンライン授業における情報保障体制の整備（UDトークの使用、映像資料の字幕付け・文字起こし作業等）
【情報保障支援学生団体「てくてく」の活動内容】 ・2023年コーディネーター14名、利用学生3名 ・AU Eパートナーシップ団体に継続申請し、承認を受けた。 ・主な活動実績 ○基礎的な実績（ノート・パソコンテイク練習会、遠隔テイク練習会、字幕付け及び遠隔テイク講座の開催及び手話を覚えられる企画などを計画し実行） ○岡崎聾学校の生徒に向けた説明会の開催（広報課の依頼による）
視覚障害学生への支援内容（学習チューター制度） 【学習チューターの活動内容】 ・教科書・資料のPDF化、PDF資料の文字情報への変換作業 ・図表やグラフ等、文字情報化されていない資料の読み上げの対面補助 ・図書館等での資料及び文献検索の補助 ・レポート作成時のレイアウト補助 ・必要書類の代筆
その他の支援 ・パソコンテイク用ソフトを装備したノートPCを保有 ・式典や授業時、必要に応じて学外団体に手話通訳を依頼

どこに相談したらよいか分からぬ時

なんでも相談コーナー
利用時間 月～金曜日 9:00～16:30
スタッフ・職員構成 室長（兼任） 副室長（兼任） コーディネーター（非常勤2人） 事務補佐員（事務1人）
業務内容 学生からの相談受付と関係部署への連絡調整 その他学生に係る相談に関すること
相談の実績 令和5年度80件

6 学生生活

(1) 課外活動の状況

ア 課外活動団体と加入者数

在学者数：3,996人

R5/5/1現在

		体育系団体	文化系団体	計
団体数		51	41	92
加入者数	男	881人	325人	1,206人
	女	975人	705人	1,680人
計		1,856人	1,030人	2,886人
加入率		46.4%	25.8%	72.2%

* 在学者数及び加入者数は学部、大学院、専攻科の合計

* 加入率 = 加入者数（計）÷ 在学者数

イ AUEパートナーシップ団体（PS団体）

- ・本学学生が主体的・積極的に学内外で活動を行い、本学の教育、研究及び社会貢献活動に寄与しているとして、大学が認定した団体
- ・P S団体には認定証が授与され、活動拠点として学内のPS団体オフィスが利用や適宜必要物品の支援がある。
- ・活動に関する大学との意見交換が行われ（不定期、随時）、諸要望への支援についても検討している。

認定団体一覧

認定年度	団体名
平成29年度	情報保障支援学生団体てくてく
平成29年度	訪問科学実験わくわく
令和元年度	子どもの読書応援団体よみっこ
令和2年度	天文愛好会CORE
令和4年度	学生団体SAGA

(2) 大学祭、子どもまつり開催状況

	開催日	参加者数			備考
		こども	学生		
大学祭	令和5年5月13日（土）～5月14日（日） 5月20日（土）～5月21日（日）	-	4,000人		本祭・スポーツの祭典の合計
子どもまつり	令和5年5月7日（日）	242人	180人		学生数は、参加学生数と運営学生数の合計
秋の祭典	令和5年11月25日（土）～11月26日（日）	-	1,330人		本祭・スポーツの祭典の合計
冬の子どもまつり	令和5年12月10日（日）	162人	95人		学生数は、参加学生数と運営学生数の合計

7 卒業者・修了者の進路・就職の状況

(1) 進路・就職状況

詳細な所属別就職先等の進路状況は、別添資料「愛知教育大学 大学概要2024-2025」の「卒業生・修了生就職等状況」を参照ください。

各年度 5/1 現在 (単位:人)

教育課程	卒業年度 修了年度	卒業者 修了者 a	進学者 b	就職希望者 c = a - b	就職者 d	就職率	
						進学者を 除く d/c	全ての 卒業・修了者 d/a
教育学部	令和元年度	939	48	891	853	95.7%	90.8%
	令和2年度	907	62	845	784	92.8%	86.4%
	令和3年度	880	54	826	783	94.8%	89.0%
	令和4年度	875	44	831	792	95.3%	90.5%
	令和5年度	887	44	843	796	94.4%	89.7%
教員養成課程	令和元年度	702	30	672	651	94.5%	87.5%
	令和2年度	757	41	716	667	96.9%	92.7%
	令和3年度	751	39	712	677	93.2%	88.1%
	令和4年度	745	28	717	686	95.7%	92.1%
	令和5年度	755	27	728	692	95.1%	91.7%
教育支援専門職 養成課程	令和元年度	-	-	-	-	-	-
	令和2年度	130	20	110	102	0.927	0.785
	令和3年度	123	15	108	106	98.1%	86.2%
	令和4年度	129	16	113	106	93.8%	82.2%
	令和5年度	130	17	113	104	92.0%	80.0%
現代学芸課程	令和元年度	237	18	219	202	92.2%	85.2%
	令和2年度	20	1	19	15	78.9%	75.0%
	令和3年度	6	0	6	0	0.0%	0.0%
	令和4年度	1	0	1	0	0.0%	0.0%
	令和5年度	2	0	2	0	0.0%	0.0%
教育学研究科 (教育実践高度化専攻) (教職大学院)	令和元年度	-	-	-	-	-	-
	令和2年度	-	-	-	-	-	-
	令和3年度	67	1	66	66	100.0%	98.5%
	令和4年度	60	0	60	60	100.0%	100.0%
	令和5年度	74	0	74	70	94.6%	94.6%
教育学研究科 (教育支援高度化専攻) (修士課程)	令和元年度	-	-	-	-	-	-
	令和2年度	-	-	-	-	-	-
	令和3年度	18	1	17	14	82.4%	77.8%
	令和4年度	35	1	34	25	73.5%	71.4%
	令和5年度	25	2	23	9	39.1%	36.0%
教育学研究科 (後期3年 博士課程)	令和元年度	2	0	2	2	100.0%	100.0%
	令和2年度	4	0	4	4	100.0%	100.0%
	令和3年度	2	0	2	2	100.0%	100.0%
	令和4年度	1	0	1	1	100.0%	100.0%
	令和5年度	4	0	4	4	100.0%	100.0%
教育学研究科 (修士課程) (旧専攻)	令和元年度	76	2	74	63	85.1%	82.9%
	令和2年度	75	2	73	56	76.7%	74.7%
	令和3年度	13	0	13	12	92.3%	92.3%
	令和4年度	4	0	4	3	75.0%	75.0%
	令和5年度	-	-	-	-	-	-
教育実践研究科 (教職大学院) (旧研究科)	令和元年度	51	0	51	50	98.0%	98.0%
	令和2年度	41	0	41	41	100.0%	100.0%
	令和3年度	8	0	8	7	87.5%	87.5%
	令和4年度	1	0	1	1	100.0%	100.0%
	令和5年度	-	-	-	-	-	-

* 本表は「大学概要2024-2025」の内容によるものであり、9月卒業・修了者及び外国人留学生を含む。

* 大学院修了生で、現職教員等すでに就業している社会人も就職者として計上

* 進学者は、教育学部は大学院又は専攻科への進学、大学院は大学院博士課程への進学についてのみ計上

* (旧研究科) (旧専攻) は募集停止した組織を示す。

(2) 教員就職の状況

卒業次年度 9/30 現在 (単位:人)

教育課程	卒業年度 修了年度	卒業者 修了者 $a=d+e+f$	就職者				進学者 e	未就職 f	教員 就職率 b/a			
			教員		教員以外	$d = b+c$						
			正規	臨時	b	c						
教育学部	令和元年度	931	324	139	463	392	855	48	28	49.7%		
	令和2年度	764	342	118	460	223	683	42	39	60.2%		
	令和3年度	750	332	180	512	166	678	39	33	68.3%		
	令和4年度	744	368	144	512	174	686	28	30	68.8%		
	令和5年度	753	365	174	539	157	696	27	30	71.6%		
教員養成課程	令和元年度	696	310	131	441	212	653	30	13	63.4%		
	令和2年度	747	340	117	457	212	669	41	37	61.2%		
	令和3年度	745	332	180	512	166	678	39	28	68.7%		
	令和4年度	744	368	144	512	174	686	28	30	68.8%		
	令和5年度	751	365	174	539	156	695	27	29	71.8%		
現代学芸課程	令和元年度	235	14	8	22	180	202	18	15	9.4%		
	令和2年度	17	2	1	3	11	14	1	2	17.6%		
	令和3年度	5	0	0	0	0	0	0	5	0.0%		
	令和4年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%		
	令和5年度	2	0	0	0	1	1	0	1	0.0%		
教育学研究科	令和元年度	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
教育実践高度化専攻 (教職大学院)	令和2年度	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	令和3年度	67	49	15	64	2	66	1	0	95.5%		
	令和4年度	60	43	15	58	2	60	0	0	96.7%		
	令和5年度	69	52	9	61	6	67	0	2	88.4%		
	教育学研究科 (後期3年 博士課程)	令和元年度	1	0	0	0	1	1	0	0.0%		
	令和2年度	1	0	0	0	1	1	0	0	0.0%		
	令和3年度	2	1	0	1	1	2	0	0	50.0%		
	令和4年度	1	1	0	1	0	1	0	0	100.0%		
	令和5年度	4	0	0	0	4	4	0	0	0.0%		
教育学研究科 (修士課程)	令和元年度	71	22	11	33	37	70	1	0	46.5%		
	令和2年度	58	29	5	34	22	56	0	2	58.6%		
	令和3年度	30	3	3	6	21	27	1	2	20.0%		
	令和4年度	37	2	0	2	28	30	2	5	5.4%		
	令和5年度	22	0	0	0	13	13	2	7	0.0%		
教育実践研究科 (教職大学院) (旧研究科)	令和元年度	51	43	7	50	0	50	0	1	98.0%		
	令和2年度	41	36	5	41	0	41	0	0	100.0%		
	令和3年度	8	4	4	8	0	8	0	0	100.0%		
	令和4年度	1	0	1	1	0	1	0	0	100.0%		
	令和5年度	-	-	-	-	-	-	-	-	-		

* 令和元年度～令和5年度の人数等は、文部科学省「教員養成学部等及び附属学校調査」の内容であり、9月卒業・修了者及び外国人留学生は含まない。なお、教育学研究科（修士課程）について、令和3年度より文科省調査における記載内容の変更があり、新旧両専攻を合わせた形で計上している。

* 教員は、幼、小、中、中等、高、特別支援学校の教員のみとし、大学教員や保育士等は教員以外に計上した。

* 大学院修了生で、現職教員等すでに就業している社会人も就職者として計上した。

* 進学者は、教育学部は大学院又は専攻科への進学者を、大学院は大学院博士課程への進学者を計上した。

* (旧研究科)は募集停止した組織を示す。

*現代学芸課程は募集停止した組織を示し、また教育支援専門職養成課程は平成29年度改組後の課程で、教員免許が取得できない課程のため、卒業開始年度の令和2年度より記載していない。

8 FD活動（ファカルティ・ディベロップメント活動）

令和5年度実施状況

題目	実施組織	実施内容・方法	参加人数 (人)
全学FD「教職大学院における新研修プログラム及び授業評価」	教職大学院 教育研究創成センター	本学教職員による集会、新プログラムについて理解を深めるとともに、成績評価基準等の適正化のため、過去の評価データをもとに議論を進め、今後の評価の方向性を確認した。	22人
全学FD「これからの教員養成大学の教員に求められる能力開発とは」	教育研究創成センター FD開発部門	ゲスト・スピーカーによる講演、新しいFDの在り方について検討する全学FDを実施し、本学ならではのFD指針の策定に取り組んだ。	116人
全学FD講演会「AI時代の新たな学びについて考える」	教職キャリアセンター 教育研究創成センター	ゲスト・スピーカーによる講演、教育情報化の最新動向について理解を深めると共に、AI時代の新たな学びについて考える機会とした。	80人
全学FD「外国にルーツを持つ子ども達への教育の必要性を大学全体で認識する」	日本語教育支援センター 教育研究創成センター	ゲスト・スピーカーによる講演、外国にルーツを持つ子ども達が学校生活を営み、学習に取り組めるような教育の重要性について、認識を高めた。	44人
全学FD「VUCAの時代の評価軸を考える」	教育研究創成センター FD開発部門	ゲスト・スピーカーによる講演、VUCAの時代に個人の力量や組織の力量を確認し、高めるために必要な評価軸について、考えを深める機会とした。	59人
全学FD・SD研修会「愛知教育大学の魅力共創—学生・院生の声を聴き合い、大学の魅力を共に創る—」	未来共創プラン戦略8 教育研究創成センター	本学教職員による集会、愛知教育大学の魅力を共に創ることについて、学生・院生の声を聴き合い、安心て意見交換ができる場とした。	41人
全学FD「学生のICT活用指導力向上に向けて②—教職課程における課題と取組を中心にして—」	教職キャリアセンター 教育研究創成センター	本学教員による集会、学生のICT活用指導力の向上に向けた取組状況の共有と意見交換を行った。	71人
全学FD講演会「障害のある学生への支援の在り方」	障害学生サポート委員会 障害学生支援室 教育研究創成センター	ゲスト・スピーカーによる講演、聴覚障害学生のための多様化する情報保障に関する最新の動向と支援の在り方について知識を深める場とした。	37人
全学FD集会「令和6年度実施の院生研修について」	教職大学院 教育研究創成センター	本学教員による集会、教職大学院における次年度からの新しい研修プログラムについての理解を深める場とした。	53人
授業公開	教育研究創成センター	合計13件 公開授業を実施、その後ディスカッションを実施。	68人

9 未来基金を活用した活動

設立
平成28年9月
未来基金の概要
<p>愛知教育大学は、これから社会を担う子どもたちの未来を拓くことができる多様な人材の養成に資することを目的とし、次の事業を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. 教育研究活動に関する支援事業 2. 修学に関する支援事業 3. 国際交流の推進に関する支援事業 4. 教育研究環境に関する整備事業 5. その他特に必要と認める事業
直近の取組（令和5年度以降）
<p>平成28年9月に設立した「愛知教育大学未来基金」は、従来の「愛知教育大学教育研究基金(平成17年10月設立)」を見直し、新たに創設した「AUE修学支援基金」と「教育研究基金」の2種類の構成となっている。『教育研究基金』は、従来の教育研究基金を引き継ぎ、学生表彰、留学生の交流支援、課外活動支援等幅広く学生等を支援し、『AUE修学支援基金』は、経済的に修学が困難な学生を対象に奨学金事業、留学支援事業を行っている。なお、『AUE修学支援基金』は、寄附金に対する税制上の優遇措置として、所得控除に加えて税額控除が選択できるようになっている。令和3年度からは、特定目的の事業を実施するため、使途を限定した『プロジェクト等使途限定基金』の整備をし、令和4年度からは、新たに未来基金リサイクル募金を導入し、4種類の構成となっている。</p>
創基150周年記念事業への募金活動の実施
<p>本学が令和5年に創基150周年を迎える教育研究基金に『愛知教育大学創基150周年記念事業』を設置し、令和4年度から募金活動を行った。この寄附を原資とし創基150周年記念事業を実施した。</p>
プロジェクト等使途限定基金「子どもキャンパスプロジェクト」の設置
<p>特定基金として「子どもキャンパスプロジェクト」に使途を限定した基金を設置し募集を開始した。</p>
附属学校園支援事業の設置
<p>特定基金として「附属学校園支援事業基金」を設置し、令和6年度から募集を開始する。</p>

<https://www.aichi-edu.ac.jp/intro/kikin/about.html>

教育研究基金					
学生表彰、課外活動、留学生の交流等、幅広く学生支援を行うもの					
収入	(単位：円)	支出（主な事業内容）	(単位：円)		
前年度繰越		64,655,710	課外活動等支援		0
前年度現物寄附		3,500	愛知教育大学学生表彰規程第2条（表彰の基準）該当学生等への報奨金		30,000
基金受入額		15,537,808	優秀学生に対する学長表彰		0
企業団体	10件	8,460,000	大学院生の学会発表に伴う交通費の補助		0
個人	232件	7,077,808	その他修学に関する支援事業		0
運用益		0	交流協定大学からの留学生受け入れ事業		1,750,000
			交流協定大学への留学希望学生に対する留学支援事業		450,000
			交流協定大学等の協力による海外学校体験事業		1,170,000
			その他国際交流の推進に関する支援事業		880,000
			教育研究環境に関する整備事業		0
			視覚障がい児教育研究のための教材		505,536
			創基150周年記念事業に関する事業		11,079,729
			職員表彰		26,100
			附属学校教員学費補填		200,000
			銘板・事務費等		1,050,108
			振込手数料等		122,507
合計	80,197,018		合計	17,263,980	

* 教育研究基金のうち、創基150周年記念事業寄附収入 9,669,000円（企業団体7件、個人99件）を含む。

AUE修学支援基金					
経済的な理由で修学に困難がある学生に対し支援を行うことにより、意欲と能力のある学生が希望する教育を受けられるよう支援するもの。使途が限定されており、具体的には、本学独自の返済不要な「愛知教育大学奨学金ひらく」の支給、学生の海外での多文化体験活動の支援に活用している。					
収入	(単位：円)	支出（主な事業内容）	(単位：円)		
前年度繰越		14,571,278	学資支援奨学金		1,000,000
基金受入額		8,510,727	緊急支援奨学金		300,000
企業団体	2件	25,000	多文化体験活動		190,000
個人	382件	8,485,727	振込手数料		48,017
運用益		0			
合計	23,082,005		合計	1,538,017	

* AUE修学支援基金のうち、リサイクル募金収入 77,727円（18件）を含む。

プロジェクト等使途限定基金「子どもキャンパスプロジェクト」					
「子どもキャンパスプロジェクト」に使途を限定して支援を行うもの					
収入	(単位：円)	支出（主な事業内容）	(単位：円)		
前年度繰越		0			
基金受入額		37,000			
企業団体	0件				
個人	6件	37,000			
運用益		0			
合計	37,000		合計	0	

※令和5年度にプロジェクト等使途限定基金（子どもキャンパスプロジェクト）として設置

第5章 研究活動

1 学長裁量経費等の採択状況

ア 教職実践力向上重点研究費

教職実践力向上重点研究費は、教育改革や機能強化に資する大学の目指す方向性に沿った教職実践力向上等のための研究費である。学校現場等で有効に活用できる実践的・実証的な研究や地域固有の課題解決に資する研究あるいは取組、附属学校をはじめとする学校や教育委員会、企業等と連携した研究あるいは取組で、中期目標・中期計画や未来共創プランの達成に資する成果が期待できるもの、教員養成あるいは教育支援の質の向上につながる優れた研究成果が期待できるもの等について、学内公募により優れたプロジェクトを選定、経費配分する。公募分野は、1 教育改善分野、2 連携推進分野、3 研究発展分野がある。

(単位：千円)

公募分野	研究課題名	学系・講座	研究代表者	採択額
2 連携推進分野	A自治体におけるスクールソーシャルワーカーの業務改善—タイムスタディ調査から	教育科学系 ・福祉講座	厨子 健一	352
2 連携推進分野	教育委員会と連携した「登校意欲を高める」授業の開発	教育科学系 ・学校教育講座	五十嵐 哲也	547
1 教育改善分野	理科・気象分野における、直接体験とICT活用を融合させた探究活動の実践と方法論開発	自然科学系 ・理科教育講座	田口 正和	485
2 連携推進分野	中日新聞社との連携によるNIE推進研究	人文社会科学系 ・社会科教育講座	土屋 武志	662
2 連携推進分野	コミュニティにひらかれ、つながる「調理学実習室」のこれから の在り方	創造科学系 ・家政教育講座	青木 香保里	300
1 教育改善分野	デザイン記号論を援用した情報I 「情報デザイン」の指導法の提案	自然科学系 ・情報教育講座	梅田 恒子	331
3 研究発展分野	学校における強み介入が小学生の学校適応感および心理的健康に 及ぼす効果の検討－介入効果の個人差に焦点をあてた短期縦断的研究－	教育科学系 ・心理講座	鈴木 伸子	481
2 連携推進分野	児童作文の書き出しおよび結びについての研究と作文指導法の開 発	人文社会科学系 ・日本語教育講座	加藤 恵梨	798
1 教育改善分野	インクルーシブ教育を見据えた家庭科（食物分野）の特別支援教 育の充実	創造科学系 ・家政教育講座	筒井 和美	200
1 教育改善分野	「ジェンダーと多様性」ブックプロジェクト	創造科学系 ・家政教育講座	山根 真理	500
1 教育改善分野	教員のメンタルヘルスと腸内細菌叢との関連	教育科学系 ・養護教育講座	渡邊 美貴	476
1 教育改善分野	スクールソーシャルワーク研修プログラムの開発	教育科学系 ・福祉講座	岩山 紗理	340
合計				5,472

イ 教員養成高度化推進設備等経費

教員養成高度化推進設備等経費は、大学及び附属学校における教育上必要であり、かつ教員養成の高度化もしくは教育支援専門職養成に資する教育活動を推進する設備を充実するための経費である。

(単位：千円)

設備名	学系・講座	代表者	採択額
アップライトピアノ	創造科学系 ・音楽教育講座	金原 聰子	630
65型液晶モニター ほか	附属特別支援学校	鈴木 則明	1,229
生物顕微鏡（1000倍）	教育科学系 ・養護教育講座	岡本 陽	360
熱中症対策一式	創造科学系 ・保健体育講座	山下 純平	739
レーンロープ	創造科学系 ・保健体育講座	寺本 圭輔	192
トレーニング機器一式	創造科学系 ・保健体育講座	三原 幹生	2,644
ソフトウェア、パソコン、ディスプレイ等	創造科学系 ・家政教育講座	青木 香保里	600
A I ライティングレコーダー	附属岡崎小学校	沓名 正樹	155
ゲスト用無線整備	附属名古屋中学校	石川 恭	1,819
デジタル切削加工実習設備	創造科学系 ・技術教育講座	鎌田 敏之	896
製氷機＆製氷機移設工事費	保健体育講座 学生支援課 創造科学系体育施設		705
		合計	9,969

ウ 科研費獲得サポート重点研究費

科研費獲得サポート重点研究費は、学内におけるチーム・個人による研究成果・業績を今後の科研費獲得につなげるための研究費である。公募分野は、1チーム研究分野、2研究発展分野がある。

(単位：千円)

公募分野	研究課題名	学系・講座	代表者	採択額
1 チーム研究分野	教育現場における性の多様性の理解と支援のための研究	教育科学系 ・心理講座	樋口 亜瑞佐	200
1 チーム研究分野	SDGsの達成に貢献するダンボールコンポスト作りと栽培活動を核とする総合的学習のモデルプランの開発	教育科学系 ・生活科教育講座	柿崎 和子	210
2 研究発展分野	ブラックホール磁気圏における磁気的不安定性の理論的研究	自然科学系 ・理科教育講座	高橋 真聰	125
2 研究発展分野	統・近現代日本小学校教員史研究 —明治初年の小学校教師像を中心に—	教育科学系 ・学校教育講座	釜田 史	200
2 研究発展分野	ピアニストの音楽観および教育観と現代のピアノ奏法の発展——ハンス・ライグラフを中心に——	創造科学系 ・音楽教育講座	田舎片 麻未	300
		合計		1,035

2 外部研究資金獲得状況

(1) 科学研究費助成事業

研究種目	申請・内定状況								資金獲得状況			
	新規				継続				新規／継続 合計			
	申請数	内定数	内定金額(円)		申請数	内定数	内定金額(円)		採択数	合計	採択金額(円)	
科学研究費			直接経費	間接経費			直接経費	間接経費			直接経費	間接経費
科学研究費	97	26	27,900,000	8,370,000	48	48	35,700,000	10,710,000	75	83,252,000	64,040,000	19,212,000
特別推進研究	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
基盤研究（S）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
基盤研究（A）	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
基盤研究（B）	3	0	0	0	1	1	3,700,000	1,110,000	1	4,810,000	3,700,000	1,110,000
基盤研究（C）	82	23	24,500,000	7,350,000	40	40	28,500,000	8,550,000	62	68,302,000	52,540,000	15,762,000
挑戦的研究（開拓）	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
挑戦的研究（萌芽）	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
若手研究（B）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
若手研究	5	2	2,500,000	750,000	4	4	1,800,000	540,000	8	6,760,000	5,200,000	1,560,000
研究活動スタート支援	1	1	900,000	270,000	3	3	1,700,000	510,000	4	3,380,000	2,600,000	780,000
特別研究促進費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
研究成果公開促進費	4	3	2,120,000	0	0	0	0	0	3	2,120,000	2,120,000	0
研究成果公開発表	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
国際情報発信強化	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
学術図書	2	1	1,300,000	0	0	0	0	0	1	1,300,000	1,300,000	0
データベース	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ひらめき☆ときめきサイエンス	2	2	820,000	0	0	0	0	0	2	820,000	820,000	0
国際共同研究加速基金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
国際共同研究強化（A）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
国際共同研究強化（B）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
帰国発展研究	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
特設分野研究基金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

* 当該年度の科学研究費助成事業に係る年間の実績を示す。なお、申請は、前年度に行われるが、「研究活動スタート支援」「国際共同研究強化（A）（B）」、「帰国発展研究」は当該年度に申請する。

研究代表者として申請した研究課題のみ示し、研究分担者として参加する課題は含まない。また、最終年度に期間延長した課題も件数に含めない。

申請件数・内定件数・内定金額は本学から申請したものに対して内定のあった件数・金額を示し、採択件数・採択金額は人事異動等を反映した後に本学に配当された金額を示す。

（交付申請時の金額。基金分の前倒し・育休等に伴う延長による金額変更は反映しないが、育休等に伴う延長は件数には含める。）

(2) 受託研究、共同研究、受託事業

令和5年度受託研究費受入状況

(単位：千円)

No.	受託先・事業名	件名（研究題目）	研究者名	契約金額*			研究対象	競争的
				合計	直接経費	間接経費		
		受託研究費		総計	3,700	2,900	800	
	国・地方公共団体			合計	150	115	35	
1	豊明市	ナガバノイシモチソウ群落の多様性及びクローン構造の解析	渡邊 幹男		150	115	35	○
	その他			合計	3,550	2,785	765	
2	公益財団法人 教科書研究センター	教科書研究センター調査研究事業	建内 高昭 犬塚 章夫		1,750	1,400	350	○
3	公益財団法人 理想教育財団	学力と自己成長力の育成における言語能力育成の研究	磯部 征尊		1,300	1,000	300	○
4	公益財団法人河川財団	令和5年度「全国河川・水教育大学間ネットワーク」事業における河川・水教育推進業務	大鹿 聖公		500	385	115	○

* 契約金額は当該年度に支給した金額

令和5年度共同研究費受入状況 該当なし

令和5年度受託事業費受入状況

(単位：千円)

No.	受託先・事業名	件名（研究題目）	事業担当	契約金額*			研究対象	競争的
				合計	直接経費	間接経費		
		受託事業費		総計	13,173	12,003	1,170	
	国・地方公共団体			合計	4,868	4,358	510	
1	【三市合計】 知立市 刈谷市 豊田市	外国人児童生徒のための学習支援	地域連携課	3,000	2,727	273		
				1,000	909	91		
				1,000	909	91		
				1,000	909	91		
2	文部科学省 総合教育政策局	令和5年度学校図書館司書教諭講習	地域連携課	702	702	0		
3	愛知県 (愛知県教育委員会)	あいちSTEAM能力育成事業 知の探究講座	学術研究支援課	231	210	21		
4	安城市	文化財悉皆調査	学術研究支援課	935	719	216		
	その他			合計	8,305	7,645	660	
5	一般財団法人 三菱みらい育成財団	愛教大SEHプロジェクト（附属高等学校）	附属学校課	2,000	2,000	0		
6	社会福祉法人 刈谷市社会福祉協議会	附属高等学校の社会福祉教育指定校活動事業	附属学校課	55	55	0		
7	一般財団法人 三菱みらい育成財団	フェイクニュース時代のメディア情報リテラシーを育成する 産・学・高校生協同プログラム	学術研究支援課	2,770	2,770	0		
8	愛知学長懇話会	高校生とともに教師の魅力を考えるフェスタ2023	総務課	120	120	0		
9	株式会社BSNネット	会津美里町のこどもデータ連携実証事業	学術研究支援課	2,860	2,200	660		
10	一般社団法人国立大学協会	「大学改革シンポジウム」こどもまんなかシンポジウム	学術研究支援課	500	500	0		

* 契約金額は当該年度に支給した金額

(3) 寄附金

令和5年度研究活動に係る寄附金受入状況

(単位：千円)

No.	寄附金名称等	寄付者等	受入者等	寄附金額
				総計 6,262
1	NMRの測定に関する研究助成	愛知県立半田高等学校 教諭 小澤 兼 ほか	自然科学系	216
2	湿地性植物の遺伝子解析に関する研究	株式会社 太陽機構 代表取締役 星野智司	自然科学系	500
3	公益財団法人 中谷医工計測技術振興財団 令和5年度科学教育振興助成	公益財団法人中谷医工計測技術振興財団 理事長 家次 恒	自然科学系	1,000
4	つのたんIP寄付金	株式会社つのたんIP 代表取締役 角田ミサ子	自然科学系	600
5	一般財団法人力ワイヤウンド技術・音楽振興財団	創造科学音楽教育講座 新山王 政和	創造科学系	750
6	令和4年度下北ジオパーク研究補助金	自然科学系理科教育講座 星 博幸	自然科学系	200
7	パナソニック教育財団 「共同研究」助成金	公益財団法人パナソニック教育財団 理事長 小野元之	学術研究支援課	500
8	湿地性植物の遺伝子解析に関する研究	グリーンフロント研究所（株） 代表取締役 小串 重治	自然科学系	600
9	新規燃料電池用触媒担持カーボン合成法の検索およびガス拡散層に関する研究	トヨタ紡織（株） 電動製品開発部長 平田 和之	自然科学系	290
10	小学生にSDGsを楽しく学べるカード教材を提供したい！	クラウドファンディング	自然科学系	1,006
11	公益財団法人 大幸財団2023年度（第12回） 人文・社会科学系学術研究助成	人文・社会科学系 社会科教育講座 宮村 悠介	人文社会系	600

3 研究成果の公表とその現状**(1) 研究者総覧システム**

正式公開	2009年9月
公開内容	本学全教員のプロフィール、研究業績、教育業績、社会活動及び管理運営実績情報等
URL	https://souran.aichi-edu.ac.jp/

(2) 学術情報リポジトリ

正式公開	2009年1月
概要	本学における教育・研究活動により創造された教育・研究成果及び本学が所蔵する学術情報資料を、電子的な形式で恒久的に蓄積・保存し、ネットワークを通じて学内外に無償で発信・提供することにより、本学の教育・研究の発展に資するとともに、社会に対する貢献を果たすもの
公開内容	紀要、論文、学長裁量経費や大学教育研究重点配分経費の成果報告書、学位論文の抄録、教員インタビュー等
URL	https://aue.repo.nii.ac.jp/
論文登録数	374件（令和5年度累計）
ダウンロード数	968,345件（令和5年度累計）

(3) 愛知教育大学出版会

設立	2005年6月
設立の経緯	愛知教育大学出版会は、2005年（平成17年）に研究成果を社会へ還元するという、大学の社会的使命を実現する有効な手段の一つとして設立された。以来、急激な時代の変容のなかで現代的な教育課題を始め、対応が困難な教育問題が次々と生じている社会的状況をふまえ、これまでに蓄積された研究の成果や実践的な教育理論や方法が活用されるよう、出版活動をとおして教育界を始め広く社会に発信を続けていている。
形態	法人の内部組織。国立大学法人愛知教育大学が、自らの責任において主体的に出版会の運営にあたる。
販売方法	愛知教育大学生活協同組合及びAmazon（平成23年度に法人登録及び商品登録）
URL	https://www.auepres.aichi-edu.ac.jp/

(4) アカデミックカフェの実施

概要	地域から頼られる大学を目標に、市民や学生がお茶とお菓子を楽しみながら大学教員と最先端の学問や研究について気軽に語り合うもの。高度な専門知識に関する市民からの素朴な質問やユニークな意見に対して、研究者として大学教員が分かりやすく説明し、大学に対して親しみを感じてもらう場として、また、生涯教育の場としても活用されるよう心がけて実施している。
令和5年度 実績	実績なし
	日 時
	講 師
	演 題
	参加人数

第6章 地域連携・社会貢献

1 公開講座

令和5年度開設状況

公開講座規程上の種類	開設講座数	実施講座数	受講者数
一般公開講座	21 講座	16 講座	169 人
現職教育公開講座	16 講座	13 講座	115 人
免許法認定公開講座	13 講座	13 講座	519 人
本学主催 小計	50 講座	42 講座	803 人
連携公開講座	17 講座	17 講座	492 人
各市との連携講座 小計	17 講座	17 講座	492 人
合計	67 講座	59 講座	1,295 人

2 教員研修

令和5年度教員派遣実績（愛知県総合教育センター）

(単位：人)

区分	研修・講座名	派遣延べ人数
(1) キャリア・アップ研修 ア 初任者研修	新規採用養護教諭研修	1
イ 中堅教諭等資質向上研修	小学校中堅教諭資質向上研修	36
	中学校中堅教諭資質向上研修	12
	高等学校中堅教諭資質向上研修	14
	特別支援学校中堅教諭資質向上研修	3
	中堅栄養教諭資質向上研修	2
(2) リーダー研修	小中学校社会体験型教員研修	1
(3) スキル・アップ研修	特別支援教育講座	2
	いじめ・不登校など今日的課題に対応する教育相談講座	1
	教育相談コーディネーター養成講座	1
	ICT活用実践講座	4
	学級・学年づくりに生かす教育相談講座	1
	特別支援学校におけるセンター的機能強化講座	1
合計		79

3 非正規学生の受入状況

当該年度4/1～3/31 (単位：人)

年間受入人数	合計	教育学部	教育学研究科 (修士課程)	教育学研究科 (専門職学位課程)	左記以外 (所属なし)
一般	8	4	0	0	4
研究生	1	1	0	0	0
科目等履修生	3	3	0	0	0
大学院特別研究学生	0	0	0	0	0
特別聴講学生	0	0	0	0	0
内地留学生	4	0	0	0	4
うち特殊教育内地留学生	0	0	0	0	0
うち現職教員派遣内地留学生	4	0	0	0	4
外国人留学生	36	25	11	0	0
研究生	10	7	3	0	0
科目等履修生	0	0	0	0	0
大学院特別研究学生	0	0	0	0	0
特別聴講学生	18	18	0	0	0
教員研修留学生	8	0	8	0	0

4 相談事業

(1) こころの支援研究部門

相談件数	件数	備考
新規 受理件数	48件	(令和4年度 45 件)
昨年度からの引き継ぎ件数	66件	-
合 計	114件	
面接 延べ回	955回	(内訳) 大学院生856回、研究協力員83回、講座教員 16 回

* 面接は、複数のスタッフが関わることがあるため、面接延べ回数と内訳の合計は一致しない。

ア 相談内容別

相談内容	件数	比率
不登校・登校渋り	38件	33.3%
対人関係	14件	12.3%
家族関係	3件	2.6%
場面緘默・緘黙傾向	7件	6.1%
発達に関する相談	18件	15.8%
情緒不安定	1件	0.9%
非行・怠学・生活の乱れ	3件	2.6%
自分自身について	10件	8.8%
いじめ	0件	0.0%
育児不安	2件	1.8%
虐待	1件	0.9%
引きこもり	1件	0.9%
家庭内暴力	1件	0.9%
対人不安・対人恐怖	1件	0.9%
その他の不安・恐怖	6件	5.3%
パニック	0件	0.0%
トラウマ	0件	0.0%
強迫傾向	0件	0.0%
摂食障害	0件	0.0%
心身症	0件	0.0%
うつ	1件	0.9%
将来への不安	1件	0.9%
その他	6件	5.3%
合 計	114件	

イ 相談者年齢別

年齢区分	人数	比率
乳幼児	4人	3.5%
小学生	28人	24.6%
中学生	8人	7.0%
高校生	9人	7.9%
大学生	1人	0.9%
学生以外未成年	0人	0.0%
20代(学生以外)	3人	2.6%
30代(学生以外)	8人	7.0%
40代(学生以外)	37人	32.5%
50代(学生以外)	14人	12.3%
60代以上(学生以外)	2人	1.8%
合 計	114人	

ウ 面接形態別

面接形態	件数	比率
個人面接 (子どものみ、保護者のみのカウンセリング)	16件	14.0%
並行面接 (子どもと保護者と並行して行うカウンセリング)	98件	86.0%
家族面接 (家族が来訪し、家族面接となる場合)	0件	0.0%
その他 (心理検査など)	0件	0.0%
合 計	114件	

(2) そだちの支援研究部門

相談件数	件数
新規 受理件数	14件
昨年度からの引き継ぎ件数	40件
合 計	54件

ア 相談内訳別

相談内容	件数	比率
発達障害	52件	96.3%
ビジョントレーニング	2件	3.7%
合 計	54件	

イ 相談者年齢別

年齢区分	人 数	比 率
乳幼児（就学前）	14人	25.9%
児童（小学生）	24人	44.4%
生徒（中学生）	12人	22.2%
生徒（高校生）	1人	1.9%
乳幼児、児童、生徒を除く未成年	0人	0.0%
成人	3人	5.6%
合 計	54人	

ウ 面接形態別

面接形態	件数	比率
親単独面接	9件	16.7%
親子並行面接	44件	81.5%
個人面接	1件	1.9%
合 計	54件	

エ 月別面接回数

実施月	回数(対面)	回数(遠隔)	小計
4月	64回	0回	64回
5月	59回	0回	59回
6月	73回	0回	73回
7月	65回	2回	67回
8月	2回	1回	3回
9月	75回	0回	75回
10月	66回	0回	66回
11月	82回	0回	82回
12月	78回	0回	78回
1月	68回	0回	68回
2月	61回	0回	61回
3月	1回	0回	1回
合 計	694回	3回	697回

5 ボランティア活動

令和6年3月31日時点

	募集先	事業名	ボランティア 学生数
(1) 一般 (学習支援関係)	日進市教育委員会	学校教育支援学生センター配置 事業	1人
(2) 一般 (学習支援関係)	清須市教育委員会	学校支援学生ボランティア	1人
(3) 一般 (学習支援関係)	岡崎市	岡崎市における保育園ボランティア	1人

*外国人児童支援ボランティアの近隣市への学生派遣状況については、第8章 1.1 日本語教育支援センター (1) 外国人児童生徒学習支援への学生派遣を参照

6 教育機関等との連携・協定

本学ウェブサイト参照

<https://www.aichi-edu.ac.jp/renkei/area/kyotei.html>

第7章 国際交流

1 留学生の受入状況

(1) 外国人留学生在籍者

(単位：人)

所属・学生区分別	R5/ 5/ 1 現在							R5/ 4/ 1 ~ R6/ 3/31										
	国費			私費			合計		国費			私費			合計			
	男	女	合計	男	女	合計	男	女	合計	男	女	合計	男	女	合計			
総計	8	5	13	14	27	41	22	32	54	8	6	14	21	33	54	29	39	68
教育学部				4	1	5	4	1	5				8	3	11	8	3	11
正規学生				2	1	3	2	1	3				2	2	4	2	2	4
	1年																	
	2年																	
	3年												1	1	1			1
	4年												1	2	3	1	2	3
非正規学生				2		2	2		2				6	1	7	6	1	7
	研究生			2		2	2		2				6	1	7	6	1	7
	科目等履修生	-	-	-						-	-	-						
大学院教育学研究科	4	1	5	6	18	24	10	19	29	4	2	6	7	18	25	11	20	31
正規学生	3	1	4	6	18	24	9	19	28	3	1	4	7	18	25	10	19	29
修士課程	2		2	4	17	21	6	17	23	2		2	5	17	22	7	17	24
	1年	2	2	1	7	8	3	7	10	2		2	2	7	9	4	7	11
	2年			3	10	13	3	10	13				3	10	13	3	10	13
後期3年博士課程	1	1	2	2	1	3	3	2	5	1	1	2	2	1	3	3	2	5
	1年			1		1	1	1	2		1	1	1	1	2	1	2	3
	2年	1	1		1	1	1	1	2	1		1			1		1	1
	3年				1		1	1	1			1		1		1		1
非正規学生	1		1				1		1	1	1	2				1	1	2
	研究生	1		1			1		1	1	1	2				1	1	2
	科目等履修生	-	-	-						-	-	-						
特別研究学生																		
その他	4	4	8	4	8	12	8	12	20	4	4	8	6	12	18	10	16	26
特別聴講学生				4	8	12	4	8	12				6	12	18	6	12	18
教員研修留学生	4	4	8	-	-	-	4	4	8	4	4	8	-	-	-	4	4	8

(単位：人)

国籍別	R5/ 5/ 1 現在							R5/ 4/ 1 ~ R6/ 3/31										
	国費			私費			合計		国費			私費			合計			
	男	女	合計	男	女	合計	男	女	合計	男	女	合計	男	女	合計			
総計	8	5	13	14	27	41	22	32	54	8	6	14	21	33	54	29	39	68
アジア	4	4	8	13	27	40	17	31	48	4	5	9	20	33	53	24	38	62
ネパール				1	1		1	1					1	1		1	1	
バングラデシュ	1		1			1		1		1		1				1		1
タイ				1	1		1	1					1	1	2	1	1	2
マレーシア				1	1		1	1					1	1		1	1	
インドネシア	1	2	3	2	1	3	3	3	6	1	2	3	2	1	3	3	3	6
フィリピン	1		1			1		1		1		1				1		1
香港				1	1		1	1					1	1		1	1	
韓国				1		1	1		1				1	1	1		1	
モンゴル	1	1				1	1		1	1						1	1	
ベトナム													1	1	2	1	1	2
中国				10	20	30	10	20	30				14	24	38	14	24	38
カンボジア	1	1	2			1	1	2		1	2	3				1	2	3
台湾				2	2		2	2					1	3	4	1	3	4
アフリカ	1	1	2			1	1	2		1	1	2				1	1	2
ケニア	1	1				1	1		1	1						1	1	
マラウイ	1		1			1		1		1		1				1		1
オセアニア																		
中南米	3	3	1		1	4		4		3		3	1		1	4		4
ブラジル	2	2	1		1	3		3		2		2	1		1	3		3
ペルー	1		1			1		1		1		1				1		1
ヨーロッパ																		

(2) 留学生支援

外国人留学生チューターの配置実績

学習 チューター	35人	留学生の専攻に関係する学生
日本語 チューター	23人	日本語能力を確認し、日本語チューターが必要な留学生にのみ日本語チューターを配置

2 在学生の海外留学

海外派遣実績

当該年度 4/1~3/31 の実績 (単位：人)

国・地域	派遣先大学	平成30年度 2018	令和元年度 2019	令和2年度 2020	令和3年度 2021	令和4年度 2022	令和5年度 2023
米国	ボールステイト大学						
英国	ニューマン大学	1	2		1		2
ドイツ	フライブルク教育大学	2	2		1	1	
香港	香港教育大学				1	1	
台湾	台湾師範大学	1				1	
韓国	晋州教育大学校	1					
インドネシア	国立ジョグジャカルタ大学				1		
合計		5	4		4	3	2

3 国際学術交流協定締結校

(1) 締結状況

令和6年3月31日 現在

国際学術交流協定締結校	合計 29校	協定内容		締結年月
		学術交流	学生交流	
アジア	20校			
タイ	AUE・ラチャバット・コンソーシアム(9校)	○	○	1996年5月(2004年改訂)
インドネシア	国立スラバヤ大学	○	○	2005年3月(2012年改訂)
	国立ジョグジャカルタ大学	○	○	2009年11月(2014年改訂)
香港	香港教育大学	○	○	2008年5月(2015年改訂)
	国立晋州教育大学校	○	○	1997年5月(2007年改訂)
韓国	国立光州教育大学校	○	○	2011年6月
	国立京仁教育大学校	○	○	2016年10月
モンゴル	モンゴル国立教育大学	○	○	2015年3月
ベトナム	ハノイ教育大学	○	○	2003年10月
	南京師範大学	○	○	1988年11月(2011年改訂)
	東北師範大学	○	○	2010年4月
中国	湖南師範大学	○	○	2012年3月
	陝西師範大学	○	○	2019年11月
	北京師範大学	○	○	2019年11月
	上海教育国際交流協会	○	○	2023年6月
カンボジア	国立教育研究所	○	○	2014年7月
	国立彰化師範大学	○	○	2004年5月
台湾	国立聯合大学	○	○	2006年11月
	国立台湾師範大学	○	○	2011年8月
	国立台北教育大学	○	○	2012年3月
中東	1校			
イラン	ファルハンギアン教育大学	○	-	2017年7月
北米	4校			
	ボールステイト大学	○	○	1988年5月(2000年改訂)
アメリカ合衆国	ニューヨーク州立大学フレドニア校	○	○	1988年6月(2014年改訂)
	インディアナ州立大学	○	○	2021年3月
カナダ	ブリティッシュコロンビア大学教育学部(オカナガンキャンパス)	○	○	2023年8月
中南米	1校			
ブラジル	サンパウロ大学	○	○	2013年1月
ヨーロッパ	3校			
英国	ニューマン大学	○	○	2003年3月(2023年改訂)
ドイツ	フライブルク教育大学	○	○	2006年3月
ロシア	モスクワ教育大学	○	○	1994年3月(2003年改訂)

* 協定内容 学術交流：学術交流に関する協定(学生交流を含む) 学生交流：学生交流計画に関する協定

* アフリカ、オセアニアには国際学術交流協定締結校なし。

* アメリカ合衆国のインディアナ州立大学について、協定内容(学生交流)を修正した。

(2) 単位互換

令和5年度単位認定の状況

(単位：人)

国際学術交流協定締結校	認定者数	備考
国立晋州教育大学校	0	2013年9月調印
国立ジョグジャカルタ大学	0	2019年8月締結

(3) 研究者等の受入状況

国際学術交流協定締結校からの招へい教職員受入実績

当該年度 4/1~3/31 の実績 (単位:人)

	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		
	2018		2019		2020		2021		2022		2023		
	事 務 員 員	計											
計	1	1	2	2	1	3	0	0	0	1	0	1	0
中国				1	1								
韓国													
台湾	1		1										
インドネシア													
タイ		1	1										
アメリカ													
ベトナム				1	1								
モンゴル				1	1					1	1		

4 大学間交流行事

令和5年度 大学間交流受入行事

受入年月	行事等	受入人数
2023年5月	晋州教育大学（韓国）からのショートステイプログラム	学生9人、教員1人
7月	光州教育大学（韓国）からのショートステイプログラム	学生16人、教員1人
7月	ニューマン大学（イギリス）からのショートステイプログラム	学生1人
9月	ジョグジャカルタ大学（インドネシア）からのショートステイプログラム	教員3人
11月	モンゴル国立教育大学からのショートステイプログラム	学生10人、教員2人
12月	京仁教育大学（韓国）からのショートステイプログラム	学生10人、教職員2人

令和5年度 大学間交流派遣行事

派遣年月	行事等	派遣人数
2023年8月	チェンライ・ラチャパット大学（タイ）へのショートビジットプログラム	学生2人、教員1人
8月	インディアナ州立大学（アメリカ）へのショートビジットプログラム	学生4人、教員1人
9月	フライブルク教育大学（ドイツ）へのショートビジットプログラム	学生11人、教員2人
9月	晋州教育大学（韓国）への交流プログラム	学生9人、教員2人
9月	モンゴル国立教育大学（モンゴル）へのショートビジットプログラム	学生2人、教員2人
9月	モンゴル国立教育大学（モンゴル）への科学・ものづくり推進交流プログラム	学生9人、教員2人
10月	光州教育大学（韓国）との異文化交流プログラム（オンライン）	学生13人
2024年2月	国立教育研究所（カンボジア）への健康教育支援プロジェクト	学生10人、教職員8人
2月	国立教育研究所（カンボジア）へのショートビジットプログラム	学生4人
2月	国立スラバヤ大学（インドネシア）へのショートビジットプログラム	学生1人
3月	陝西師範大学（中国）へのショートビジットプログラム	学生1人、教職員2人

5 外国人教員の採用状況

外国人教員（本務教員）在籍状況 令和5年5月1日 現在（単位：人）

国籍	教授	准教授	講師	合計
カナダ		1		1
韓国		1 (1)		1 (1)
ドイツ	1			1
合計	1	2 (1)		3 (1)

* ()は女性の人数で内数

外国人教員（兼務教員）在籍状況 令和5年5月1日 現在（単位：人）

国籍	合計	分野
オーストラリア	1	英語
アメリカ合衆国	1	英語
イギリス	2	英語
中国	2 (1)	中国語
ブラジル	2 (2)	ポルトガル語
フランス	1 (1)	フランス語
モンゴル	1 (1)	教育課程論
合計	10 (5)	

* ()は女性の人数で内数

第8章 附属施設の概要

1 附属図書館

ア 施設規模

各フロア集計	延床面積	閲覧座席数	収納可能冊数	情報コンセント	
				有線ポート	無線LAN
合計	5,861 m ²	411 席	766,300 冊	105	
1階	1,933 m ²	0 席	523,900 冊	0	無
書庫	1,526 m ²		523,900		
その他	407 m ²				
2階	1,945 m ²	221 席	68,900 冊	21	有
閲覧スペース	152 m ²	28	8,200		
学修スペース	509 m ²	193		21	
書庫	132 m ²		60,700		
事務室	194 m ²				
その他	958 m ²				
3階	1,928 m ²	190 席	173,500 冊	84	有
閲覧スペース	1,440 m ²	154	173,500	84	
学修スペース	107 m ²	36			
その他	381 m ²				
屋上	55 m ²	0 席	0 冊	0	無
塔屋	55 m ²	0	0	0	

イ 蔵書状況及び受入状況

蔵書数は令和6年3月31日現在、受入数は当該年度累計

項目名	蔵書数	受入数
図書	616,173 冊	3,144 冊
和書	490,223 冊	2,900 冊
洋書	125,950 冊	244 冊
雑誌	10,645 種	551 種
和雑誌	8,789 種	511 種
洋雑誌	1,856 種	40 種
電子ジャーナル契約	6,207 タイトル	
うち外国書	2,191 タイトル	
視聴覚資料	3,115 点	
学術情報リポジトリ登録件数	8,950 件	

ウ 開館状況

当該年度累計

	開館日数	開館時間数
合計	280 日	2,911 h
平日		
通常	66 日	528 h
延長	157 日	2,041 h
土日祝日	57 日	342 h
休館日数	86 日	-

通常開館：平日 月～金 9:00～17:00

延長開館：平日 月～金 9:00～22:00

休日 土・日・祝日 11:00～17:00

*休業期間中又は行事等により、開館日時の変更あり。

工 利用状況

(当該年度累計)

	利用者別				合計
	教職員	学生	学内者	学外者	
入館者数	-	-	112,239 人	3,312	115,551 人
平 日	-	-	106,900 人	2,836	109,736 人
土日祝	-	-	5,339 人	476	5,815 人
貸出冊数	5,436 冊	28,214 冊	33,650 冊	812	34,462 冊
平 日	4,738 冊	24,957 冊	29,695 冊	692	30,387 冊
土日祝	698 冊	3,257 冊	3,955 冊	120	4,075 冊
参考業務	899 件	1,292 件	2,191 件	1,147	3,338 件
相互利用件数	779 件	299 件	1,078 件	858	1,936 件
相互貸出	108 件	61 件	169 件	480	649 件
受付	-	-	-	480	480 件
依頼	108 件	61 件	169 件	-	169 件
文献複写	671 件	238 件	909 件	378	1,287 件
学内受付	136 件	0 件	136 件	0	136 件
学外受付	-	-	-	378	378 件
依頼	535 件	238 件	773 件	-	773 件
レファレンス件数	86 件	958 件	1,044 件	177	1,221 件
所在調査	20 件	294 件	314 件	43	357 件
事項調査	1 件	6 件	7 件	6	13 件
利用指導	65 件	658 件	723 件	128	851 件
その他件数	34 件	35 件	69 件	112	181 件
謝絶、紹介状受付件数等	34 件	35 件	69 件	112	181 件
学術情報リポジトリ					968,345 件
ダウンロード件数					968,345 件

*ダウンロード件数：検索サイト（Google、Yahoo等）による巡回アクセス数は含まない。

オ 多目的スペース使用状況

使用期間	タイトル	主 催 者	使用目的
4月26日	「混声合唱団新歓演奏会」	混声合唱団	イベント
7月19日	「混声合唱団学内演奏会」	混声合唱団	イベント
7月22日～7月23日	「愛知教育大学教員の著作図書展示(オーフンキャンパス)」	図書館運営室	展示
7月24日～8月4日	「AI Image AIイラスト展」	学生（初等教育科学）	展示
8月9日～8月10日	「絵本と遊ぶ！よみっこ夏の読み聞かせ祭」	幼児教育講座	イベント
10月2日～11月24日	「記念展覧会（愛知教育大学創基150周年）」	広報課	展示
10月14日	「所蔵図書展示（保護者懇談会）」	図書館運営室	展示
10月18日～11月24日	「青い目の人生形（あいちの会）（愛知教育大学創基150周年記念事業）」	創基150周年記念事業ワーキンググループ	展示
11月29日～12月28日	「愛知教育大学『明倫堂文庫』展」	図書館運営室	展示
1月24日～1月31日	「風景写生展」	美術教育講座	展示
2月2日～2月11日	「美術選修・専攻卒業制作/大学院修了作品展」	美術教育講座	展示
2月12日～3月1日	「彫刻展」	美術教育講座	展示

2 教職キャリアセンター

運営	第1回教職キャリアセンター委員会（令和5年4月11日）
	第2回教職キャリアセンター委員会（令和5年6月5日～9日）
	第3回教職キャリアセンター委員会（令和5年8月21日～25日）
	第4回教職キャリアセンター委員会（令和5年11月6日～8日）
	第5回教職キャリアセンター委員会（令和6年1月16日）
発行物	愛知教育大学教職キャリアセンター紀要第9号（令和6年3月29日発行）論文掲載数30件 公開：愛知教育大学学術情報リポジトリ https://aue.repo.nii.ac.jp/

（1）教科教育学研究部門

取組	例会
	4月例会（令和5年4月26日） 【テーマ決定】「教育研究の知見と授業づくり・学校づくりの往還」
	5月例会（令和5年5月24日） 【発表者】教職実践グループ 井上 正英
	6月例会（令和5年6月28日） 【発表者】国語科教育講座 砂川 誠司
	10月例会（令和5年10月25日） 【発表校】刈谷市立富士松南小学校研究発表会参加
	11月例会（令和5年11月29日） 【発表者】養護教育講座 山田 浩平
	1月例会（令和6年1月31日） 【シンポジウム】「霜田一敏先生寄贈資料開架記念シンポジウム」 【シンポジスト】宇都宮大学教授 潤池 善裕 先生 元豊川市立東部中学校校長 白井 博司 先生 愛知教育大学学長 野田 敦敬 ※未来共創プラン戦略2 教育のプラットフォーム構築プロジェクトと共同開催
	2月例会（令和6年2月28日） SCOPEの原稿を読む会
	大学・附属学校共同研究会
	大学・附属学校共同研究会代表者会議（令和5年4月26日） 8月 15分科会で大学教員と附属学校教員が共同研究を実施
発行物	環境整備
	高等学校用教科書（令和5年度使用）190種202点購入 教育未来館3階に配架
	SCOPEⅢ第14号（令和6年3月1日発行）論文掲載数16件
	特集「教育研究の知見と授業づくり・学校づくりの往還」
	公開：愛知教育大学教職キャリアセンターサイト https://tc.aichi-edu.ac.jp/database/scope3/ 県内全小中学校等に配布

（2）教育支援専門職研究部門

取組	「チーム学校」理解を促す授業教材の打ち合わせ	
	令和5年4月18日	教材作成デザイン、原稿作成、撮影と録画、編集などの教材開発作業
	令和5年5月15日	教材作成デザイン、原稿作成、撮影と録画、編集などの教材開発作業
	令和5年6月5日	教材作成デザイン、原稿作成、撮影と録画、編集などの教材開発作業
	令和5年6月26日	教材作成デザイン、原稿作成、撮影と録画、編集などの教材開発作業
	令和5年7月4日	教材作成デザイン、原稿作成、撮影と録画、編集などの教材開発作業
	令和5年9月22日	教材作成デザイン、原稿作成、撮影と録画、編集などの教材開発作業
	令和5年10月20日	教材作成デザイン、原稿作成、撮影と録画、編集などの教材開発作業
	令和5年11月20日	教材作成デザイン、原稿作成、撮影と録画、編集などの教材開発作業
	令和5年12月15日	教材作成デザイン、原稿作成、撮影と録画、編集などの教材開発作業
	令和6年1月26日	教材作成デザイン、原稿作成、撮影と録画、編集などの教材開発作業
	令和6年2月29日	教材作成デザイン、原稿作成、撮影と録画、編集などの教材開発作業
発行物	教材を用いた学生の理解度促進の検証	
	心理講座3年生に対して授業を実施、検証	
	「チーム学校」を理解するためにー困難を抱える子供たちの支援についてー実践編	
	公開：愛知教育大学教職キャリアセンターサイト https://tc.aichi-edu.ac.jp/database/teamgakkou/	

(3) ICT活用等普及推進統括部門

取組	部門会議（各活動リーダーによる審議・報告等）	
	第1回 部門会議（令和5年6月27日）	
	クロアポミーティング（客員教授・客員准教授を含む情報交換等）	
	毎週水曜開催	
	教員養成の教育課程に関連する事項	
	教員養成版ICT 活用指導力向上に向けての各教科の指導法の検討	
	各教科の指導法（デジタル教科書、附属のスタジオ化による連携を含む）	
	特別支援におけるICT活用	
	ICTに特化した科目的開発	
	ICT 活用指導力のパスポート化	
	教育課程外の支援に関連する事項	
	こらぼ（旧ALルーム）の運営、学生ICT支援員の育成	
	【体制】こらぼ学生（学生ICT支援員・こらぼラ）1-M2年生：43人	
	【実績】学生ICT支援員・こらぼラ向け勉強会：2時限、授業支援等：22時限、附属学校支援：13時限、SD講師：3回、勉強会講師：7回、学内外イベント支援：16回、機器貸出し：314回、機器類メンテナンス：毎月数時間程度	
研修会	学外連携に関連する事項	
	教員養成大学や教育委員会との連携による全国展開	
	企業連携	
	著作権法関係	
	学内のICT活用指導力向上に関する研修会 ※全学FD研修会	
	令和5年9月27日	全学FD講演会「AI時代の新たな学びについて考える」
	令和6年2月28日	全学FD「学生のICT活用指導力向上に向けて 2－教職課程における課題と取組を中心に－」
	体験型勉強会（見本市）	
	令和5年4月24日～28日	こらぼにて開催
	令和5年10月23日～27日	自然科学棟にて開催

(4) 教員研修部門

取組	愛知教育大学教員研修連携協議会（愛知県総合教育センター/名古屋市教育センター）		
	令和5年6月15日	第1回 愛知教育大学教員研修連携協議会	
	令和5年10月19日	第2回 愛知教育大学教員研修連携協議会	
	令和6年2月28日	第3回 愛知教育大学教員研修連携協議会	
令和5年度オンデマンドによるスクールリーダー研修会			
研修会	令和5年7月20日～ 8月31日	方法:Google Classroomを使用したオンデマンド研修 対象者:小・中・高・特別支援学校の管理職および教育委員会関係者	参加者:延べ273人
	令和5年度スクールリーダー研修会		
	第1回 令和5年8月9日	会場:愛知教育大学 対象者:小・中・高・特別支援学校の 管理職、教育委員会関係者	参加者:37人
	第2回 令和5年11月14日		参加者:60人
	第3回 令和6年2月14日		参加者:56人
令和5年度喫緊の教育課題を学ぶ会（自主研修会）			
	第1回 令和5年9月2日	会場:愛知教育大学（第1回,第2回,第4回）、JPタワー名古屋ホール&カンファレンス（第3回）	対象者:教員、教育委員会及び自治体職員、教員を目指す学生（院生） 参加者:27人
	第2回 令和5年10月20日		参加者:22人
	第3回 令和5年11月21日		参加者:18人
	第4回 令和5年12月6日		参加者:13人

3 教育研究創成センター

運営	第1回教育研究創成センター（令和6年3月14日）
----	--------------------------

(1) 実践教育研究部門

該当なし

(2) FD開発部門

ア 全学FD講演会等

(単位：人)

実施日	題名	実施組織	教員	事務職員
6月30日	全学FD「教職大学院における新研修プログラム及び授業評価」	教職大学院 教育研究創成センター	22	0
9月1日	全学FD「これからの中教員養成大学の教員に求められる能力開発とは」	教育研究創成センター FD開発部門	99	17
9月27日	全学FD講演会「AI時代の新たな学びについて考える」	教職キャリアセンター 教育研究創成センター	69	11
11月29日	全学FD「外国にルーツを持つ子ども達への教育の必要性を大学全体で認識する」	日本語教育支援センター 教育研究創成センター	37	7
1月22日	全学FD「VUCAの時代の評価軸を考える」	教育研究創成センター FD開発部門	52	7
2月22日	全学FD・SD研修会「愛知教育大学の魅力共創—学生・院生の声を聴き合い、大学の魅力を共に創る—」	未来共創プラン戦略8 教育研究創成センター	13	28
2月28日	全学FD「学生のICT活用指導力向上に向けて②－教職課程における課題と取組を中心にして－」	教職キャリアセンター 教育研究創成センター	64	7
3月7日	全学FD講演会「障害のある学生への支援の在り方」	障害学生サポート委員会 障害学生支援室 教育研究創成センター	21	16
3月13日	全学FD集会「令和6年度実施の院生研修について」	教職大学院 教育研究創成センター	53	0
参加者数は延べ数で、教員には非常勤講師を含む。			参加者数合計	430
				93

イ 授業公開

(単位：人)

公開日	授業名	授業者	教員	事務職員
対面実施				
6月26日（月）1限	初等体育科教育内容A (水泳、Aコース/Bコース)	寺本 圭輔	7	0
6月27日（火）3限	スクールソーシャルワーク演習	厨子 健一	11	0
6月29日（木）1限	基礎物理学演習	宮川 貴彦	5	0
6月30日（金）2限	幾何学A	井戸 紗子	13	0
12月12日（火）3限	市民リテラシー	阿部 亮吾	3	0
12月12日（火）3限	生活科総合的学習授業論	加納 誠司	2	1
12月19日（火）3限	市民リテラシー	今村 健一郎	2	0
12月19日（火）3限	生活科総合的学習授業論	加納 誠司	4	0
1月16日（火）2限	初等体育科教育法A	西村 三郎	2	0
1月18日（木）2限	ドイツ語 I	Oliver MAYER	7	0
1月18日（木）4限	調理実習 I	筒井 和美	2	0
1月24日（水） 8:40～10:00	On-the-job Training型のコンサルテーション	小倉 靖範	5	0
1月26日（金）1限	重複障害者指導法演習	永江 智尚	4	0
参加者数合計			67	1

ウ 授業改善のためのアンケート、自己評価報告書

前期（7月11日～8月5日）

アンケート結果 https://sousei.aichi-edu.ac.jp/publication/questionnaire/ar5_1/自己点検評価結果 https://sousei.aichi-edu.ac.jp/publication/selfassessment/r5_1/

後期（1月24日～2月15日）

アンケート結果 https://sousei.aichi-edu.ac.jp/publication/questionnaire/ar5_2/自己点検評価結果 https://sousei.aichi-edu.ac.jp/publication/selfassessment/r5_2/**4 教育臨床総合センター**

第6章 地域連携・社会貢献の「相談事業」を参照

5 国際交流センター

第7章 国際交流を参照

6 地域連携センター

(1) 委員委嘱及び講師派遣依頼

機関	件数	内訳(件数)					
		講師派遣				委員委嘱	その他
		教員対象	小中高生	一般	その他		
教育委員会	46	23	5	7	1	10	0
学校	99	58	41	0	0	0	0
教育センター	18	17	0	0	1	0	0
行政機関 (上記除く)	34	0	3	15	0	15	1
企業	0	0	0	0	0	0	0
その他	38	26	0	5	4	3	0
計	235	124	49	27	6	28	1

(2) 協定の締結状況

本学ウェブサイト参照

<https://www.aichi-edu.ac.jp/renkei/area/kyotei.html>

(3) 公開講座

第6章 地域連携・社会貢献の「公開講座」を参照

(4) 高校訪問授業

区分	派遣数	実施月						
		6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
県内公立	26	4	4	1	1	9	6	1
県内私立	1	0	1	0	0	0	0	0
県外	1	0	0	0	1	0	0	0

(5) その他の実施イベント

地域連携フォーラム2023

実施日	テーマ	場所	参加者数
令和6年1月27日	未来をともに創る 私たちのSDGs	刈谷市総合文化センター	100人

医教連携フォーラム

実施日	テーマ	場所	参加者数
令和5年12月25日	医教連携によって開発した食物アレルギー等 緊急時対応プログラムの実践 —そなえる＆ふせぐ 安心な学校づくり—	ワインクあいち	49人

ユネスコスクール指導者研修会

実施日	テーマ	場所	参加者数
令和5年8月21日	—	愛知県生涯学習推進センター	29人

(6) 発行物

区分	タイトル	発行年月
広報誌	ちいきの大学第21号	令和6年3月

7 科学・ものづくり教育推進センター

(1) 科学ものづくりフェスタ

実施日	実践名・実践場所	対象	来場者数(人)	参加学生数(人)	学外ブース数
令和5年11月18日	科学・ものづくりフェスタ@愛教大（大学）	幼・小・中・高・一般	約1600	86	8

(2) 訪問科学実験

実施日	実践名・実践場所	対象	参加者数 ：子ども (人)	参加者数 ：保護者 (人)	参加学生数 (人)	区分
	計 44回				390	
令和5年4月16日	上重原北子ども会	小1～6	24	4	5	その他
令和5年4月23日	夢と学びの科学体験館	未就学児～小6	150	100	19	科学館
令和5年5月3日	生命の海科学館	小1～6	20	10	5	科学館
令和5年5月7日	子どもまつり（大学）	幼・小	多数	若干名	6	本学
令和5年5月13日	大学祭（大学）	大学生	多数	0	10	本学
令和5年5月14日	大学祭（大学）	大学生	多数	0	10	本学
令和5年5月17日	刈谷市立小垣江東小学校	小5～6、特別支援学校	87	0	16	学校
令和5年5月21日	初心者のための科学コミュニケーション講座	-	0	0	2	その他
令和5年6月7日	刈谷市立富士松南小学校	小6	130	0	16	学校
令和5年6月10日	生命の海科学館	小1～6	40	0	7	科学館
令和5年6月11日	井ヶ谷の子ども会	小学生	96	0	21	その他
令和5年6月25日	作野学区子供会	小1～6	80	20	17	その他
令和5年6月28日	刈谷市立双葉小学校	小6	99	0	16	学校
令和5年7月1日	八開地域連絡協議会 のびのびっこ	未就学児～小6	52	17	10	その他
令和5年7月12日	刈谷市立富士松東小学校	小6	82	0	13	学校
令和5年8月7日	瀬戸市立水野小学校PTA	小1～6	40	若干名	11	学校
令和5年8月11日	夢と学びの科学体験館	未就学児～小6	150	多数	20	科学館
令和5年8月14日	生命の海科学館	-	20	0	5	科学館
令和5年8月23日	森岡公民館	小1～6	15	0	4	その他
令和5年8月24日	千代田市民センター	小6	40	10	7	その他
令和5年8月27日	刈谷市北部生涯学習センター1DAY講座	小1～6	20	0	14	その他
令和5年9月16日	新屋子育てクラブ	小1～6	33	27	8	その他
令和5年10月1日	白鳥自治会	幼児～中学生	180	若干名	6	その他
令和5年10月7日	プライムツリー赤池	小学生～中学生	多数	若干名	5	その他
令和5年10月14日	刈谷市創意工夫展	-	多数	多数	5	その他
令和5年10月15日	刈谷市創意工夫展	-	多数	多数	5	その他
令和5年10月19日	愛知教育大学附属名古屋小学校	小1小2	180	0	12	学校
令和5年10月21日	呼続小学校PTA父ちゃんの会	小学生	67	20	6	学校
令和5年10月22日	電気の科学館	未就学児～小6	100	多数	9	科学館
令和5年11月5日	ミライク（夢と学びの科学体験館）	幼児～小学生	43	20	4	科学館
令和5年11月11日	モノづくりと見学会とのタイアップ企画	小学生	30	0	6	その他
令和5年11月23日	城北小学校	小1～6	123	100	10	学校
令和5年11月26日	とよたものづくりフェスタ	小学生	200	0	4	その他
令和5年11月29日	刈谷市立双葉小学校	小5	110	0	7	学校
令和5年12月3日	一ツ木いづみ子ども会	小1～6	65	10	7	その他
令和5年12月10日	子どもまつり（大学）	幼児～小学生	多数	0	9	本学
令和5年12月13日	上重原西保育園	保育園児	91	0	4	その他
令和5年12月17日	館中子ども会	小学生	34	4	6	その他
令和6年1月17日	刈谷市立亀城小学校	小6	114	0	6	学校
令和6年1月21日	科学の祭典	未就学児～大人	180	多数	5	その他
令和6年1月24日	刈谷市立小高原小学校	小6	106	0	6	学校
令和6年2月28日	刈谷市立小垣江東小学校	小3小4	72	0	6	学校
令和6年3月6日	西尾中央幼稚園	幼児	132	10	11	その他
令和6年3月7日	岡崎女子短期大学付属幼稚園	年中・年長児	84	0	9	その他

(3) ものづくり教室

実施日	実施会場	内容	対象	参加者数 (人)
		計 5回		59
令和5年4月22日	愛知教育大学	木でつくる身近なもののづくり～ミニテープル・スライド小箱・ミニチュアなど～	小3～中3 小1, 2保護者同伴	12
5月20日	愛知教育大学	形状記憶合金で熱エンジンをつくろう	小3～中3	11
6月17日	愛知教育大学	フルフル発電機をつくろう	小3～中3	12
6月24日	愛知教育大学	金属を溶かしてタグをつくろう	小3～中3	10
令和5年12月23日	愛西市文化会館	「あいさい土曜キラリ☆学習」 ・金属を溶かしてタグを作ろう ・フルフル発電機を作ろう ・形状記憶合金で熱エンジンを作ろう	小学生	14

(4) その他の実施イベント

令和5年8月21日 理科観察実験指導力向上セミナー(小学校教員対象)を実施

令和5年8月24日 理科観察実験指導力向上セミナー（中学校教員対象）を実施

令和6年2月29日 理科実験プレ教員セミナーを実施

8 健康支援センター

令和5年度健康支援センター利用者数

累計(単位:人)

区分	傷病	内科	外科	その他	休養室利用	健康相談	身体的	精神的	その他	健康診断	定期健診	クラブ健診	医療機関紹介	診断書発行	その他来所者	計	
学生	142	68	68	6	59	1,210	403	605	202	3,863	3,807	56	19	1	3,250	8,544	
男	40	18	20	2	6	311	166	94	51	1,642	1,610	32	9	0	1,194	3,202	
女	102	50	48	4	53	899	237	511	151	2,221	2,197	24	10	1	2,056	5,342	
大学職員	19	11	8	0	2	310	38	49	223	0	0	0	0	0	454	785	
その他	12	8	4	0	3	56	6	2	48	0	0	0	0	2	0	289	362
合計	173	87	80	6	64	1,576	447	656	473	3,863	3,807	56	21	1	3,993	9,691	

* 学生は、正規学生（学部、大学院、専攻科）及び非正規学生（研究生、科目等履修生等）の合計

* 大学職員は、理事等、大学教員、附属学校教員、事務職員、非常勤講師、非常勤職員の合計

* その他は、保護者、学外者等の合計

* クラブ健診は、競技会参加のための事前健康健診をクラブ・サークルの依頼で行った場合などが該当

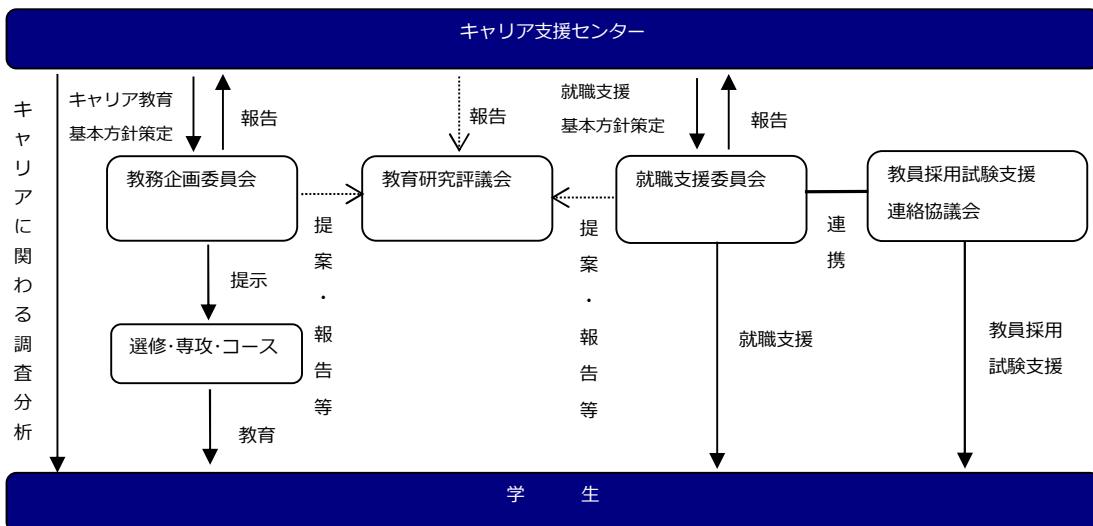
9 ICT教育基盤センター

講習会等の実施状況

講習会・タイトル	対象	講師	参加者数
情報セキュリティ講習会			
「事務職員のための業務におけるパソコン活用について」	新任事務職員	情報企画室職員	6人
「学内ネットワークなどの利用方法について」	新任教員	情報企画室職員	5人
個人情報保護・情報セキュリティセミナー			
「事例で学ぶ学校情報セキュリティ」	教職員（附属学校教員含む）	eラーニング形式のためなし (教材作成は広島県教科用図書販売株式会社)	394人
基礎講習			
「情報教育入門」	教育学部1年	担当教員	901人

10 キャリア支援センター

(1) 支援体制



(2) 支援プログラム

キャリア形成支援プログラム 令和5年度

	1年生	2年生	3年生	4年生
大学の支援体制	キャリアデザインⅠ (前期：必修) 学校体験活動入門 介護等体験	キャリアデザインⅡ (後期：必修) 学校体験活動Ⅰ 心理コース(心理的アセスメント 心理実習等)	学校教育実習 学校体験活動Ⅱ・自然体験活動・多文化体験活動 ・企業体験活動から1科目選択 福祉コース (スクールソーシャルワーク実習・社会福祉実習等) 教育ガバナンスコース (学校・自治体インターンシップ)	教育実習（小・中・高） 特別支援学校教育実習 教職実践演習
ガイダンス等	キャリアデザインガイダンス 各課程ガイダンス インターンシップガイダンス		教員就職ガイダンス 再チャレンジガイダンス 企業・公務員就職ガイダンス インターンシップガイダンス	対策講座、セミナー
			個別相談	

・卒業後支援について：卒業生に対しても必要に応じ窓口相談等を行う。

また、地域の教育機関からの非常勤講師募集等の情報を集約し、適宜情報提供する。

11 日本語教育支援センター

(1) 外国人児童生徒学習支援への学生派遣

事業名	支援場所				支援児童生徒数	ボランティア派遣学生数
	市町村	小学校	中学校	その他		
小中学校等での個別支援	刈谷市	7校	2校		29人	28人
	豊田市	14校	4校		36人	36人
	知立市	2校	1校	1団体	19人	29人
集団支援（マスマス教室）	知立市立知立東小学校				104人	延べ241人 (実施回数12回)
土曜親子日本語教室	愛知教育大学				225人	延べ199人 (実施回数14回)

*令和5年度の学部生・大学院生のボランティア登録者数：253人

(2) センター主催研修会

令和5年度センター主催研修会

実施日	研修会名	対象	参加者
令和5年4月21日	初めて日本語担当／国際教室担当となった教員に対する研修	初めて日本語担当／国際教室担当となった教員	64人
令和5年5月26日			
令和5年9月23日	「基礎から学ぼう」講座1	教員	138人
	「基礎から学ぼう」講座2	教員	129人
令和5年10月7日	「基礎から学ぼう」講座3	教員	139人
	「基礎から学ぼう」講座4	教員	143人
令和5年12月9日	子どもたちへの日本語指導 ワークショップ 講座1	教員	15人
	子どもたちへの日本語指導 ワークショップ 講座2	教員	19人
令和5年12月23日	子どもたちへの日本語指導 ワークショップ 講座3	教員	26人
	子どもたちへの日本語指導 ワークショップ 講座4	教員	21人
令和6年2月17日			
令和6年2月18日	DLA スピンオフ研修	教員	9人

(3) 委員委嘱及び講師派遣依頼

令和5年度委員委嘱及び講師派遣依頼

依頼区分	実績等
講師派遣依頼	3件
教育委員会	2件
学校	1件（大学）
その他	

(4) 教材一覧

区分	タイトル	発行年月
ワークブック	ことばとおぼえるひらがなワーク	2009年3月
	ことばとおぼえるカタカナワーク	2009年3月
	ことばとおぼえるひらがなワーク 絵カード	2010年3月
	ことばをふやす漢字ワーク	2011年3月
	たのしくおぼえることばワーク	2012年3月
教科教材	ことばとまなぶ算数文章題(2年生)	2010年1月
	ことばとまなぶ算数文章題(3年生)	2010年1月
	外国人児童のための小学校社会科教材	2012年3月
保護者支援教材	幼稚園・保育園ガイドブック（ポルトガル語）	2013年3月
	幼稚園・保育園ガイドブック（中国語）	2013年3月
	幼稚園・保育園ガイドブック（タガログ語）	2013年7月
	幼稚園・保育園ガイドブック（スペイン語）	2013年7月
	幼稚園・保育園ガイドブック（英語）	2013年8月
	幼稚園・保育園ガイドブック（ベトナム語）	2020年3月
	小学校ガイドブック（ポルトガル語）	2015年3月
	小学校ガイドブック（スペイン語）	2015年3月
	小学校ガイドブック（中国語）	2015年11月
	小学校ガイドブック（英語）	2015年12月
	小学校ガイドブック（タガログ語）	2016年2月
	小学校ガイドブック（ベトナム語）	2019年3月
	中学校ガイドブック（ポルトガル語）	2018年3月
	中学校ガイドブック（タガログ語）	2018年3月
	中学校ガイドブック（中国語）	2018年3月
	中学校ガイドブック（英語）	2018年3月
	中学校ガイドブック（スペイン語）	2019年2月
	中学校ガイドブック（ベトナム語）	2021年3月
多文化共生	いまさらだけど多文化共生ってなに？（日本語）	2022年3月
	いまさらだけど多文化共生ってなに？（ポルトガル語）	2022年3月
	いまさらだけど多文化共生ってなに？（タガログ語）	2022年12月
	いまさらだけど多文化共生ってなに？（ベトナム語）	2022年12月
	いまさらだけど多文化共生ってなに？（スペイン語）	2023年1月
その他	いまさらだけど多文化共生ってなに？（中国語）	2023年10月
	ことばをふやす もじにしたしむ 保育園・幼稚園でできる活動集	2018年3月

(5) その他の実施イベント

・勉強会

実施日	タイトル	場所	参加者数
令和5年7月19日	「『日本語』を客観的にみてみよう」	国際教育棟 指導者研修室	16人
令和5年8月2日	「イラスト講師に教えてもらう楽しいイラスト」	国際教育棟 指導者研修室	14人
令和5年8月9日	「学習者用デジタル教科書勉強会」	国際教育棟 指導者研修室	18人
令和5年9月27日	「話し方のプロと考える外国人児童生徒への伝え方」	国際教育棟 指導者研修室	13人
令和5年12月18日	土曜親子日本語教室 大人クラス勉強会	国際教育棟 指導者研修室	7人
令和6年1月29日	「もし、自分が外国にルーツを持つ園児の先生になったら」	次世代教育イノベーション棟 AUEカキツバタホール	36人
令和6年2月2日	「リソースルーム的映画鑑賞会『マイスマールランド』」	教育未来館 多目的ホール	9人

・見学会

実施日	タイトル	場所	参加者数
令和5年8月7日	在名古屋ブラジル総領事館見学会	在名古屋 ブラジル総領事館	23人
令和5年9月20日	知立市立知立東小学校 授業見学	知立市立知立東小学校	12人
令和6年1月12日	岐阜県立東濃高等学校 授業支援・見学	岐阜県立東濃高等学校	9人
令和6年1月18日	愛知県立明和高等学校 定時制授業見学会	愛知県立明和高等学校	13人
令和6年2月29日 令和6年3月1日	横浜市日本語支援拠点施設ひまわり 授業支援・見学	横浜市日本語支援拠点施設 「鶴見ひまわり」	8人 11人

・FD講演会

実施日	タイトル	場所	参加者数
令和5年11月29日	「外国にルーツを持つ子ども達への教育の必要性を大学全体で認識する」	本部棟3階 第五会議室	49人

・報告会

実施日	タイトル	場所	参加者数
令和5年12月27日	未来につながる外国人児童生徒支援と学生成育 ～教員養成大学と教育委員会の互恵的な連携の在り方～	本部棟3階 第一会議室	92人

12 インクルーシブ教育推進センター

本センターは、県内外の幼稚園、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校等の教育機関と連携し、共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育を推進している。そのために、情報収集及び情報発信、教員向けの研修を実施し、地域の教育機関等と連携を図り、必要に応じて支援を行っている。

インクルーシブ教育推進のため、教育相談、共生教育推進、特別支援教育に関する相談・情報提供を引き続き行つた。令和5年度は、令和4年度に引き続き、教員の力量向上をめざし、特別支援学級担当者への指導・支援を重点目標にして取り組んだ。教員研修では、附属特別支援学校で授業参観をする折に、子どもへの指導方法や支援方法などを紹介した。また、中堅教諭等資質向上研修や、みよし市教育委員会指導主事研修において多くの教員を受け入れ、特別支援教育について研修を行つた。

また、夏休み中には、明星大学教育学部の菅原眞弓先生を講師として招き、センター主催の公開セミナーを実施した。多くの方が参加できるように、岡崎市民会館で対面とオンラインの両方を使っての開催とし、計148人の参加があった。

【活動状況】

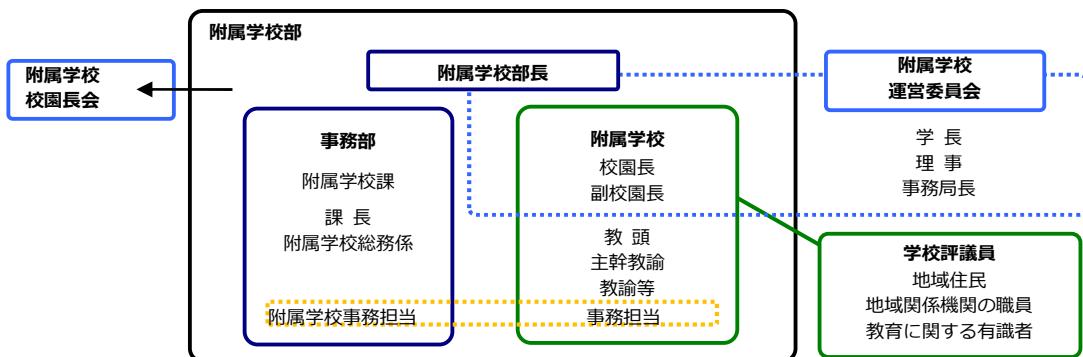
(単位：回)

区分	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
特別支援学校授業研究会・研究部会等	23	23	24	23
教育相談	10	16	28	34
コンサルテーション学習会	3	3	2	2
父母教師会会議	4	4	4	4
愛知県特別支援教育研修委員会	-	-	-	-
特別支援教育に携わる教員の参観・研修会	11	18	21	16
特別支援学校在校児童の園との情報交換会	-	-	-	-
在学児童生徒の居住地校との交流会	-	3	7	5
特別教育推進部会学習会	7	11	10	12

第9章 附属学校

1 附属学校の活動状況

附属学校部の組織図



附属学校規模

令和5年5月1日現在

学校名	学級数	児童・生徒等 収容定員	教員定員							
			校長	副校長	教頭	主幹 教諭	教諭	養護 教諭	栄養 教諭	合計
附属幼稚園	6	140	1	0	0	1	6	1	0	9
附属名古屋小学校	18 (2)	555 (30)	1	0	1	1	28	1	1	33
附属岡崎小学校	18	555	1	0	1	1	22	1	0	26
附属名古屋中学校	12 (3)	432 (45)	0	1	1	1	27	1	0	31
附属岡崎中学校	12	432	0	1	1	1	22	1	0	26
附属高等学校	12	360	1	0	1	1	26	1	0	30
附属特別支援学校	9	60	1	0	1	1	25	1	1	30
合 計	87 (5)	2,534 (75)	5	2	6	7	156	7	2	185

* 教諭には、大学教員が兼務する校長は除く。

* ()は帰国児童生徒学級に係る学級数、人数を外数で示す。帰国児童生徒学級の1クラス定員は、小学校・中学校とも15人

* 小学校は平成30年度入学まで1学級35人定員、令和元年度入学より1学級30人定員

* 中学校は平成29年度入学まで1学級40人定員、平成30年度入学より1学級36人定員

* 高等学校は令和2年度入学まで1学級40人定員、令和3年度入学より1学級30人定員

* 附属幼稚園は3歳児40人、4・5歳児50人定員で、いずれも2学級

* 附属特別支援学校は小学部・中学部・高等部で構成され、主たる障害種別はいずれも知的障害。小学部は2学年で1学級の複式学級

(1) 附属幼稚園

ア 教育目標

一人一人を大切にする保育環境の中で、自己肯定感を育むことを大切にしながら、生活や遊びの様々な体験を通して、豊かな感性・ものごとに取り組む意欲と行動力をはじめとする、自然や社会と関わって生きていくための基礎的な力を育み、生涯にわたる人格形成の基礎を培うことを目標とする。

3歳児 安心して自分の思いを出し、先生や友達と一緒に生活する楽しさを味わえるようにする。

4歳児 気の合う友達と思いを出し合って、一緒に遊びや生活を進める楽しさを味わえるようにする。

5歳児 仲間とのかかわりの中で、共通の目的をもって取り組み、満足感や充実感を味わうとともに、自信をもって行動できるようにする。

イ 令和6年度入園児選抜状況〈令和5年度実施〉

[出願資格] 入園時に幼稚園へ入園する年齢に達する見込みの幼児
園が指定する小学校区に保護者と居住する者
保護者等が付き添って、徒步又は公共交通機関で登降園できる幼児

[選抜方法] 第1次：面接及びグループ遊び 第2次：抽選

(単位：人)

	入学定員	志願者	受験者	合格者	合格倍率	入学者
附属幼稚園	50	62	60	49	1.22	44
3歳児	40	45	44	40	1.10	35
4歳児	10	17	16	9	1.78	9

* 合格倍率 = 受験者計 ÷ 合格者計 (小数点第3位 四捨五入)

ウ 在籍者数(令和5年5月1日現在) (単位：人)

学級数	在籍者		
	男	女	計
附属幼稚園	6	80	60
3歳児	2	22	18
4歳児	2	32	18
5歳児	2	26	24
			50

エ 園児の転出入等 (単位：人)

	転・編入学	転・退学
3～5歳児	0	5

オ 卒園児の進路(令和6年3月卒園児)

卒園児合計 50人：附属名古屋小学校 50人

カ 研究活動

研究発表会： 令和5年11月9日(木)に「公開保育・保育を語る会」を開催。保育を語る会には共同研究者の本学幼稚教育講座教員5名が、指導・助言者として参加。バズセッション等を行った。また、参加者に保育環境を見ていただくため、施設公開を行った。

主題： 「わくわくがうまれる環境」

キ 教育実習及び学校体験活動の受入

	受入人数	(内訳)
教育実習	12人	愛知教育大学実習生 12人、他大学実習生 0人
「学校体験活動入門」	31人	
「学校体験活動Ⅰ」	5人	
「学校体験活動Ⅱ」	0	

ク 国際交流

特記事項なし

ケ 自己評価及び学校関係者評価

保護者への学校評価アンケートからの自己評価と改善の取組

学校評価アンケートを保護者へ依頼し、本園の教育目標や子どもの成長、教育内容への理解、安全管理等について、成果と次年度への課題を明らかにしている。そして、それらを基に、職員会議等で次年度の充実に向けて方策を検討している。

令和5年度も、アンケートのどの項目についても肯定的な回答をいただいた。結果からは、本園の教育に対して、多くの保護者の方から理解が得られていることが分かった。一部の方から得た意見や要望については、吟味した上で次年度の計画等へ反映させるようにした。

これらの評価活動及び結果については、学校評議員会でも報告し、評議員の方からご意見をいただいている。このようにさまざまな意見を吸い上げ、取り入れることで、子どもたちにとってよりよい保育ができるよう今後も努めていきたい。

(2) 附属名古屋小学校

ア 教育目標

- ・健康で 心の豊かな子
- ・まことを求め 正しいことを守る子
- ・よく考え 実践する子
- ・人を敬い 助け合う子

イ 令和6年度入学者選抜状況〈令和5年度実施〉

一般学級	[出願資格]	入学時に小学校へ入学する年齢に達する見込みの者 学校が指定する小学校区に居住する者
	[選抜方法]	第1次：調査 第2次：抽選
帰国児童学級	[出願資格]	日本国籍を有する者 本人の海外生活が2年以上、かつ、帰国後1年以内の者 在留国で現地校又は国際学校に通学していた者 当該学年の年齢に達する見込みの者 保護者とともに居住し、通学時間が1時間程度の者
	[選抜方法]	筆答を含む現状調査及び保護者を含む面接
国際学級	[出願資格]	国籍要件なし 本人の海外生活が2年以上、かつ、帰国後1年以内の者 在留国で現地校又は国際学校に通学していた者 当該学年の年齢に達する見込みの者 保護者とともに居住し、通学時間が1時間程度の者
	[選抜方法]	筆答を含む現状調査及び保護者を含む面接

(単位：人)						
	入学定員	志願者	受験者	合格者	合格倍率	入学者
附属名古屋小学校	90	184	184	90	2.04	90
一般外部	-	134	134	40	3.35	40
連絡進学	-	50	50	50	1.00	50

* 合格倍率 = 受験者計 ÷ 合格者計 (小数点第3位 四捨五入)

* 令和5年度入学定員 : 30人×3学級=90人

(単位：人)						
	収容定員	志願者	受験者	合格者	合格倍率	入学者
附属名古屋小学校	15	2	2	2	1.00	2
5学年	15	2	2	2	1.00	2
6学年	-	-	-	-	-	-

* 合格倍率 = 受験者計 ÷ 合格者計 (小数点第3位 四捨五入)

* 収容定員に満たない人数を募集

* 帰国児童学級は、R6年度から5年生が国際学級となつたため、両クラスのことを帰国児童学級等と記載する。

ウ 在籍者数（令和5年5月1日現在）

(単位：人)

	学級数	在籍者			計
		男	女		
附属名古屋小学校	18 (2)	266 (5)	270 (5)	536 (10)	
1学年	3	45	45	90	
2学年	3	45	45	90	
3学年	3	43	44	87	
4学年	3	44	43	87	
5学年	3 (1)	40 (1)	45	85 (1)	
6学年	3 (1)	49 (4)	48 (5)	97 (9)	

* ()は帰国児童学級に係る学級数、人数を外数で示す。

エ 児童の転出入等 (単位：人)

	転・編入学	転・退学
一般学級	2	8
帰国児童学級	9	0

オ 卒業生の進路（令和6年3月卒業生）

卒業生合計109人：附属名古屋中学校 76人、県内公立中学校 3人、県内私立中学校 29人、他の国立大学附属中学校1人

カ 研究活動

令和5年度実践研究発表会を令和5年5月30日(火)に開催した。より多くの方に参観いただくために、オンライン配信も併用して授業公開を行った。また、後日全授業のオンデマンド配信を行った。

キ 教育実習及び学校体験活動の受入

	受入人数	(内訳)
教育実習	100人	愛知教育大学実習生 100人、他大学実習生 0人
「学校体験活動入門」	74人	
「学校体験活動Ⅰ」	0	
「学校体験活動Ⅱ」	0	

ク 国際交流

平成14年度に韓国の晋州教育大学附設初等学校との間で国際交流に関する協定を締結し、以来お互いの文化を理解・尊重し合える国際性豊かな子どもの育成を目指し、児童の作品交流や現地の学生による訪問授業などを実施してきた。平成30年度には後援会が主体となって、児童の相互の訪問活動も実施した。

今年度は、晋州教育大学附設初等学校から大学生を受け入れ、児童と給食の時間に交流を図った。

また、海外からの視察も積極的に受け入れ、授業に限らず日本の学校教育活動の一例として、本校の様子を海外の教育関係者に紹介している。

ケ その他の活動

本校はPTA活動が盛んに行われている。数年来、新型コロナウイルスの流行を鑑み、PTA活動の自粛を行わざるを得ない状況が続いているが、従来の活動を見直しながら、新たな活動の形を見出してきた。ここ数年、PTA安全委員会を中心に、すべてのPTA委員の協力の下、交通マナーをきちんと守れるように年間を通じた下校指導を実施している。

コ 自己評価及び学校関係者評価

本校の教育活動を見直すための自己評価活動を全職員対象で実施している。評価の集計や成果・課題として挙げられた内容を基に、次年度への課題や改善点を共有することで、よりよい教育の実現を目指している。

また、児童や保護者にもアンケート調査を実施している。結果からは、児童が本校での学校生活におおむね満足していることや、本校の教育活動に対し、多くの保護者の方から理解が得られていることが分かった。一部の方から得た意見や要望については、吟味した上で次年度の計画等へ反映させるようにした。

これらの評価活動及び結果については、学校評議員会でも報告し、評議員の方からご意見をいただいている。このようにさまざまな意見を吸い上げ、取り入れることで、子どもたちにとってよりよい学校となるよう今後も努めていきたい。

(3) 附属岡崎小学校

ア 教育目標

- ・生活の中から問題を見つけ、自ら生活を切り拓いていくことのできる児童の育成
- ・経験や体験を重視し、事実をもとに問題の解決を図ろうとする児童の育成
- ・友だちの気持ちを思いやり、互いに磨き合おうとする児童の育成

イ 令和6年度入学者選抜状況〈令和5年度実施〉

一般学級	[出願資格]	入学時に小学校へ入学する年齢に達する見込みの者 岡崎市内に保護者とともに居住する者
	[選抜方法]	第1次：面接、教育テスト、行動観察 第2次：抽選
(単位：人)		

	入学定員	志願者	受験者	合格者	合格倍率	入学者
附属岡崎小学校	90	101	97	90	1.08	89
一般外部	-	101	97	90	1.08	89

* 合格倍率 = 受験者計 ÷ 合格者計 (小数点第3位 四捨五入)

* 令和5年度入学定員：30人×3学級=90人

ウ 在籍者数（令和5年5月1日現在） (単位：人)

	学級数	在籍者		
		男	女	計
附属岡崎小学校	18	272	276	548
1学年	3	41	49	90
2学年	3	46	44	90
3学年	3	43	44	87
4学年	3	47	42	89
5学年	3	44	45	89
6学年	3	51	52	103

エ 児童の転出入等 (単位：人)

	転・編入学	転・退学
一般学級	3	6

オ 卒業生の進路〈令和6年3月卒業生〉

卒業生合計 103人：附属岡崎中学校 82人、県内公立中学校 5人、県内私立中学校 15人、
附属名古屋中学校 1人

カ 研究活動

研究発表会：令和5年11月16日(木)・17日(金) 参加者 681人
主題：豊かに生きる(6年次／研究期間 6年)

キ 教育実習及び学校体験活動の受入

	受入人数	(内訳)
教育実習	90人	愛知教育大学実習生 88人 他大学実習生 2人
「学校体験活動入門」	35人	
「学校体験活動Ⅰ」	1人	
「学校体験活動Ⅱ」	0人	

ク 国際交流

ボールステイト大学附属パリス校(USAインディアナ州)と1997年に国際学術交流協定を締結し、以降、子どもたちが相互に訪問し、交流を深めている。

令和5年度は、10月20日～10月26日の期間で4年ぶりに本校の代表児童12名、引率教員3名が、パリス校へ訪問した。令和6年度は、パリス校の児童、引率教員の来校を計画している。

ケ 自己評価及び学校関係者評価

令和元年度以降は、より信頼される学校、開かれた学校、魅力ある学校づくりの推進という視点で行った評価項目を継続しつつ、WEBを用いた方法に変更して実施した。令和5年度の結果をもとに分析をしたところ、次の2点が課題となり、教育活動の更なる見直しを図るために対策を考えた。

・基礎的な知識・技能の定着について

教師については、「そう思う」の割合が大きく減少している一方で、「あまりそう思わない」の割合が改善され、全体としてプラス評価が9割を超えてA評価となった。本校の大切にしてきた主体性や自主性を育む探究的な学習を大切にしながら、そのなかで基礎的な知識・技能を定着させることを意識してきた表れであると考える。一方で、保護者については、全体のプラス評価は8割を超えており、「そう思う」の割合は20%以上減少している。本校が個人追究を主とした授業に力を入れつつ、生活していくうえで大切な資質・能力を育む取り組みをしていることを、通信や授業参観等でもっと周知していきたい。

・清掃指導について

教師についてはプラス評価が9割を超え、意識して清掃指導に取り組んでいることがわかる。児童についても、プラス評価が高水準で保たれている。トイレのスリッパを自ら気づいて揃える姿を目にするなど、引き続き、校内における清掃と整頓への意識と実際の行動が一致するよう、教師と児童がとともに清掃や整理整頓に取り組みたい。また、一昨年度までC評価が続いている保護者の評価が、昨年度に続き今年度もB評価となった。学校公開や授業参観、研究会の通常開催など、外部の方が来校する機会も増え、学校内の整理整頓等、清潔感のある環境作りに、子どもとともに力を入れてきたことが保護者の評価にもつながっていると考えられる。次年度は、くすのきの日に親子清掃を実施することで、児童が積極的に清掃する姿を保護者に評価していただきたいと考えている。

令和5年度の学校評議委員会において、「学校評価アンケートの質問内容が教師、児童、保護者で一致していない」という話をいただいた。これを受けて、年度当初にアンケートの質問内容を再検討し、4月の職員会議で前年度のアンケート結果と今年度の質問項目(案)を全教職員に提示することとした。また、令和3年度に「学校と家庭の連携」について指摘があった。今後も引き続き、ホームページや学級だより、さくら連絡網等で家庭・地域へ情報発信をしていく。

(4) 附属名古屋中学校

ア 教育目標

人格の完成を目指し、平和国家・民主社会の形成者として、心身共に健全な人間を育成する。

- ・創造の精神を尊び、真理をかぎりなく求める人間
- ・自己の言行に責任をもち、信実を貫く人間(信実とは信義・誠実の意味である)
- ・美を愛し、豊かな心情を育てる人間
- ・心身を鍛え、たくましい実行力を身に付ける人間
- ・奉仕の精神を重んじ、働くことに喜びを見いだす人間

イ 令和6年度入学者選抜状況〈令和5年度実施〉

一般学級	[出願資格]	入学時に中学校へ入学する年齢に達する見込みの者 保護者とともに居住し、通学時間が1時間程度の者
	[選抜方法]	適性検査（国語・算数）・調査書に基づき、総合的に判定する
帰国生徒学級	[出願資格]	保護者の海外勤務に伴う在外生活経験年数が継続して3年以上、かつ、 帰国後1年以内で日本国籍を有する者 在留国で現地校又は国際学校に継続して3年以上通学していた者 当該学年の年齢に達する見込みの者 保護者とともに居住し、通学時間に無理のない者
	[選抜方法]	1年生：国語、算数、面接(本人及び保護者) 2・3年生：国語、数学、英語、面接(本人及び保護者)

一般学級

(単位：人)

	入学定員	志願者	受験者	合格者	合格倍率	入学者
附属名古屋中学校	144	278	259	144	1.80	144
一般外部	-	211	192	77	2.49	77
連絡進学	-	67	67	67	1.00	67

* 合格倍率 = 受験者計 ÷ 合格者計 (小数点第3位 四捨五入)

* 令和5年度入学定員：36人×4学級=144人

帰国生徒学級(4月入学時)

(単位：人)

	収容定員	志願者	受験者	合格者	合格倍率	入学者
附属名古屋中学校	45	13	13	13	1.00	13
1学年 一般外部	15	3	3	3	1.00	3
1学年 連絡進学		10	10	10	1.00	10
2学年	15	0	0	0	-	0
3学年	15	0	0	0	-	0

* 合格倍率 = 受験者計 ÷ 合格者計 (小数点第3位 四捨五入)

* 2・3学年は、収容定員に満たない人数を募集

ウ 在籍者数(令和5年5月1日現在)

(単位：人)

	学級数	在籍者			計
		男	女	計	
附属名古屋中学校	12 (3)	194 (21)	230 (18)	424 (39)	
1学年	4 (1)	73 (9)	71 (6)	144 (15)	
2学年	4 (1)	55 (5)	85 (6)	140 (11)	
3学年	4 (1)	66 (7)	74 (6)	140 (13)	

* ()は帰国生徒学級に係る学級数、人数を外数で示す。

工 生徒の転出入等 (単位：人)

	転・編入学	転・退学
一般学級	1	1
帰国生徒学級	5	1

オ 卒業生の進路〈令和6年3月卒業生〉

卒業生合計 155人：附属高等学校 4人、県内公立高校 90人、県内私立高校 40人、県外公立学校 2人、県外私立高校 4人、他の国立大学附属高校 7人、その他 8人(高等専門学校 6人、通信制高校 1人、家事従事 1人)

カ 研究活動

研究発表会：令和5年9月22日（金）に開催
 主題：深い学びをデザインする授業づくり（2年次／研究期間3年）
 副題：主体性を発揮させることを通して

キ 教育実習及び学校体験活動の受入

	受入人数	(内訳)
教育実習	87人	愛知教育大学実習生 87人 他大学実習生 0人
「学校体験活動入門」	63人	
「学校体験活動Ⅰ」	0	
「学校体験活動Ⅱ」	0	

ク 国際交流

平成25年度から名古屋大学の留学生との交流会を実施している。帰国生徒学級の2年生が中心となって、一般学級から参加者を募り、ゲームやクイズなどを留学生と楽しむ機会となっている。帰国学級生徒は、企画・運営をし、通訳を担うことで、身に付けた語学力を発揮する場となっている。

また、外国語補充として、1年に3回、名古屋大学の留学生と自己紹介やフリートークの時間を設け、帰国学級生徒が海外で身に付けた語学力の保持・伸長を図っている。

ケ その他の活動

- 地域に愛される生徒・学校になるために、「さわやかスクールロードSSR」に所属し、地域のクリーンキャンペーンに希望者が参加した。
- 同じく、地域に愛される生徒・学校になるために、地域の老人ホームを訪問し、合唱を披露したり、利用者と交流したりする活動を実施した。

コ 自己評価及び学校関係者評価

自己評価

行事後や前・後期の節目に校内の反省・意見を集約し、見解と今後の取組についてまとめ、全教員で共有した。12月には育友会役員・委員を対象に保護者アンケートを行い、集計結果と自己評価結果を2月の育友会役員・委員総会で報告した。本年度の重点努力目標を踏まえた上で、令和5年度も令和4年度同様20項目、5段階評価でアンケートを実施した。ほとんどの項目で5段階評価の「あてはまる」「ややあてはまる」を合わせた数値が80~90%以上となっており、昨年度同様の高い評価をいただいた。これは、本校が心掛けている生徒の主体性を発揮させることを大切にし、教師と子供が共に創り上げる授業、行事や日々の活動について保護者からの理解が得られていると思われる。ただ、「附中は、いじめや問題行動に対して真剣に対応してくれる」「附中は、生徒の悩みや心の問題についての相談・サポート体制が充実している」の項目については、教員と保護者で捉え方に差異があり、保護者の20%近くが「どちらともいえない」「あてはまらない」と回答している。（ただし「あまり」も含めて「あてはまらない」は共に数%）教員は真剣に対応しているつもりでも、生徒が学校では話せない悩みや不満を抱えたままとなっており、家庭で吐露していることや生徒・保護者が納得できる状況にまで至っていないことがあると考えられる。生徒達も評価が高い安心力の中で、「仲間」「尊重」の項目が他と比べて低いことから、いじめにつながるような行動をさせない教室風土の醸成に教員は努めるとともに、起きてしまった場合においても生徒情報を共有し、これまで通りにチームで対応していくことが必要である。

学校関係者評価

2月の学校評議員会の折に、保護者アンケートと教職員アンケートの集計結果を踏まえた自己評価について報告し、学校関係者(学校評議員で構成)から学校運営全般について意見を聴取している。

- ・コメントの多さや評価の得点の高さから保護者の関心の高さをうかがうことができる。
- ・公立学校とは違い、生徒同士が議論するすばらしい授業ができている。これがこの学校のよさでもあるため、続けていってもらいたい。
- ・保護者が学校内で起きたことは学校の責任であるという考えが顕著になっている。互いに生徒の成長に関わり合えるよう、保護者の意識改革を進める必要がある。
- ・保護者はすぐに目に見える結果を求めており、附属の目指す教育とは違う部分もあるので、学校からの発信もしていくとよい。
- ・コロナが落ち着き、様々な物事が進んでいると感じている。危機管理意識をもっているが、すり抜けることが出てくるので気をつけていきたい。

学校関係者の意見を踏まえた改善策

・評価のための評価にならないように、また、附属名古屋中学校の良さを一層伸ばすためにアンケートの内容や対象を見直し、実効性のある学校評価のあり方についての研究を進めていく。また、生徒の声も聞き、生徒、保護者、教員が満足できる学校づくりに努めていく。

- ・「いじめや問題行動に対しての対応」「生徒の悩みや心の問題の対応」については、これまでの丁寧な対応を今後も続けていくことはもちろん、特別の教科道徳の授業の充実を図り、教育相談を充実させることや多くの教員で見守りを強化していくなど未然防止の取組にもしっかりと取り組んでいきたい。また、学校で行っている取組やスクールカウンセラーを中心とした相談活動の機会があることも、積極的に発信していきたい。
- ・本校の目指す生徒像である「自主自立と共生」へ向かい、保護者と共に教育活動を進めていけるよう、行事や授業参観など本校の取り組みを保護者に公開する機会があるたびに発信していきたい。
- ・コロナが落ち着き、様々な行事を対面で行なったり、外部の人を呼ぶことが増えている。全ての活動に対して、事前の準備を計画を行い、安全対策を進めていきたい。

評価結果等の公表方法

- ・2月の育友会役員・委員総会で報告している。今後、よりよい公表のあり方について検討していきたい。

(5) 附属岡崎中学校

ア 教育目標

わが学園

- ・学問と勤労を愛する学園
- ・自由と規律を重んじる学園
- ・楽しく 協力しあう学園
- ・健康で 明るい学園
- ・人と物をだいじにする学園

イ 令和6年度入学者選抜状況（令和5年度実施）

一般学級 [出願資格] 入学時に中学校へ入学する年齢に達する見込みの者
保護者とともに居住し、通学時間が1時間以内の者

[選抜方法] 学力検査(国語、社会、算数、理科)、面接、調査書に基づき、総合的に
判定する

(単位：人)

	入学定員	志願者	受験者	合格者	合格倍率	入学者
附属岡崎中学校	144	193	193	144	1.34	144
一般外部	-	111	111	62	1.79	62
連絡進学	-	82	82	82	1.00	82

* 合格倍率 = 受験者計 ÷ 合格者計 (小数点第3位四捨五入)

* 令和5年度入学定員：36人×4学級=144人

ウ 在籍者数（令和5年5月1日現在）(単位：人)

	学級数	在籍者		
		男	女	計
附属岡崎中学校	12	222	212	434
1学年	4	77	66	143
2学年	4	71	75	146
3学年	4	74	71	145

エ 生徒の転出入等 (単位：人)

	転・編入学	転・退学
一般学級	0	1

オ 卒業生の進路（令和6年3月卒業生）

卒業生合計 145人：附属高等学校 5人、県内公立高校 81人、県内私立高校 47人、県外公立高校0人、
県外私立高校 4人、他の国立大学附属高校 0人、高等専門学校 4人、通信制4人

カ 研究活動

授業研究会：令和5年6月20日（火）

主題：躍動(3年次／研究期間5年)

副題：志をもって歩み続ける子ども

キ 教育実習及び学校体験活動の受入

	受入人数	(内訳)
教育実習	78人	愛知教育大学実習生 75人 他大学実習生 3人
「学校体験活動入門」	35人	
「学校体験活動Ⅰ」	0人	
「学校体験活動Ⅱ」	0人	

ク 国際交流

平成17年度からマレーシアの私立校スリ・クアラルンプール・セカンダリー・スクールとの交流を続けてい る。相互交流を基本とし、親善訪問団を受け入れ、海外派遣訪問を実施してきた。7月末から8月にかけて、海外派遣訪問を行い交流を深めている。さらに、11月末から12月初旬にかけて、親善訪問団としてスリ・クアラルンプール・セカンダリー・スクールの生徒と教員の訪問を受け、生徒会の運営による全校でのウェルカムセレモニーや教室での交流を行っている。また、岡崎市に住んでいる留学生を授業に招待して交流を深めている。※令和2年度以降は、新型コロナウイルス感染症拡大のため実施していなかったが、令和6年度に再開する予定。

ケ その他の活動

Lifework

子どもが9教科の枠にとらわれず、興味や関心をもつことを個人で追究していく個人テーマ学習を、総合的な学習の時間を中心に行っている。Lifeworkは、学校の内外を問わず子どもが主体的に進めていく活動であるため、9教科で育んだ「志を原動力として、学びを生かした行動すること」を教科の枠を超え、発揮する場となっている。

コ 自己評価及び学校関係者評価

学校の評価活動として、教員の自己評価に加え、保護者と生徒を対象に無記名のアンケート調査を11月下旬に行った。概要は次のとおりである。

【生徒】

◇行事・生徒会活動

③「学校の行事（体育大会・文化祭など）は楽しく、積極的に参加している」97.4%（0.7%減）

・全校生徒の9割以上が肯定的に捉えているものの、Aの回答は昨年度よりも5.7%減少した。体育大会の時期を9月に戻したため、暑い中で活動することになった影響だと考える。子どもがより楽しく、積極的に参加できるよう、行事の時期を検討する必要がある。

④「生徒会活動は活発で、積極的に参加している」74.4%（9.0%減）

・Aの回答は微増しているものの、Bの回答が大きく減少した。「緊急時における連絡機器の持ち込み」の実施に向けて、全校生徒が参加したという意識にできなかつたことが原因だと考える。規則について考える動きの他にも、全校生徒が参画を実感できる取り組みを大切にしたい。

◇授業

⑥「授業や行事などの中で、学校以外の人から学ぶ機会がある」87.0%（5.0%増）

⑪「授業では問題を追究する学習が多くあり、積極的に取り組んでいる」97.8%（1.7%増）

⑨「授業では進んで自分の意見や感想などを発表している」71.4%（2.3%増）

⑩「授業では友達の意見や感想をよく聞くようにしている」94.3%（0.5%増）

・⑪から本校が行っている生活教育を基盤とした問題解決的学習過程による単元が、子どもの主体性を育んでいくことがわかる。⑥は昨年度よりも大きく増加した。コロナ禍が明け、授業や行事で外部のかたの取材や発信をしたいときに、直接会いに行けるようになったためであると考える。オンラインは全国どこでも簡単につながるメリットはあるが、やはり生の声を聞くことが充実感につながる。オンラインは活用しつつ、直接会って話す機会を大事にしたい。

・⑨は肯定的な意見が増えているものの、Aの回答が4.2%減少している。逆に⑩はAの回答が1.5%増えている。⑪の回答も合わせると、積極的に問題解決に取り組むものの、自分の考えを発表せずに聞くことに徹する子どもが増えているとわかる。つまり、一部の子どもの考え方で授業を展開していることになる。多様な考え方を伝え合い、互いに学び合えるような支援を考える必要がある。

◇日常の生活

⑯「私たちの意見や悩みをよく聞いてくれる先生がいる」87.2%（4.5%増）

⑯「先生たちは、明るく活動的である」95.5%（2.4%増）

・教員が生徒とのコミュニケーションを大切にし、細やかな対応をしてきた成果といえる。今後も子ども自身で考える機会を与えながらも、サポートできる関係を築いていきたい。

⑤「学校は進路についての情報をよく知らせてくれる」74.8%（4.5%減）

・昨年度から大きく減った。学年集会や学年保護者会だけでなく、STやLTでも進路に関わる情報を積極的に提供していく必要がある。

【保護者】**◇教育方針・指導・環境**

- ③「学校は生徒の将来に必要な知識や技能を身につける教育活動を行っている」92.2%（3.5%減）
⑥「学校は子どもの心を育てる教育をしている（いじめ、心の不安への対応がなされている）」91.1%（2.5%減）

⑩「自分の子どもの友人関係は望ましい状態にある」92.2%（0.8%減）

・③⑥は微減したものの多くのかたに肯定的な評価をいただいた。本校の教育方針と、実際の営みが認められていると考える。⑩は微減したものの、Aの回答が26.7%増加している。引き続き、望ましい友人関係を構築していけるよう、困った際は気軽に相談できる関係づくりを心掛けていきたい。

◇保護者との連携**⑬「保護者は子どものことで気軽に学校に相談できる」85.4%（4.9%減）**

・高い数値ではあるものの、前年度に比べ大きく減少した。欠席連絡フォームの導入により、学校へ直接連絡する頻度が減ったことで、相談するきっかけが減ってしまった可能性がある。保護者の負担が減る工夫は今後も必要であるが、代わりに担任に気軽に相談できるような関係を築く必要がある。

⑯「本校のPTA活動は積極的に行われている」99.4%（2.2%増）

・Aの回答は16.6%増加している。各部会が工夫を凝らして行事を計画し、多くの保護者に参加をしていただきたい成果といえる。今年度の経験を生かし、保護者同士のつながりを生むPTA活動を継続していきたい。

(6) 附属高等学校

ア 教育目標

- ・あたたかい人間になろう
- ・たくましい人間になろう
- ・おおらかな人間になろう

イ 令和6年度入学者選抜状況〈令和5年度実施〉

一般選抜

[出願資格] 愛知県内の中学校を卒業(見込みを含む)し、入学後、愛知県内に保護者とともに居住し、自宅から通学する者

[選抜方法] 書類審査及び学力検査(国語、数学、英語(リスニング含む)、理科、社会)

推薦選抜

[出願資格] 愛知県内の公立中学校を卒業する見込みの者で、一般選抜の出願資格を満たし、中学校長が推薦する者

[選抜方法] 書類審査、作文、面接

海外帰国生徒選抜

[出願資格] 海外の学校生活が2年以上あり、帰国後2年以内での者で、中学校を卒業(見込みを含む)し、入学後、愛知県内に保護者と共に居住し、自宅から通学する者

[選抜方法] 書類審査及び学力検査(国語、数学、英語(リスニング含む)、理科、社会)、面接

附属中学校連絡入学選抜

[出願資格] 愛知教育大学の附属中学校を卒業する見込みの者で、中学校長が推薦する者

[選抜方法] 書類審査、学びの記録、面接

(単位：人)

	入学定員	志願者	受験者	合格者	合格倍率	入学者
附属高等学校	120	124	124	120	1.03	119
一般選抜	-	83	83	79	1.05	78
推薦選抜	-	31	31	31	1.00	31
海外帰国生徒選抜	-	1	1	1	1.00	1
附属中学校連絡入学選抜	-	9	9	9	1.00	9

* 合格倍率 = 受験者計 ÷ 合格者計 (小数点第3位四捨五入)

* 令和5年度入学定員：30人×4学級=120人

ウ 在籍者数(令和5年5月1日現在) (単位：人)

	学級数	在籍者		
		男	女	計
附属高等学校	12	133	222	355
1学年	4	40	80	120
2学年	4	55	64	119
3学年	4	38	78	116

エ 生徒の転出入等 (単位：人)

	転・編入学	転・退学
一般学級	0	5

オ 卒業生の進路(令和6年3月卒業生)

卒業生合計 116人： 国立大学 28人、公立大学 6人、県内私立大学 57人、県外私立大学 8人、短期大学 2人、専門学校 11人、就職 0人、その他 4人

力 研究活動

研究発表会： 令和5年11月8日（水）に第41回高校教育シンポジウム「これからの時代を生きるための資質・能力の育成—探究力とICT—」2年次を実施した。第1学年及び第2学年の4限・5限の授業を公開。その後、第1分科会として地歴公民科、第2分科会として英語科、第3分科会として総合探究「附高ゼミ」の概要発表・公開授業の協議を実施。各分科会において質疑応答、情報交換を行う研究協議会を開催した。99名の参加があった。

キ 教育実習及び学校体験活動の受入

	受入人数	(内訳)
教育実習	112人	愛知教育大学実習生 99人、愛知教育大学大学院実習生 9人、他大学実習生（本校卒業生） 4人
「学校体験活動入門」	0人	
「学校体験活動Ⅰ」	1人	
「学校体験活動Ⅱ」	0人	

ク 国際交流

2008年に大韓民国ソウル市の建国大学校師範大学附属高等学校と国際学術交流協定を締結した。これは、1988年の海外修学旅行に始まる訪問活動により、1990年から交流先の教員が毎年来校し、相互交流が続いたことから締結したものである。しかし、新型インフルエンザの世界的流行の影響から、2009年以降の交流活動は途絶えており、現在に至っている。

一方、平成26年度からオーストラリアのメルボルンにある男女共学の私立学校 Ivanhoe Grammar School との交流事業を始めた。平成30年度は本校からは1年生及び2年生の3人を夏季休業中の17日間派遣した。また、ホームステイ先のホストスチューデント3人が2019年1月に派遣生徒宅でホームステイを行いながら、本校を訪問し、授業を通して研修を行った。令和元年度以降については Ivanhoe Grammar School の都合により交流事業ができないことになった。

新たな国際交流事業に向け校務部を中心に検討を進め、愛知教育大学の外国人留学生との交流を開始した。令和2年度はコロナ禍であったが、12月に交流活動を実施することができた。書道部の活動に参加してもらい、マスク越ししながら積極的に会話を交わし、留学生との交流を深めた。令和3年度は、Let's talk in Englishと題して留学生、日本人学生とテーマについて話し合い交流することができた。令和4年度は、サスティナ部・茶道部が留学生と茶道をとおして交流を持つことができた。

令和5年11月には、上海甘泉外国语中学と友好協力交流協定を締結して、今後、大学の協力も得ながら交流体制を整えていく。

ケ その他の活動

高大連携事業

令和5年度は、平成18年度から続いた本校と愛知教育大学との代表的な高大連携事業「スクール」・「チャレンジ」の最終年度となり、本年度は「チャレンジ」のみ10名が受講した。この事業がなくなることは残念ではあるが、この事業を通じて多くの生徒が愛知教育大学に進学して、その後、教員として活躍してくれていることは補足しておきたい。

愛知教育大学との新たな高大連携事業として愛教大SHEプロジェクトを立ち上げ、令和4年度より「附高ゼミ」を開始している。「附高ゼミ」は、総合的な探究の時間を中心に、生徒の自らの興味・関心に応じて8つのコースの中から所属ゼミを選び、大学の教員や大学院生などの助言を受けながら探究活動に取り組む活動である。現在、愛知教育大学の未来共創プラン・戦略5共創的探究活動指導力育成プロジェクトとして位置づけられ、三菱みらい育成財団から助成事業（令和4年度～令和6年度）として採択されている。

他に、愛知教育大学・高大連携出張授業を第1学年に実施している。これは以前、幅広い分野の研究に触れ生徒の興味・関心を引き出し物事を深く考える姿勢を養うことを目的とした研究室訪問に変えて令和4年度から実施しており、生徒は8分野の大学の講義を受けることができる事業である。

ユネスコスクール

「平和教育」「国際理解・貢献」「地域理解・貢献」の3つの柱を作り、2年生の沖縄への修学旅行での世界遺産についての理解と平和学習、オーストラリアのメルボルンにある Ivanhoe Grammar School との交流活動、そして、地域の資源回収活動や資源保護活動を行った。これらの活動が評価され、2014年からユネスコスクールとして認定され、ESDに関わる活動の推進を図っている。

ICT活用

iPadについては平成27年度に45台配備され、普通教室において一人一台のタブレットを使って授業を行うことが可能となり、様々な授業にiPadを取り入れて活用している。令和4年度入学生から、入学生全員がiPadを購入してSkyMenuサービスを導入した。授業での活用はもちろん、毎日の連絡事項、家庭学習の補助など様々な場面で活用している。今後も、iPadは教具の一部という考え方で、活用を推進していくとともに、活用方法についても研究していきたい。

平成30年度にはすべての普通教室にビデオプロジェクターが設置され、写真や動画などの映像教材の提示をはじめ、電子黒板として利用するなど様々な場面での活用が進んでいる。さらに全教員に対してiPadを貸与し、授業や生徒面談などの日頃の様々な指導に活用している。

コ 自己評価及び学校関係者評価

教職員の自己点検評価

令和5年度の教職員の目標到達度評価は、令和4年度に引き続き教育目標や学習指導など大半の項目で高い数値を示し、本校教職員が学校の教育目標を理解して、熱心に教育活動を展開していることがわかる。ただ、教育課程編成の組織が効率的に機能するように改善策を出し合い協力する体制が十分でない、との意見や、地域社会との連携に不十分とする意見も若干あった。しかし、大学と連携した探究活動やiPadやプロジェクターを中心としたICT機器など教材教具の整備が進み、熱心な学習指導と授業研究がより一層進んでいるのは事実である。今後も、生徒の主体性を重視した活動を活発化させるとともに、「探究力育成」を目標にして本校の使命である教育研究を推進していきたい。

保護者による学校評価

平成27年度から保護者による学校評価アンケートを実施した。単純な比較は難しいが、学習指導、生徒指導に対する評価はおおむね良好であった。また、毎年の懸念事項であった本校の教育活動方針が年々認知度が上昇している。令和4年度にホームページをリニュアルさせ、積極的に情報発信し、授業公開を再開するなど地道な取り組みが実を結びつつあるのを感じている。今後も、生徒、保護者が本校で学んでよかったですと思えるような教育活動を展開して、学校からの情報発信を活発に行っていきたい。

学校評議員による学校評価

生徒指導面、進路指導面共に年々よくなってきており、学校全般的に落ち着いた雰囲気の学校になってきている。ただ、不登校傾向の生徒が増加していることに対して、心配される意見も寄せられ、今後とも生徒の実態把握を充実させて欲しい、との意見があった。

また、教員養成に特化した取り組みや近年の大学入試制度に対する対策などへの質問が多くあり、本校が掲げる愛教大SHEプロジェクトへの期待の大きさを感じた。

令和3年度より1学年30人4クラスになったことについて、少人数指導に期待するご意見を多数いただいた。地域の学校としての立場と国立附属としての立場を十分に考慮した上で、学校全体で中長期目標の具現化をめざし、他校の先駆けとなる責任と自覚を新たにする機会になった。

(7) 附属特別支援学校

ア 教育目標

子どもの発達に応じ、基礎的生活能力及び態度を養い、情操を高め、一人一人が可能性を十分發揮して、社会で自立できる力を育てる。

イ 令和6年度入学者選抜状況〈令和5年度実施〉

- [出願資格]
- ・主たる障害が知的障害で、本校の教育を受けることが望ましいと考えられる者
 - ・保護者の付添い又は一人で通学が安全にできる者
 - ・本校の使命や教育方針を理解し、賛同する保護者の子である者

小学部 令和6年4月に学齢に達する者

中学部 令和6年3月に小学校または特別支援学校小学部卒業見込みの者

高等部 中学校または特別支援学校中学部を卒業、あるいは令和6年3月に卒業見込みの者

[選抜方法]

- 次の結果をもとに、総合的に判断し、決定する。
- ・集団での行動観察、学習能力検査等
 - ・社会生活能力や家庭状況についての面接(保護者及び本人)
 - ・医師の問診(精神科)

(単位：人)

	入学定員	志願者	受験者	合格者	合格倍率	入学者
附属特別支援学校	17	27	27	16	1.69	16
小学部	3	10	10	3	3.33	3
中学部	6	6	6	3	2.00	3
一般外部		5	5	2	2.50	2
連絡進学		1	1	1	1.00	1
高等部	8	11	11	10	1.10	10
一般外部		8	8	7	1.14	7
連絡進学		3	3	3	1.00	3

* 合格倍率 = 受験者計 ÷ 合格者計 (小数点第3位 四捨五入)

ウ 在籍者数(令和5年5月1日現在) (単位：人)

	学級数	在籍者		
		男	女	計
附属特別支援学校	9	37	21	58
小学部	3	12	4	16
1学年	1	2	1	3
2学年	1	3	0	3
3学年	1	3	1	4
4学年	1	1	1	2
5学年	1	1	1	2
6学年	1	2	0	2
中学部	3	7	5	12
1学年	1	4	2	6
2学年	1	2	1	3
3学年	1	1	2	3
高等部	3	18	12	30
1学年	1	6	4	10
2学年	1	5	4	9
3学年	1	7	4	11

工 児童・生徒の転出入等 (単位：人)

	転・編入学	転・退学
小学部	0	0
中学部	0	0
高等部	0	0

オ 卒業生の進路〈令和6年3月卒業生〉

小学部卒業生 合計 2人： 本校中学部 1人、県内特別支援学校中学部 1人
 中学部卒業生 合計 3人： 本校高等部 3人
 高等部卒業生 合計11人： 就職 2人（内1人パート採用）、その他9人（障害者支援施設 9人）

カ 研究活動

研究発表会： 令和5年11月10日(金)
 主題： 学びを生活に生かす子どもの姿を求めて(4年次／研究期間5年)
 副題： 「できた喜びを感じるしきけ」づくり

キ 教育実習及び学校体験活動の受入

	受入人数	(内訳)
教育実習	16人	愛知教育大学実習生 16人、他大学実習生 0人
「学校体験活動入門」	32人	
「学校体験活動Ⅰ」	0	
「学校体験活動Ⅱ」	0	

ク 国際交流

特記事項なし

ケ その他の活動

共生社会につながる教育の重要性をふまえ、岡崎地区三附属学校の異校種交流を目的とした、三附属共生教育を継続して行っている。令和5年度は、附属岡崎小学校とは、サツマイモの栽培、収穫を通した交流を行った。つるさし、イモ堀りと一緒にを行うことができた。また、イモ堀りの順番を待つ時間を利用し、ボウリングや的当てなどのゲームをして遊ぶことができた。収穫祭では、本校の児童生徒が焼いたイモを附属岡崎小学校に届け、秋の味覚を味わった。さらに、児童生徒が書いた手紙を各部の代表が附属岡崎小学校に届けた。附属岡崎小学校からは、寄せ書きが書かれた模造紙と手紙が送られてきた。附属岡崎中学校とは、高等部が交流を行った。例年は附属岡崎中学校の文化祭のバザーで、中学部と高等部の生徒が作業製品の販売に出向いて行っている。令和5年度は、代表生徒が実際に現地に行って作業製品の紹介を行った。

コ 自己評価及び学校関係者評価

本校では、よりよい学校づくりのため、保護者、学校評議員、教職員による学校評価アンケートを2024年1月に実施した。評価結果の概要と今後の方針は、次のとおりである。

【改善項目1】 子どもを育てる環境づくりについて

＜目標値＞

設問②：買い物学習や外食学習など、校外での諸活動が積極的に行われている。また、学校間交流や居住地校交流なども積極的に行われている。

＜R4年度＞ → ＜R5年度＞ ＜R6年度目標値＞

学校評議員	100.0%	→ 100.0%	100.0%
保護者	69.8%	→ 89.3%	93.0%
本校職員	92.9%	→ 82.8%	93.0%

＜改善策＞

- ・ 校外学習申請書を簡略化し、校外学習に出かけやすい環境を作る。
- ・ 公共交通機関の使い方、お金の扱い方、商品の選び方、様々な遊具の遊び方など、校内で学んだことを「ふようタイム」（生活単元学習）等を利用して、実物に触れたり、体験したりするなど学校外で体験的に学ぶ場を増やす。
- ・ 学校で契約しているスクールバスを柔軟に活用する。
- ・ 子どもたちが安心して活動することができる施設や店舗等を増やす。
- ・ 校外で学習したことについては、学部通信や学校のWebページ、保護者会等を利用して、保護者や地域に発信する。

【改善項目2】 学校と家庭、その他関係諸機関との積極的な連携について

＜目標値＞

設問⑦：他の附属学校と連携、協働して共生教育を推進している。

＜R4年度＞ → ＜R5年度＞ ＜R6年度目標値＞

学校評議員	100.0%	→ 100.0%	100.0%
保護者	63.5%	→ 83.9%	90.0%
本校職員	89.3%	→ 93.1%	95.0%

＜改善策＞

- ・ 4月の保護者会で、どのような活動が共生教育かを保護者に伝える。
- ・ 共生教育の在り方を検討する際には、対面での活動を基本としつつ、今後も無理なく活動を継続していくことができるよう、オンライン等で行うなどの方法も柔軟に検討する。
- ・ 活動が充実したものになるよう、本校の児童生徒への事前学習や事後学習を適切に実施していくとともに、必要に応じて、相手校への事前・事後学習に本校の職員が参加する。
- ・ 子どもたちだけでなく、附属岡崎小学校、附属岡崎中学校の先生方も本校に来て子どもたちと一緒に活動する機会を設ける。
- ・ 共生教育として取り組んでいる内容を、学部通信やホームページ、メールマガジン等を活用したり、学校行事と連動させたり、登下校時の会話で話題に上げたりすることで、保護者や地域に発信する。

2 今年度の取組状況

(1) 教育課題、研究活動

ア 教育課題への取組・活動

国レベルの拠点校、地域のモデル校に向けて、国の教育研究開発学校等の公募に関する各種情報を収集し、各附属学校に周知・提供した。

附属高等学校では、探究活動を教育活動の柱として設定し、3年間を通しての探究活動で「人生を切り拓く探究力」の育成を目指している。この取り組みの一つとして「愛教大SEHプロジェクト～人生を切り拓く探究力の育成を目指した探究活動「附高ゼミ」の実施～」が令和4年度三菱みらい育成財団の助成事業（令和6年度まで助成）として採択され、より一層充実した教育活動が展開された。

また、附属小・中学校から令和4年度に申請した文部科学省の「学びの保障・充実のための学習者用デジタル教科書実証事業」が採択となった。各校の授業や家庭学習においてデジタル教科書の活用を進め、教員と生徒それぞれを対象とした調査が実施・検証され、デジタル教科書のよりよい在り方を検討する一助となった。

事業名	参加校	教科等	
三菱みらい育成財団助成事業	附属高等学校	探究活動	
学びの保障・充実のための学習者用 デジタル教科書実証事業	附属名古屋小学校	英語	算数
	附属岡崎小学校	英語	算数
	附属名古屋中学校	英語	数学
	附属岡崎中学校	英語	数学

成果の還元として、全附属学校園で教育研究発表会を開催した。オンラインと集合形式を併用し、より多くの方に参観いただいた。

また、附属学校教員が地元の学校で行う研究会や研修会に出向き、継続的に指導・助言を行った。

このほか、附属岡崎中学校の教員が、長年にわたる教育研究の成果を認められ、令和5年度文部科学大臣優秀教職員として表彰された。平成22年度以降、14年連続で附属学校教員が表彰されており、附属学校教員の教育研究推進への大きな励みとなっている。

イ ESDに関するユネスコスクール活動

県内ユネスコスクールの交流及び学校間のネットワーク作りの支援を目的として、「愛知県ユネスコスクール指導者研修会」を8月21日(月)に開催した。同研修会では、発表者として附属岡崎中学校及び附属特別支援学校が各校のESDの取組について実践発表を行った。

また、附属高等学校では、サステイナ部が工芸活動の一環として、大学の竹プロジェクトと連携して事業を行った。大学で開かれた「科学・ものづくりフェスタ」に出展し、「感光ビーズ・ブレスレット」や「UVレジン（樹脂）・キーホルダー」の作成ブースに37人の生徒が参加した。

ウ 科学研究費助成事業（奨励研究）の採択状況

(申請：令和4年度)

区分	申請状況			採択状況		
	件数 (a)	教員数 (b)	申請率 (a/b)	件数 (c)	採択率 (c/a)	内定額 (千円)
附属幼稚園	0	9	0%	0	-	-
附属名古屋小学校	0	33	0%	0	-	-
附属岡崎小学校	10	26	38%	0	0%	-
附属名古屋中学校	0	31	0%	0	-	-
附属岡崎中学校	6	26	23%	0	0%	-
附属高等学校	7	31	23%	2	29%	920
附属特別支援学校	9	30	30%	0	0%	-
	32	186	17%	2	6%	920

* 教員数は、令和4年5月1日 現在の現員数で、大学教員が兼務している校長を除く。

(2) 連携事業

ア 地域、教育委員会との連携による活動

附属学校園が今後の公立学校等のモデルとなるための実証研究の改善サイクル構築及び継続のために、附属学校園の研究等が公立学校に活用されたかどうかを調査するアンケートを実施し、アンケート結果の分析・考察及びそれらに基づいた改善策を総括論文として整理し、公表した。また、附属学校園の研究会等に参加した幼稚園、保育園、小中高等学校等の教員を対象に追跡調査を実施し、幼稚園、保育園、公立の小中高等学校等にて活用した実践事例を収集した。また、アンケート結果の分析・考察及び実勢事例の確認等から実施した調査アンケートの見直しも図り、次年度へのアンケート調査へとつなげた。

その他、各種研修会、研究大会に附属学校教員が指導的立場で参加したり、県内教育研究員を受け入れて授業や論文執筆の指導をしたりするなど、地域の現職教員のスキルアップのための研修を行い、授業実践の充実に寄与した。

イ 各地区的改革プランの推進

名古屋地区では、これまでの成果の検証を踏まえ、附属名古屋小学校・附属名古屋中学校の帰国児童・生徒学級同士の交流や体育の合同授業、附属幼稚園・附属名古屋小学校・附属名古屋中学校において体育科の授業で相互交流を行った。また、附属名古屋小学校6年生の児童と保護者が中学校の授業を参観する機会を設けるとともに、学校祭へ招待したり、合唱祭をオンラインで見れるようにするなど連携を行った。また、「『新しい生活様式』を軸とした異年齢交流の創造」をテーマにICTを取り入れた交流活動の実現に向けて検討を行った。さらに、令和2年度から検討している国際（帰国）学級の在り方について、国際学級検討ワーキンググループを設置し、定期的に合同会議を行い、設置に向けた具体的な提案を行った。

岡崎地区では、共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育充実のために、附属3校による共生教育推進を継続して行い、障害のある子どもへの理解を深め、健常者と障害のある子が共に認め合う心を育成した。令和3年度以降は対面での交流ができるようになり、附属岡崎小学校と附属特別支援学校では5月にサツマイモの苗植え、10月にはイモ掘りと収穫祭と一緒に行った。

附属岡崎中学校と附属特別支援学校は、作業学習で作成した製品を通じた交流を計画し、附属岡崎中学校の文化祭バザーで生徒たちが作った作業製品を販売するなど相互交流・理解を深めた。

また、附属岡崎小学校と附属岡崎中学校が学習成果を発表する活動を行った。中学校の総合学習で行っている探究学習の成果を小学生に発表する活動を行い、相互理解や探究意欲の喚起をすることができた。

刈谷地区では、愛教大SEHプロジェクトとして、探究活動を教育活動の一つの柱として設定し、3年間を通しての探究活動で「人生を切り拓く探究力」の育成を目指している。1年生では、探究基礎講座を実施して探究活動に必要な知識や技能の習得を目指した活動を行う。そして2年生の10月から3年生の10月にかけて実施する「附高ゼミ」で大学教員や大学院生から助言を受けながら探究活動を行い、「探究力の向上」を3年間かけて目指している。

令和4年度より教員志望者対象課外活動を開始した。本年度は48名が登録して課外活動として、教育実習生や教職大学院生からの講義、附属特別支援学校訪問、模擬授業の実施など教員養成にすすむ人材の育成に努めている。

(3) 教職員の安全対策向上を図る取組状況

8月2日(水)に附属学校の安全対策に関する研修会を実施し、本学情報教育講座福井教授による「身近に潜む情報セキュリティ上の脅威と対策」、大阪教育大学藤田大輔教授による「学校の安全教育や危機管理について」の講演が行われた。附属学校園教職員を中心に202人が参加した。

第10章 施設・設備

1 施設整備の状況

(1) 教育研究活動に必要な施設・設備の状況

ア 土地面積、校舎面積

令和5年5月1日現在

土地面積	大学キャンパス	設置基準※1
校舎敷地面積	202,772m ²	-
運動場用地	106,346m ²	-
校地面積 計	309,118m ²	37,660m ²
その他 敷地面積	134,664m ²	
合 計	443,782m ²	

※1 大学設置基準第37条により必要とされる土地面積

令和5年5月1日現在

校舎面積	大学キャンパス	設置基準※2
必置施設校舎	63,313m ²	-
なるべく設置校舎	567m ²	-
校舎面積 計	63,880m ²	14,760m ²
その他 建物面積	21,920m ²	
合 計	85,800m ²	

※2 大学設置基準第37条の2により必要とされる校舎面積

イ 講義室等

令和5年5月1日現在

大学設置基準 36条1項2号 施設			大学設置基準 36条4項 施設		
教員研究室	教室			なるべく施設	
	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設
251室	75室	114室	240室	12室	11室

ウ 体育施設

令和6年3月31日現在

運動施設等	面 積 (m ²)	主な用途	施設開放	貸出(件)	使用料(円)
第一体育館	1,400	バスケットボールコート2面設置可能	○	19	193,694
第二体育館	1,199	バレーボールコート2面設置可能	○	4	10,500
体育館附属棟	773	卓球台10台設置可能	○	1	4,875
武道場	575	柔道場1面、剣道場1面	-	-	-
トレーニングセンター棟	463	トレーニング	○	11	143,800
陸上競技場	-	400m 8レーン、100m 9レーン、全天候型	○	13	139,100
野球場	-	野球場1面	○	14	246,450
サッカー場・ラグビー場	-	サッカー場2面、ラグビー場1面	○	19	187,500
ハンドボール場	-	ハンドボール場2面	-	-	-
水泳プール	-	50m 9コース	-	-	-
テニスコート	-	全天候2面、クレー10面	○	1	20,000

(2) 耐震化等の整備状況

ア 耐震化の整備状況

主な改修施設	令和元年度末	
	総面積	耐震化率
大学	85,812m ²	100.0%
附属学校	43,289m ²	100.0%
附属幼稚園	913m ²	100.0%
附属名古屋小学校	7,232m ²	100.0%
附属岡崎小学校	7,014m ²	100.0%
附属名古屋中学校	7,569m ²	100.0%
附属岡崎中学校	6,546m ²	100.0%
附属高等学校	9,143m ²	100.0%
附属特別支援学校	4,716m ²	100.0%

本学の耐震化率については、以下の基準により耐震性能を満たす建物の割合（建物面積）を示している。

- ・昭和57年以降「新耐震基準」に基づき建設された建物
- ・昭和56年以前の「旧耐震基準」に基づき建設された建物で、耐震診断により耐震性が確認出来た建物
- ・耐震補強工事の実施により耐震性が確保された建物

イ 障害者支援設備 整備状況

令和6年3月31日現在

区分	達成率※3					
	身障者 トイレ	エレベーター ／車椅子用階 段昇降機／車 椅子用段差解 消機	スロープ	自動ドア	専用 駐車場	視覚障害者誘 導用ブロック
大学	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	65.0%	85.7%
附属学校	100.0%	25.0%	42.9%	42.9%	-	0.0%
合計	100.0%	85.7%	85.2%	84.6%	65.0%	57.1%

※3 達成率 大学：設置済建物数 ÷ 設置対象建物数 附属学校：設置済学校数 ÷ 設置対象学校数

(3) 自主的学習環境スペースの整備状況

令和6年3月31日現在

棟名	目的・用途		室名・設備状況	利用状況
第一共通棟	学習	休息	2F リフレッシュスペース	丸テーブル・椅子
	学習	休息	3F リフレッシュスペース	丸テーブル・椅子
		休息	1F 中庭ウッドデッキ	屋外テーブル・椅子
教育未来館	学習		教職大学院第1学生自習室	机、椅子、PC、プリンタ、無線LAN、ホワイトボード
	学習		教職大学院第2学生自習室	机、椅子、PC、プリンタ、無線LAN、ホワイトボード
	学習	休息	2F ホール	丸テーブル
附属図書館	学習		2F 閲覧スペース 28席 2F 学修スペース 193席 3F 閲覧スペース 154席 3F 学修スペース 36席	無線LAN 開館時間 月～金 9:00～22:00 or 9:00～17:00 土日祝 11:00～17:00
	学習	休息	2F 玄関入口ラウンジ	無線LAN、テーブル・椅子 飲食・ミーティング可能
		休息	玄関前広場	屋外テーブル・椅子
I C T 教育基盤センター	学習		2F 第1 PCルーム	PC 50台、無線LAN、ホワイトボード、机、椅子、プロジェクター、スクリーン 利用時間 8:30～17:00 (授業外自習)
	学習		3F 第2 PCルーム	無線LAN、ホワイトボード、机、椅子、プロジェクター、スクリーン 利用時間 8:30～17:00 (授業外自習)
	学習		3F 第3 PCルーム	PC 30台、無線LAN、ホワイトボード、机、椅子、プロジェクター、スクリーン 利用時間 8:30～17:00 (授業外自習)
	学習		3F 第4 PCルーム	無線LAN、ホワイトボード、机、椅子、プロジェクター、スクリーン 利用時間 8:30～17:00 (授業外自習)
大学会館	課外活動	休息	1F ホール	開館時間 9:00～20:00
第一福利施設		休息	くつろぎラウンジ	テーブル・椅子
教育交流館	学習		1F ラーニングコモンズⅢ	テーブル、椅子、ホワイトボード、プロジェクター、スクリーン
教育・人文棟	学習		1F コモンスペース	テーブル、椅子、ホワイトボード、無線LAN
自然科学棟	学習		1F ラーニングコモンズ、コモンスペース 2F ラーニングコモンズ レッスンスタディルーム 5F コモンスペース	テーブル、椅子、ホワイトボード、無線LAN
美術・技術・家政棟	学習		1F ラーニングコモンズ 2F ラーニングコモンズ 3F ラーニングコモンズ 4F ラーニングコモンズ	テーブル、椅子、ホワイトボード、無線LAN ワークブース (2Fのみ)
養護・幼児棟	学習		1F ラーニングコモンズ	テーブル、椅子、ホワイトボード、無線LAN

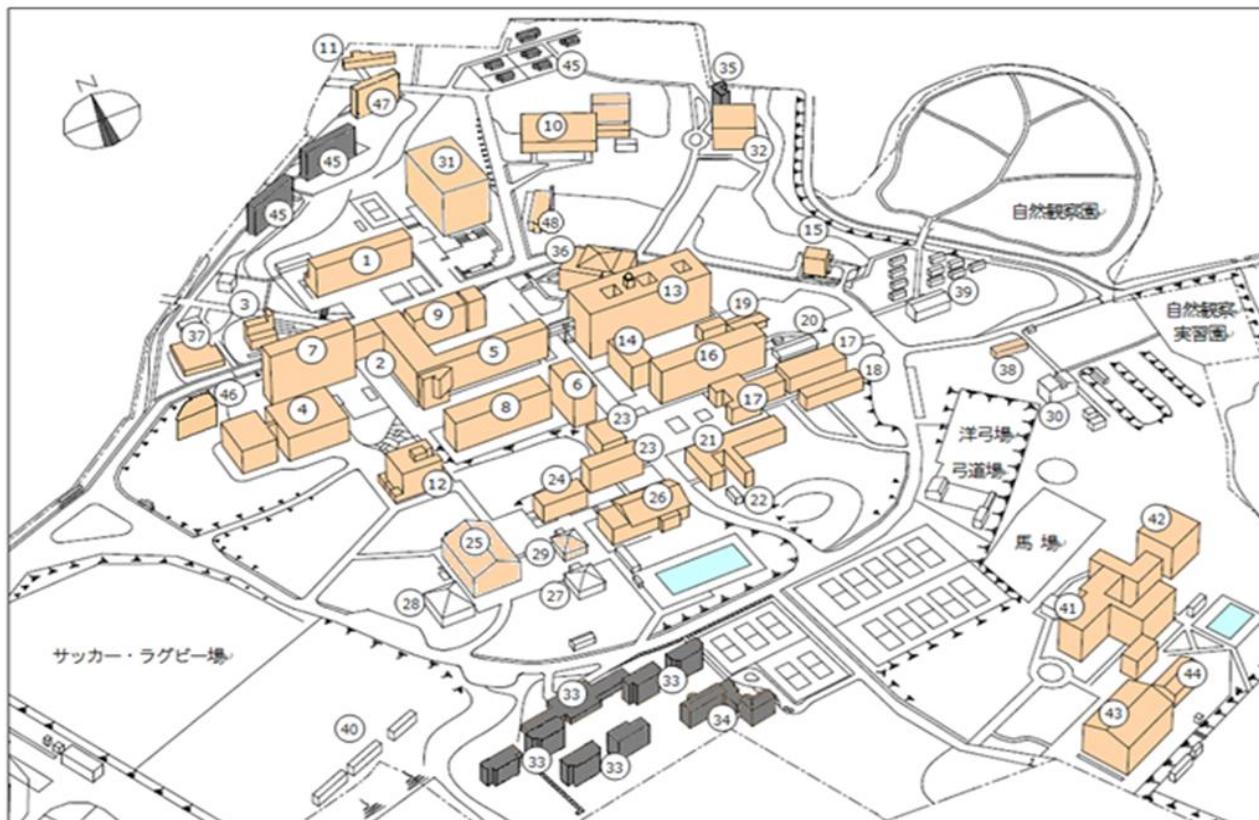
* 大学会館は、当面、特別支援教育棟等の工事に伴う教員研究室の代替、什器類の退避のため全面的に利用されており、学生へは和室2室のみ貸出している。

(4) ICT環境の整備状況

ア 学内情報ネットワークの状況

学内情報ネットワーク接続エリア配置図

令和6年3月31日現在



	接続エリア	民間回線
--	-------	------

1 本部棟	14 共同演習棟	27 武道場	39 文科系サークル棟
2 学生サポートセンター	15 共同実験実習棟	28 トレーニングセンター棟	40 運動系クラブハウス
3 健康支援センター	16 美術・技術・家政棟	29 体育館附属棟	41 附属高等学校校舎
4 附属図書館	17 美術・技術実習棟	30 教育実験実習棟	42 " 特別教室
5 第一共通棟	18 ものづくり実習棟	31 講堂	43 " 体育館
6 第二共通棟	19 技術第一実習棟	32 大学会館	44 " 武道場
7 教育・人文棟	20 技術第二実習棟	33 学生寮	45 職員住宅
8 教育支援棟I	21 音楽棟	34 国際交流会館	46 教育未来館
9 教育交流館	22 音楽練習棟	35 非常勤講師宿泊棟 (井ヶ谷荘)	47 國際教育棟
10 特別支援教育棟	23 養護・幼児棟	36 第一福利施設	48 次世代教育イノベーション棟
11 心理教育相談棟	24 保健体育棟	37 第二福利施設	
12 教育支援棟II	25 第一体育館	38 AUEセミナーハウス	
13 自然科学棟	26 第二体育館		

無線LANアクセスエリア

令和6年3月31日現在

棟名	室名	棟名	室名
1 本部棟	1 F 打合せ室	17 美術・技術実習棟	1 F 専門領域実習室(ガラス)
	3 F 第一会議室、第二会議室		2 F リフレッシュスペース
	第三会議室、第五会議室		図画工作実習室 I
4 附属図書館	2 F 本館、新館		図画工作実習室 II
	2 F ホール		専門領域実習室(美術史)
	2 F 自由閲覧室		専門領域実習室(美術共同)
	3 F 本館、新館		専門領域実習室(デザイン I)
5 第一共通棟	1 - 3 F 各教室		絵画実習室、共同演習室
	2 - 3 F リフレッシュスペース	21 音楽棟	1 F 音楽教育専門実習室
6 第二共通棟	1 - 3 F 各教室		オープンラウンジ
7 教育・人文棟	1 - 2 F 講義室		演奏室、合奏実習室、玄関ホール
	3 - 5 F オープンラボ		2 F 音楽教育専門実習室
8 教育支援棟I	1 F 演習室(101、117)		リフレッシュスペース、院生室
9 教育交流館	1 F アクティブラーニングスペース	23 養護・幼稚棟	1 F ラウンジ、コモンスペース
	2 F ALルーム、第1 PCJルーム		ラーニングコモンズ、共同演習室 I
	3 F 第2 PCJルーム、第3 PCJルーム		共同教材開発室 2、幼児保育実習室
	第4 PCJルーム		2 F リフレッシュスペース
10 特別支援教育棟	1 F 小ブレイルーム、中ブレイルーム		幼児教育専門演習室
	大ブレイルーム、多目的スペース		幼児教育専門講義室
	ラーニングコモンズ		養護教育実験実習室
	共同演習室(137、134、145)		共同演習室 II
	演習室(105、112)		3 F リフレッシュルーム
	2 F コモンスペース、共同演習室(225)	24 保健体育棟	1 F 保健体育講義室 1
	3 F 共同演習室(301、305)		大学院生室、多目的スタジオ
12 教育支援棟 II	1 F 小ブレイルーム、中ブレイルーム		2 F オープンラウンジ
	2 F コモンスペース、共同演習室(225)		保健体育講義室 2
	3 F 共同演習室(301、305)		保健体育専門演習室 1
	3 F 共同演習室(301、305)		保健体育専門演習室 2
13 自然科学棟	1 - 5 F リフレッシュスペース		3 F リフレッシュスペース
	1 F コモンスペース、ミーティングルーム	25 第一体育館	体育室
	サイエンスアクティビティルーム	31 講堂	ステージ、ホール
	科学・ものづくり教育推進センター訪問科学実験室	37 第二福利施設	2 F セミナー室
	2 F 化学系実験実習室、理科室(233、234)	38 AUEセミナーハウス	1 F セミナー室 1、セミナー室 2
	3 F 生態系実験実習室		2 F セミナー室 5
	4 F 地学系実験実習室、物理系実験実習室	41~44 附属高	校舎、特別教室、体育館、武道場
	5 F オープンスペース	46 教育未来館	1 - 3 F オープンコーナー
	演習室(511、512、515、516、518)		1 F プロジェクト研究室、会議室
14 共同演習棟	2 - 3 F 演習室		2 F 第一学生自習室、第二学生自習室
16 美術・技術・家政棟	1 - 4 F ラーニングコモンズ		多目的指導室、講義室 2 A
	1 F ギャラリー		3 F 共同大学院研究スペース
	2 - 4 F リフレッシュスペース		多目的ホール、講義室 3 A
	2 F 美術共同実習室 I 、美術共同実習室 II		講義室 3 B 、講義室 3 C
	共同実習室 I 、共同実習室 II	47 国際教育棟	1 F 外国人児童生徒支援リソースルーム
	共同実習室 III 、共同実習室(233)		2 F ラーニングコモンズ
	3 F 共同演習室(337)		指導者研修室、演習室 1
	4 F 共同演習室(437)		3 F 和室、和ダイニング、演習室 2
		48 次世代教育イノベーション棟	1 F AUEカキツバタホール

イ 学務ネット

「学務ネット」は教務情報を集約し、学生への連絡周知や修学支援を行うためのウェブシステムであり、2007年に導入され、いくつかの機能強化・改善を行って、現在の運用に至っている。

学務ネットの主な機能

機能一覧	
1 掲示	授業関連情報、休講情報、お知らせ情報が確認できる。
2 学籍情報照会	自身の氏名、生年月日、住所、電話番号、携帯番号、本籍地、指導教員の氏名などが確認できる。
3 履修登録	指定された期間内に、各学期で履修する授業を登録することができる。
4 学生時間割表	履修登録した自身の時間割表を閲覧できる。
5 教員時間割表	授業時間割に登録してある教員の時間割表を閲覧できる。
6 ファイル共有	学務ネットのマニュアル、授業時間割表、オフィス・アワー等の情報を閲覧できる。
7 シラバス照会	シラバス検索・閲覧ができる。
8 成績照会	自身の成績を閲覧できる。
9 授業アンケート実施	授業アンケートへの回答ができる。

ウ まなびネット

「まなびネット」は、moodle(ムードル)を利用した授業運営と学生への修学支援を目的としたウェブシステムで、「学務ネット」と同じく、学生及び教職員は、ユーザ認証により学内外から「まなびネット」にアクセスすることができる。教材や資料、動画の掲載、レポート課題を課すことや課題の提出・回収、小テストの実施、採点及びコメントをすることができる。

2 中期的視点における施設整備計画

以下の別添資料を参照

- ・愛知教育大学 キャンパスマスターPLAN2022
- ・愛知教育大学 インフラ長寿命化計画（行動計画）（令和3年度～令和7年度）
- ・愛知教育大学 インフラ長寿命化計画（個別施設計画 2022）

3 その他の施設・設備

ア 講堂

	主な設備		主な用途
施設内容	(1階)	ステージ、ホール、ロビー、映写室、会議室	式典、講演会、演奏会等
	(中2階)	音響室、調光室	
	(2階)	ホール、ロビー、休憩室、サイドスポット室	
収容定員	ホール 1218席 (1階936席、2階282席) / 会議室 24席		

イ 大学会館

	主な設備		主な用途
施設内容	大集会室 (2階)	舞台・音響・照明等、机、椅子	講演会、演奏会等
	学生支援スペース (2階)	机、椅子	諸会議、研究会、学習会等
	和室 (2階)	炉 (15畳2間)	茶道、舞踊、諸会議、研究会、学習等
収容定員	大集会室 300人 / 学生支援スペース 72人 / 和室 48人		

ウ 福利施設

	主な設備
第一福利施設	購買、書籍、旅行サービス、食堂、生協本部
第二福利施設	食堂

エ 課外活動施設等

	主な設備	主な用途
体育系クラブハウス	21室	クラブ・サークル活動における集会等
文化系クラブハウス	36室	クラブ・サークル活動における集会等
文化系サークル棟	共同制作室 (180m ²)、練習室(大)(60m ²)、練習室(小)(8m ²)	クラブ・サークル活動における印刷、集会、練習等
弓道場	射場(91m ²)、的場からの安土まで28m	弓道の練習及び大会会場、集会等
洋弓場	倉庫(10m ²)一面芝生、的場からの安土まで最大90m	洋弓の練習及び大会会場、集会等
馬 場	厩舎(74m ²) (馬4頭収容可)、部室(10m ²)、馬用の洗場	馬術の練習及び馬の飼育、集会等

オ AUEセミナーハウス

所在地	愛知県刈谷市井ヶ谷町広沢1 (愛知教育大学キャンパス内)
施設内容	セミナー室1、セミナー室4 (15.83m ²)、セミナー室2、セミナー室5 (14.91m ²)、セミナー室3、セミナー室6 (20.79m ²)、キッチン、洗面・WC、シャワー室、脱衣室
収容定員	40人

カ 井ヶ谷荘

所在地	愛知県刈谷市井ヶ谷町広沢1 (愛知教育大学キャンパス内)
施設内容	宿泊室: 和室 (10畳) 定員3人2室、洋室 (9m ²) 定員1人3室 その他: 談話室、浴室、便所、洗面所
宿泊定員	9人
使用料	1人1泊 2,500円 (1階和室を2名以下で使用時は1人1泊3,500円)

令和5年度の利用状況

	延べ利用者数	利用率	施設稼働率
AUEセミナーハウス	14614	89.7%	110.7%
井ヶ谷荘	398人	37.4%	13.4%

* 利用率 = 利用日数 ÷ 利用可能日数 × 100

* 施設稼働率 = 延べ利用者数 ÷ (収容定員 × 利用可能日数) × 100

キ 学生寮

学生寮入居状況

令和5年5月1日現在

区分	施設規模		入居状況		利用率	
	部屋数 a	収容定員 b	入居部屋数 A	入居者数 B	部屋利用率 A / a	定員充足率 B / b
合計	192室	192人	192室	192人	100.0%	100.0%
男子寮	64室	64人	64室	64人	100.0%	100.0%
A棟	32室	32人	32室	32人	100.0%	100.0%
B棟	32室	32人	32室	32人	100.0%	100.0%
女子寮	128室	128人	128室	128人	100.0%	100.0%
C棟	32室	32人	32室	32人	100.0%	100.0%
D棟	32室	32人	32室	32人	100.0%	100.0%
E棟	32室	32人	32室	32人	100.0%	100.0%
F棟	32室	32人	32室	32人	100.0%	100.0%

	A棟	B棟	C棟	D棟	E棟	F棟
構造／間取り	全棟共通： 鉄筋4階建／洋間 14m ² （約8.5畳） 設備部分含。					
建築年	1970年 (2013年改修)	1969年 (2014年改修)	1969年 (2015年改修)	1969年 (2013年改修)	1970年 (2014年改修)	2012年
居住可能学生	男子	男子	女子	女子	女子	女子
寮費（1人部屋）	22010円	22010円	22010円	22010円	22010円	22010円

* 全棟1人部屋

* 寮費には、共益費、光熱水料等を含む。ただし、NHK受信料、インターネット使用料は除く。

ク 國際交流会館

国際交流会館入居状況

令和5年5月1日現在

区分	施設規模		入居状況		利用率	
	部屋数 a	収容定員 b	入居部屋数 A	入居者数 B	部屋利用率 A / a	定員充足率 B / b
合計	30室	42人	20室	23人	66.7%	54.8%
単身棟	24室	24人	16室	16人	66.7%	66.7%
留学生	20室	20人	14室	14人	70.0%	70.0%
研究者	2室	2人	0室	0人	0.0%	0.0%
日本人チューター	2室	2人	2室	2人	100.0%	100.0%
夫婦家族棟	6室	18人	4室	7人	66.7%	38.9%
夫婦室	3室	6人	2室	2人	66.7%	33.3%
家族室	3室	12人	2室	5人	66.7%	41.7%

* 建築年 1998年（平成10年） 鉄筋3階建て

* 使用料（光熱費等経費を除く）

●留学生 寄宿料（月額）

単身室 ¥4,700

夫婦室 ¥11,900

家族室 ¥14,200

●研究者 使用料（月額）

単身室 ¥7,927

夫婦室 ¥16,753

家族室 ¥22,809

ヶ 国際教育棟

国際教育棟入居状況

令和5年5月1日現在

区分	施設規模		入居状況		利用率	
	部屋数 a	収容定員 b	入居部屋数 A	入居者数 B	部屋利用率 A / a	定員充足率 B / b
合計	16 室	16 人	16 室	15 人	100.0%	93.8%
男子フロア	8 室	8 人	8 室	7 人	100.0%	87.5%
日本人学生	4 室	4 人	2 室	2 人	50.0%	50.0%
外国人留学生	4 室	4 人	5 室	5 人	125.0%	125.0%
女子フロア	8 室	8 人	8 室	8 人	100.0%	100.0%
日本人学生	4 室	4 人	4 室	4 人	100.0%	100.0%
外国人留学生	4 室	4 人	4 室	4 人	100.0%	100.0%

	男子フロア	女子フロア
構造／間取り	鉄筋5階建／洋間 11m ² （約7畳）／キッチン・バス・シャワー・トイレ共用	
建築年	令和2年(2020年)	
居住可能学生	日本人学生　　外国人留学生　　日本人学生　　外国人留学生	
寮費（1人部屋）	21,000 円	

コ 自然観察実習園

令和5年度 利用実績

区分	講座等	使用責任者	目的	申込面積 (m ²)	使用面積 (m ²)
畠	理科教育	加藤淳太郎	植物生活実験及び卒論実験用植物の維持管理	100	100
	幼児教育	鈴木裕子	幼児教育選修、保育内容研究、環境	50	50
	理科教育	渡邊幹男	研究材料のアブラナ科等の植物栽培	100	100
	附属幼稚園	馬越恵子	自然に親しむ（サツマイモ、ジャガイモ）	100	100
	技術教育	太田弘一	畠作物（夏・秋・冬）、鉢物栽培、ミツバチ巣箱	100	100

生産物の販売実績

各年度 3月31日現在

品名	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	販売量	販売収益 (円)	販売量	販売収益 (円)	販売量	販売収益 (円)	販売量	販売収益 (円)
さつまいも	50 kg	18,000	48 kg	22,560	25kg	7,750	48kg	18,720
じゃがいも	37.5 kg	8,250	140.0kg	44,800	60kg	14,760	150kg	37,800
玄米	-	-	-	-	-	-	25袋	39,450
大根	79	7,900	98	5,850	-	-	149本	17,880
なす	-	-	-	-	-	-	-	-
切り干し大根	-	-	-	-	-	-	123袋	24,600
ブロッコリー	15個	900	-	-	-	-	-	-
もち米（1.4kg入り）	102袋	45,900	159袋	90,530	200袋	114,000	197袋	88,650
キヤベツ	8個	480	-	-	-	-	-	-
タマネギ	172 kg	25,800	-	-	-	-	140kg	21,000
合計		81,430		163,740		136,510		248,100

サ 生駒野外実習地

生産物の販売実績

各年度 3月31日現在

品名	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	販売量	販売収益 (円)	販売量	販売収益 (円)	販売量	販売収益 (円)	販売量	販売収益 (円)
玄米	-	-	-	-	-	-	-	-
じゃがいも	34kg	7,480	-	-	-	-	159kg	39,750
さつまいも	-	-	-	-	-	-	61kg	27,450
合計		7,480		0		0		67,200

第11章 財務状況

別添資料「令和5事業年度財務諸表」を参照

第12章 自己点検評価及び教育情報の公表

1 自己点検評価

本学ウェブサイト参照（各中期目標期間の「自己点検評価」）

<https://www.aichi-edu.ac.jp/intro/corporative/hyoka.html>

2 評価結果に対する改善

【第3期中期目標期間（平成28～令和3年度）の指摘事項の改善状況等】

本学ウェブサイト参照（第3期中期目標期間の各表中「指摘事項の改善状況」）

- 法人評価 https://www.aichi-edu.ac.jp/intro/files/kaizen-houjin_h28-r3_20240422.pdf
- 自己点検評価 https://www.aichi-edu.ac.jp/intro/files/kaizen-jikotenken_h28-r3_20230609.pdf
- 認証評価 https://www.aichi-edu.ac.jp/intro/files/ninsyou_kaizen_20240422.pdf

3 教育情報の公表状況

学校教育法施行規則第172条の2に基づく教育情報

本学ウェブサイト参照

https://www.aichi-edu.ac.jp/intro/release/edu_info.html

第13章 危機管理

1 危機管理に対する整備状況

(1) 防災ハンドブック

本学ウェブサイト参照

https://www.aichi-edu.ac.jp/campus/student/jishin_bousai.html

(2) 緊急地震速報システム

設置状況	大学構内、全ての附属学校に2012年3月に設置
作動概要	気象庁から発信する緊急地震速報を基に、緊急地震速報システム契約会社において地震が到達する時間と震度が計算されたものを大学の地震速報受信機が受信し、大学構内及び各附属学校的放送設備から「緊急地震速報」が放送される。なお、本受信機は、震度5弱以上の地震に対して放送が流れよう設定している。

(3) 安否確認システム

設置状況	2013年3月から運用開始
概要	市販されている安否確認サービスを利用し、有事の際に、事前に登録している学生、教職員個人のパソコン、携帯電話などのメールアドレス等に対して安否確認連絡が配信され、学生、教職員が受信したメール等から安否状況を登録することにより、全構成員の安否確認を行う仕組みである。